

## 川島遺跡(第2次)ほか発掘調査報告

川島遺跡 東久保北浦遺跡 魚見下起遺跡

～三重県松阪市川島町・東久保町・魚見町所在～

2004(平成16)年3月

三重県埋蔵文化財センター

# 序

川島遺跡・東久保北浦遺跡・魚見下起遺跡は松阪市川島町・東久保町・魚見町に所在しています。

今回報告いたします川島遺跡・東久保北浦遺跡・魚見下起遺跡は、櫛田川の下流右岸に位置し、平成13年度県営ほ場整備事業および平成13年度東黒部早馬瀬線道路整備事業に伴って調査を行ったものです。川島遺跡の発掘調査は平成12年度に続いて2度目になります。以前の調査では、奈良時代や平安時代の遺構のほか、主に中世の遺構や遺物が確認されています。今回の調査でも中世の溝などが確認され、この時期の遺物も数多く出土しました。残念ながら今回は、中世に当地に存在したとされる宏徳寺に関連すると思われる遺構などは確認できていませんが、2年間にわたってこの地域での発掘調査の成果は、この地域の歴史を考えていく上で大切な資料になると考えます。

しかし、一方でこのような遺跡が記録保存という形でしか残せないことは、誠に残念というほかありません。これまでに得られた成果をどのように活用していくかが、わたくしの今後の重要な課題であると考えております。

調査にあたっては、地元の方々をはじめ、松阪市教育委員会、三重県農林水産商工部農業基盤整備課および県土整備部道路整備課、松阪地方県民局農林商工部、機関下地区土地改良区などの関係諸機関から多大なご協力と暖かいご配慮を頂きました。文末になりましたが、心より厚く御礼申し上げます。

2004年3月

三重県埋蔵文化財センター

所長 吉水康夫



## 例　　言

- 1 本書は、三重県松阪市川島町・東久保町・魚見町に所在する川島遺跡・東久保北浦遺跡・魚見下起遺跡の発掘調査にかかる報告書である。なお、川島遺跡については平成12年度調査に引き続き第2次調査となる。
- 2 本遺跡の調査は平成13年度県営ほ場整備事業（機殿下地区）・平成13年度東黒部早馬瀬線道路整備事業に併し、三重県教育委員会が三重県農林水産商工部および県土整備部から経費の執行委任を受けて実施した。
- 3 平成13年度調査および整理は次の体制により実施した。

調査主体 三重県教育委員会  
調査担当 三重県埋蔵文化財センター 調査第一課  
主事 柴山 圭子  
技術補助員 豊田 祥三  
技術補助員 山岡 奈美恵  
研修員 新庄 孝敏  
土工担当 (財)三重県農林水産支援センター  
調査期間 平成13年7月2日～平成14年3月4日  
調査面積 4,100 m<sup>2</sup>

- 4 調査にあたっては、地元の方々をはじめ、三重県農林水産商工部農業基盤整備課、三重県県土整備部道路整備課、松阪地方県民局農林商工部、機殿下土地改良区、松阪市教育委員会からの協力を得た。
- 5 報告書作成にあたっては、青木哲哉氏（立命館大学）・伊藤裕偉氏・小濱 学氏（斎宮歴史博物館）・小林俊之氏（美杉村教育委員会）から有益な御教示を得た。
- 6 当報告書の作成業務は、三重県埋蔵文化財センター調査第一課および資料普及グループが行った。また、本文の執筆・写真撮影・全体の編集は柴山が行った。  
「V 自然科学分析」は、(株)パリノサークルの分析報告による。
- 7 本書の遺構図面は、日本測地系による国土調査法（旧国士座標）の第VI座標系を基準とする座標北を用いた。
- 8 拝団と写真図版の遺物番号は、実測図の番号と対応している。なお、写真図版は縮尺不同である。
- 9 本報告書での用語は、以下のとおり統一した。  
わん……………「椀」「碗」があるが、「椀」を用いた。  
つき……………「杯」「抔」があるが、「杯」を用いた。
- 10 本報告書での川島遺跡の遺構番号は第1次調査からの通番となっている。今回の調査は遺構番号201から付している。東久保北浦遺跡および魚見下起遺跡についてはいずれも遺構番号1から付した。また、番号の頭には、見た目の性格によって以下の略記号を付けた。  
SD : 溝      SR : 流路      SB : 掘立柱建物      SK : 土坑  
SE : 井戸      SZ : 落ち込み、不明遺構など      p i t : ピット、柱穴
- 11 当発掘調査の記録および出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターで保管している。

# 本文目次

I 前 言.....	1	
II 位置と歴史的環境.....	4	
III 調査の成果～層位と遺構～.....	8	
1 川島遺跡		
(1) 門前Ⅰ地区.....	8	
(2) 門前Ⅱ地区.....	8	
(3) 門前Ⅲ地区.....	8	
(4) 門前Ⅳ地区 .....	15	
(5) 門前Ⅴ地区 .....	17	
(6) 門前Ⅶ地区 .....	17	
(7) 塩角Ⅳ地区 .....	17	
(8) 奥垣内Ⅴ地区 .....	27	
(9) 奥垣内Ⅵ地区 .....	27	
(10) 道場Ⅲ地区 .....	27	
(11) 道場Ⅳ地区 .....	50	
2 東久保北浦遺跡 .....	50	
3 魚見下起遺跡 .....	50	
IV 調査の成果～出土遺物～ .....	54	
1 川島遺跡		
(1) 門前Ⅰ地区出土の遺物 .....	54	
(2) 門前Ⅱ地区出土の遺物 .....	54	
(3) 門前Ⅲ地区出土の遺物 .....	55	
(4) 門前Ⅳ地区出土の遺物 .....	55	
(5) 門前Ⅴ地区出土の遺物 .....	55	
(6) 門前Ⅶ地区出土の遺物 .....	56	
(7) 奥垣内Ⅴ地区出土の遺物 .....	57	
(8) 奥垣内Ⅵ地区出土の遺物 .....	58	
2 魚見下起遺跡 .....	58	
V 自然科学分析 出土須恵器中の火葬骨 .....	(パリノサーヴェイ株式会社) .....	80
VI 結 語 .....	82	

## 挿図目次

第 1 図 遺跡位置図	5	第28図 塩角IV地区土層断面図①	34
第 2 図 調査区位置図①	6	第29図 塩角IV地区土層断面図②	35
第 3 図 調査区位置図②	7	第30図 奥垣内V地区遺構平面図①	36
第 4 図 門前 I 地区遺構平面図①	9	第31図 奥垣内V地区遺構平面図②	37
第 5 図 門前 I 地区遺構平面図②	10	第32図 奥垣内V地区土層断面図	38
第 6 図 門前 I 地区遺構平面図③	11	第33図 S D279遺物出土状況図	39
第 7 図 門前 I 地区土層断面図①	12	第34図 奥垣内VI地区遺構平面図	40
第 8 図 門前 I 地区土層断面図②	13	第35図 奥垣内VI地区土層断面図	41
第 9 図 S E237平面図, 土層断面図	14	第36図 道場Ⅲ地区平面図, 土層断面図	42
第10図 S E241平面図, 土層断面図	15	第37図 道場IV地区平面図, 土層断面図	43
第11図 S D243遺物出土状況図	16	第38図 魚見下起遺跡 I 地区遺構平面図	44
第12図 門前 II 地区遺構平面図①	18	第39図 魚見下起遺跡 I 地区土層断面図	45
第13図 門前 II 地区遺構平面図②	19	第40図 魚見下起遺跡 II 地区遺構平面図	46
第14図 門前 II 地区土層断面図①	20	第41図 魚見下起遺跡 II 地区土層断面図	47
第15図 門前 II 地区土層断面図②	21	第42図 東久保北浦遺跡遺構平面図	48
第16図 門前 III 地区平面図, 土層断面図	22	第43図 東久保北浦遺跡土層断面図	49
第17図 門前 IV A 地区遺構平面図	23	第44図 門前 I 地区出土遺物実測図	59
第18図 門前 IV A 地区土層断面図	24	第45図 門前 I・II 地区出土遺物実測図	60
第19図 門前 IV B 地区遺構平面図	25	第46図 門前 III・IV 地区出土遺物実測図	61
第20図 門前 IV B 地区土層断面図	26	第47図 門前 IV・V 地区出土遺物実測図	62
第21図 S K258遺物出土状況図	27	第48図 門前 V 地区出土遺物実測図	63
第22図 門前 V 地区遺構平面図	28	第49図 門前 V・VII 地区出土遺物実測図	64
第23図 門前 V 地区土層断面図	29	第50図 門前 VII地区出土遺物実測図	65
第24図 門前 VI 地区遺構平面図	30	第51図 奥垣内V地区出土遺物実測図	66
第25図 門前 VII 地区土層断面図	31	第52図 奥垣内V地区出土遺物実測図	67
第26図 塩角IV地区遺構平面図①	32	第53図 奥垣内V・VI地区出土遺物実測図	68
第27図 塩角IV地区遺構平面図②	33	第54図 魚見下起遺跡出土遺物実測図	69

## 表目次

第1表 川島遺跡遺構一覧表①	51	第10表 川島遺跡出土遺物観察表⑤	74
第2表 川島遺跡遺構一覧表②	52	第11表 川島遺跡出土遺物観察表⑥	75
第3表 川島遺跡遺構一覧表③	53	第12表 川島遺跡出土遺物観察表⑦	76
第4表 魚見下起遺跡遺構一覧表	53	第13表 川島遺跡出土遺物観察表⑧	77
第5表 東久保北浦遺跡遺構一覧表	53	第14表 川島遺跡出土遺物観察表⑨	78
第6表 川島遺跡出土遺物観察表①	70	第15表 魚見下起遺跡出土遺物観察表	79
第7表 川島遺跡出土遺物観察表②	71	第16表 門前I地区の出土人骨同定結果	82
第8表 川島遺跡出土遺物観察表③	72	第17表 陶器供膳具産地別集計表	83
第9表 川島遺跡出土遺物観察表④	73		

## 写真目次

図版1 門前I地区調査前風景・全景	85	図版14 奥垣内VI地区全景	98
図版2 門前I地区南側全景・S E241	86	図版15 魚見下起遺跡I地区調査前風景 ・全景	99
図版3 S E237	87	図版16 魚見下起遺跡II地区調査前風景 ・全景	100
図版4 門前II地区調査前風景・全景	88	図版17 出土遺物①	101
図版5 門前III地区調査前風景・全景	89	図版18 出土遺物②	102
図版6 門前III地区d 3 p i t 1出土状況 ・門前IV A地区全景	90	図版19 出土遺物③	103
図版7 門前IV B地区全景 ・門前V地区調査前風景	91	図版20 出土遺物④	104
図版8 門前V地区全景 ・門前VII地区調査前風景	92	図版21 出土遺物⑤	105
図版9 門前VII地区全景・北側全景	93	図版22 出土遺物⑥	106
図版10 塩角IV地区調査前風景・全景	94	図版23 出土遺物⑦	107
図版11 塩角IV地区南側全景・西側全景	95	図版24 出土遺物⑧	108
図版12 奥垣内V地区調査前風景・全景	96	図版25 出土遺物⑨	109
図版13 S D279出土状況 ・奥垣内VI地区調査前風景	97	図版26 出土遺物⑩	110
		図版27 出土遺物⑪	111
		図版28 出土遺物⑫	112

# I 前 言

## 1 調査の契機

今回の発掘調査は、平成13年度県営ほ場整備事業（横戸下地区）および平成13年度東黒部早馬漸線道路整備事業に伴い実施した。川島遺跡は松阪市遺跡番号834、東久保北浦遺跡は835、魚見下起遺跡は遺跡番号837の周知の埋蔵文化財包蔵地である。川島遺跡では、平成12年度に県営ほ場整備事業に伴い発掘調査が行われ、室町時代の掘立柱建物や井戸などが検出されている。

また、今回の調査に先立ち平成12年度に範囲確認調査を実施した。その結果、事業予定地の25,800m<sup>2</sup>については遺構の存在が確認された。

これを受け、県農林水産部、県道路整備部と文化財保護の協議を重ねてきた。その結果、遺跡が破壊される4,100m<sup>2</sup>について本調査を実施することになった。

## 2 調査の経過

### （1）調査経過概要

調査区の名称は、川島遺跡内の10ヶ所については『川島遺跡群（第1次）発掘調査報告』に準じて、字母名とローマ数字とで表わした。各地区の詳しい名称は後述する。調査期間は平成13年7月2日～平成14年3月4日である。詳細については「調査日誌（抄）」を参照されたい。

なお、8カ月にわたり調査にご協力いただいた作業員の方々のご芳名をここに記し、感謝の意を表す。

北野ふみ子、小島芳郎、鈴木啓二、津谷 勇、

中川一美、中川公子、中川幸子、中川たか子、

中川二夫、中川凱子、中川初枝、中川 満、

中川美代子、溝田常青、溝田平藏、横井 武

（五十音順、敬称略）

### （2）調査日誌（抄）

6月11日 現場確認、協議。土地改良区・松阪農林・工事業者・農林水産支援センター・埋蔵文化財センターの5者。

6月27日 ハウス設置、重機搬入。

- |       |  |
|-------|--|
| 7月2日  | 門前Ⅲ地区的表土掘削開始。  |
| 7月4日  | 門前Ⅳ地区的県道を挟んで東側の地区を優先してほしい旨、改良区から申し入れがあり、今日から表土掘削を開始する。検出面が非常にわかりにくい。           |
| 7月5日  | 本日、作業員投入。門前Ⅲ地区の人力掘削を行う。ピットからロクロ土師器や山茶碗などが出土。何度か検出を試みるが遺構の輪郭がはっきりしない。           |
| 7月6日  | 門前Ⅳ地区東の表土掘削引き続き行う。   |
| 7月10日 | 平面の観察で堅穴住居と判断していたSH202が、掘削を進めていく途中でそうではないことが判明したため、SD202と改称。                   |
| 7月19日 | 門前Ⅳ地区的全景写真撮影を東西2方向から行う。  |
| 7月23日 | 門前Ⅲ地区的清掃、写真撮影。   |
| 7月24日 | 8人の応援を得て、Ⅲ・Ⅳ地区的調査区実測および土層断面実測。   |
| 7月26日 | 門前Ⅳ地区的引渡し。   |
| 7月27日 | V地区の表土掘削を開始する。   |
| 8月1日  | 猛暑！作業進まず。  |
| 8月3日  | 門前V地区作業員投入。  |
| 8月3日  | V地区、清掃・写真撮影。東西2方向から行う。作業員本日より長期休暇に入るため、ブレハブ周辺草刈および道具の片付け。                      |
| 8月6日  | V地区を平板で実測（1/100）。実測終了後、4ヶ所で下層確認調査を行う。いずれも砂層が高く堆積し、途中湧水のため、それ以上の確認はできなかつた。調査終了。 |
| 8月7日  | V地区引渡し。  |
| 8月17日 | 門前Ⅱ地区的表土掘削を開始する。   |
| 8月20日 | 台風11号接近中。台風対策を行う。  |
| 8月21日 | 台風11号、三重県上陸。現場中止。  |

- 8月27日 一週間ぶりに水が引き、II地区の表土掘削を再開する。
- 9月5日 土層実測。  
V地区で検出した流路の続きと数条の溝のみ検出。遺物量少ない。
- 9月6日 V地区の清掃・写真撮影。
- 9月7日 立命館大学 青木氏来訪。降雨の中、土層観察をしていただく。II地区の北側が後背湿地、小地区 b 30周辺の礫混じり埋土の部分が旧河道、南側は微高地であると考えられる旨、御教示いただく。
- 9月10日 台風15号の影響で大雨。現場中止。
- 9月17日 一週間排水作業などに費やされ、やっと現場復旧。
- 9月18日 II地区の平板実測（1/100）。
- 9月21日 門前II地区引渡し。
- 9月25日 東久保北浦遺跡の表土掘削開始。遺物少量。
- 9月27日 清掃・写真撮影。土層断面実測。
- 10月2日 昨日の雨で埋まってしまった遺構の清掃後、平板実測（1/100）。強風の中の実測で体力消耗。
- 10月3日 川島遺跡門前I地区の表土掘削開始。南端に安定した検出面。ピット確認。
- 10月4日 東久保北浦遺跡引渡し。  
門前I地区の表土掘削継続。調査区中央あたりは後背湿地か。北側で遺物量増加。再度安定した検出面が現れる。須恵器壺出土。中に動物の骨片らしきもの確認。
- 10月10日 台風並みの大雨。現場作業中止。
- 10月15日 現場復旧。遺構検出・掘削。
- 10月24日 SK237が石組井戸になることが判明。  
SD243内から山茶楓・南伊勢系の土師器皿など完形の遺物が多数出土。  
SE241は素掘りの井戸。
- 10月26日 I地区の清掃・写真撮影。  
個別の遺構実測。
- 11月1日 5人の応援を得て、I地区の遺構実測・土層断面実測（1/20）。  
門前IV地区的県道を挟んで西側の表土掘削開始。
- 11月6日 門前I地区、SK237・SE241の断ち割りと実測。SE241の底部付近でこぶし大くらいの石および鍋・羽釜・山茶楓など多数確認。
- 11月7日 門前VI地区は、表土の掘削のみで工事ができるということで、協議の上、表土掘削の立会い。問題がないようなので写真撮影後県農林水産商工部に引き渡す。
- 11月8日 門前IV地区遺構検出・掘削。  
青木氏来訪。本日より2日間の日程で門前I地区の土層観察をしていただく。
- 11月13日 門前I地区の引渡し。今後の日程協議。  
門前IV地区遺構掘削継続。
- 11月15日 清掃・全景写真撮影。
- 11月19日 IV地区の遺構平面実測（1/20）。
- 11月20日 IV地区土層断面実測。  
塩角IV地区表土掘削開始。
- 11月22日 門前IV地区引渡し。  
塩角IV地区表土掘削継続。明確な遺構確認できず。旧耕作土、旧床土が何層にも重なる。
- 12月5日 塩角IV地区の清掃・全景写真撮影。
- 12月7日 遺構実測（1/20・1/50・1/100）。  
土層実測。
- 12月11日 塩角IV地区引渡し。  
奥垣内V地区表土掘削開始。
- 12月18日 V地区的遺構検出・掘削。SD279から土師器鍋・羽釜など多数出土。
- 12月20日 清掃・全景写真撮影。SD279遺物取上げ、掘削。
- 12月28日 奥垣内V地区引渡し。  
平成13年の仕事納め。
- 1月7日 奥垣内VI地区表土掘削開始。
- 1月9日 清掃・調査区全景写真撮影。
- 1月10日 VI地区遺構平面実測（1/20/・1/50）。  
道場IV地区的立会い。
- 1月11日 魚見下起遺跡協議。
- 1月17日 道場III地区的立会い。  
IV地区的平板実測・土層断面実測。
- 1月18日 道場IV地区引渡し。

- 1月24日 道場Ⅲ地区引渡し。  
魚見下越遺跡Ⅰ地区、表土掘削開始。
- 1月30日 清掃・写真撮影。
- 2月1日 遺構平面実測（1/50）。  
川島遺跡門前Ⅶ地区の表土掘削開始。  
調査区全体が現水田面からの盛土である。近世の瓦片・土器片などが出土。
- 2月5日 遺構検出・掘削。
- 2月7日 SK298から土師器の壺が出土。壺の中から土師器の皿がほぼ1個体分出てくる。  
清掃・写真撮影。
- 2月18日 魚見下起遺跡Ⅱ地区の表土掘削開始。
- 2月19日 遺構検出・掘削。
- 2月20日 調査区清掃・写真撮影。
- 2月21日 作業員本日で全作業終了。  
遺構平面実測（1/50）。
- 2月25日 現場事務所片付け。道具撤収。

### 3 調査区名

川島遺跡における各調査区の名称は、川島遺跡群（第1次）発掘調査報告に準じて付した。調査区ごとに字を冠し、同じ字で複数の調査区が存在する場合はローマ数字（Ⅰ・Ⅱ…）を付した。なお、第1次調査と同様の字の付く調査区は、通番でローマ数字を付した。

本報告の川島遺跡調査区は全12地区である。詳細は以下の通りである。

門前（Ⅰ～Ⅶ）地区

奥垣内（V・VI）地区

塩角IV地区

道場（Ⅲ・Ⅳ）地区

また、魚見下起遺跡の2地区についてもローマ数字を使用して、Ⅰ地区・Ⅱ地区とした。東久保北浦遺跡については1調査区である。

### 4 調査の方法

調査区の現況は水田や畑地である。掘削は表土について重機で行った。それ以外は人力による掘削である。

今回の調査区は、東西・南北に細長いものがほとんどであることから、4m四方の小地区は調査区に

沿って設定した。調査区が屈曲する場所についても同様に設定したため、4m四方の方眼が重複しているところもある。距離の長いほうに数字、短いほうにアルファベットを与え、各北西の杭を小地区的名称とした。設定は、国土座標とは無関係であり、任意である。

調査区の平面図は遺構密度により1/100（平板実測）、1/50、1/20で、土層断面図は1/20で作成した。また、出土遺物を伴う主な遺構については、原則的に1/10で作成した。

### 5 文化財保護法等にかかる諸通知

文化財保護法（以下、「法」）等にかかる諸通知は、以下により行っている。

・法に基づく三重県文化財保護条例第48条第1項  
(県教育長宛)

平成12年5月26日付農基第275号

・遺失物法にかかる文化財発見・認定通知

(松阪市警察署長宛)

平成13年2月1日付教生第229-15号（県教育長通知）

## II 位置と歴史的環境

川島遺跡(1)・東久保北浦遺跡(2)・魚見下起遺跡(3)は、三重県松阪市川島町・東久保町・魚見町に所在する。松阪市東部の柳田川下流域右岸の沖積平野に位置している。

ここでは柳田川下流域とその周辺で、今回の調査に関連する主な遺跡について概述する。詳細な歴史的環境については『川島遺跡群(第1次)発掘調査報告』<sup>①</sup>に記載されているのでそれを参照されたい。

古墳時代には柳田川の左岸と右岸との2つの地域に南勢地方でも比較的大きな古墳地帯が形成されている。

左岸の前期古墳としては、流域からはやや西方に位置する久保古墳(13)や茶臼山古墳(14)、坊山1号墳(15)などが挙げられる。特に茶臼山古墳は、明治年間の地籍図によると周濠が推定できる径55mの大円墳であったとされている。坊山1号墳は掘削から出土した円筒埴輪棺から、この時期のものと考えられている<sup>②</sup>。

左岸流域のこの時期の遺跡としては、瀬干遺跡<sup>③</sup>(16)、琵琶垣内遺跡<sup>④</sup>(9)が挙げられる。瀬干遺跡では、前期前葉の方形周溝墓が6基確認されている。また、琵琶垣内遺跡では竪穴住居が2棟検出されている<sup>⑤</sup>。

一方右岸では、古春通りB遺跡(17)がある。豪族祭祀に関わると見られる掘立柱建物と井戸が検出されている<sup>⑥</sup>。

この柳田川流域では、近年当該時期の遺跡が見つかっており、今後も増加が見込まれる。

古代では、祓川東岸に形成される斎宮跡(5)がある。昭和45年度より継続的に発掘調査が行われており方格地割や古道、掘立柱建物群や様々な遺構が検出されている。

左岸には堀町遺跡(10)がある。大量の土器や木製品のほかに、祭祀的色合いの強い斎弔も見つかっている。

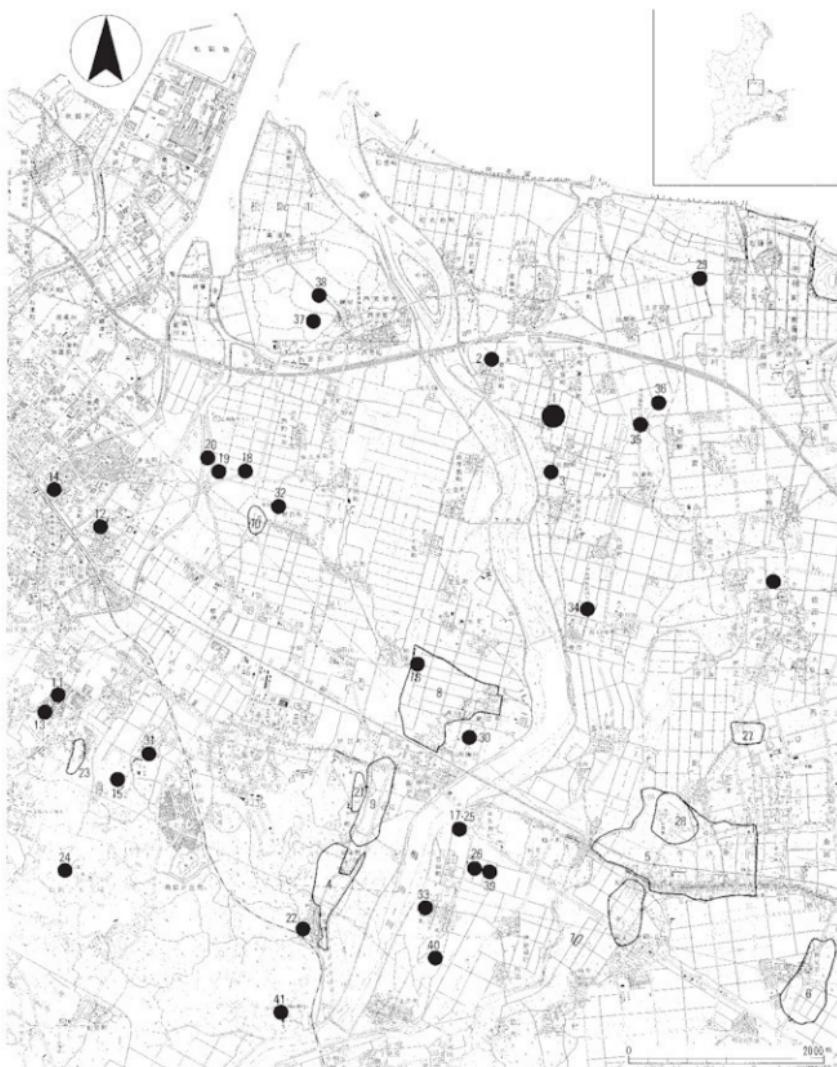
右岸には、土師器焼成坑がたくさん見つかっている北野遺跡(6)がある。この付近は、全国的に見ても土師器焼成遺構が多く見つかっている場所で土器

作りを行っていた有爾郷に比定される地域である。

中世に入ると、多くの遺跡が見られるようになる。海岸部には製塩関連の遺跡である、西黒部遺跡群内の池ノ上遺跡や小孤遺跡が知られる<sup>⑦</sup>。また柳田地区内遺跡群では、南東隅土坑を伴う鎌倉時代の掘立柱建物や室町時代の土壙墓が検出されており、茶釜や鍋が多数出土している<sup>⑧</sup>。柳田川右岸では、古川遺跡(39)で建物跡や石組井戸が4基見つかっている<sup>⑨</sup>。また、中の坊遺跡(26)からは室町時代の土壙と区画溝が確認されている<sup>⑩</sup>。このほか横地高畠遺跡(40)からも建物跡が見つかっている<sup>⑪</sup>。また、柳田川中流と下流を分ける丘陵上には神山城跡(41)が存在する。その山麓には山添遺跡<sup>⑫</sup>(4)があり、掘立柱建物や石組みの遺構などが確認されている。

### (註・参考文献)

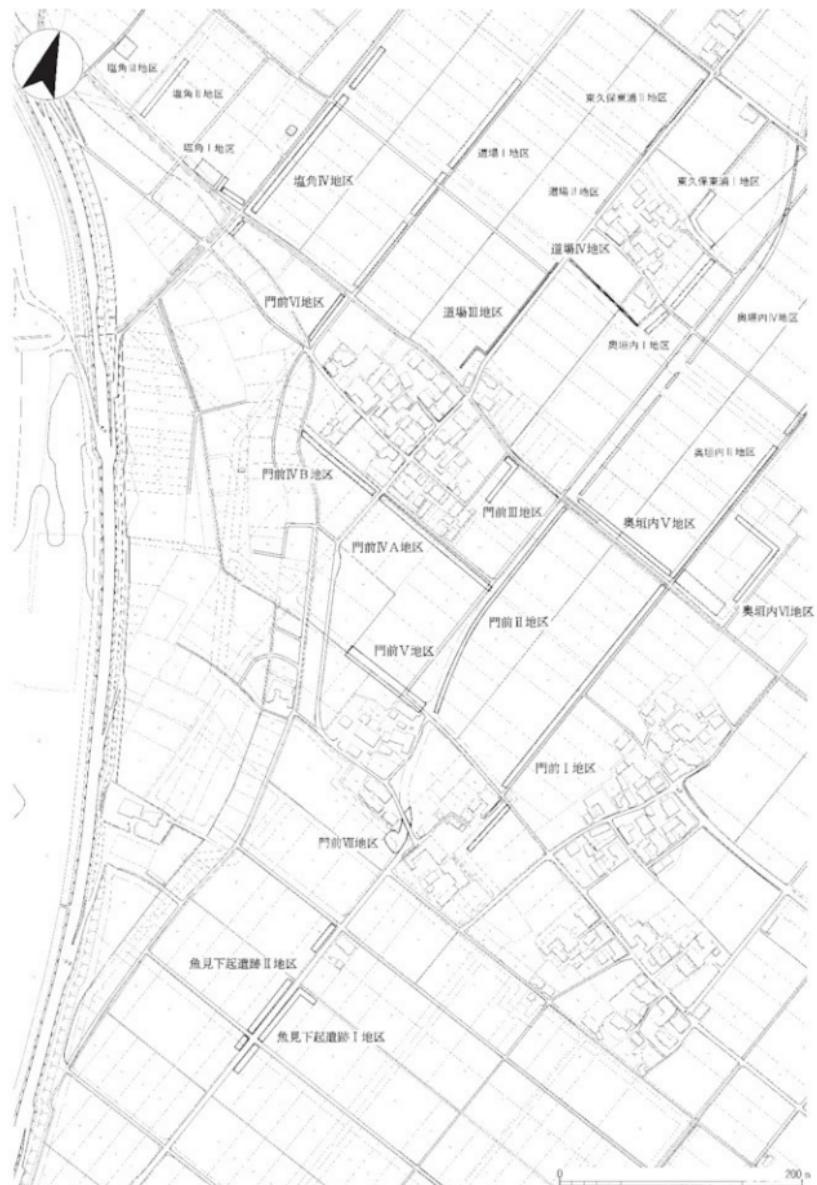
- ① 小瀧 学・小林俊之『川島遺跡群(第1次)発掘調査報告』(三重県埋蔵文化財センター 2002年)
- ② 『松阪市史 第二巻史料篇 考古』(松阪市史編纂委員会 1978年)
- ③ 宇河雅之『瀬干遺跡』(『瀬干遺跡・綾垣内遺跡・柳沢遺跡・大蓮寺遺跡・北ノ垣内遺跡』 三重県埋蔵文化財センター 1996年)
- 原田恵理子『瀬干遺跡(第2次)発掘調査報告』(三重県埋蔵文化財センター 2000年)
- ④ 野原宏司『閑淨寺遺跡発掘調査現地説明会資料』(三重県教育委員会 1987年)
- ⑤ 奥野 実・田上 稔・坂倉一光『古春通りB遺跡・古春通り古墳群発掘調査報告』(三重県埋蔵文化財センター 2000年)
- ⑥ 増田安生・新名 強『中世伊勢の製塩に関する一考察』(研究紀要)第9号 三重県埋蔵文化財センター 2000年)
- ⑦ 宇河雅之『北ノ垣内遺跡』(『瀬干遺跡・綾垣内遺跡・柳沢遺跡・大蓮寺遺跡・北ノ垣内遺跡』 三重県埋蔵文化財センター 1996年)
- ⑧ 伊藤裕之『古川遺跡・山口遺跡発掘調査報告』(三重県埋蔵文化財センター 1996年)
- ⑨ 伊藤裕之『中の坊遺跡発掘調査報告』(三重県埋蔵文化財センター 1997年)
- ⑩ 中川 明『横地高畠遺跡発掘調査報告』(三重県埋蔵文化財センター 1998年)
- ⑪ 新田 洋『山添遺跡発掘調査報告』(三重県教育委員会 1979年)
- 坂倉一光『山添遺跡(第2次)・里中遺跡ほか』(三重県埋蔵文化財センター 1997年)
- 柴山圭子・小瀧 学『山添遺跡(第3次)発掘調査報告』(三重県埋蔵文化財センター 2003年)



番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	山口・山野内遺跡	12	久佐行頭	19	天山古墳	26	大原山古墳群	33	青木山廻中
2	久佐山古墳群	13	久佐行頭	20	櫛塚古墳	27	中の井遺跡	34	小堀須跡
3	色見・山野内遺跡	14	山古墳	21	天王山古墳群	28	田口寺	35	古川虎跡
4	山野内遺跡	15	野呂壁内遺跡	16	鈴子山廻	29	木本石遺跡	36	神奈越後御神社
5	赤宮跡	17	草山遺跡	22	山古墳	30	櫛木山古墳群	40	櫛木鳥羽遺跡
6	北野遺跡	18	吉野瀬山古墳群	23	櫛木山古墳群	31	神奈越後御神社	41	山川跡
7	南野崎遺跡	19	高原山古墳群	24	西野今庄古墳群	32	前田寺		
8		20		30		33	櫛木谷ノ河内遺跡		
9		21		31		34	神奈越後御神社		
10		22		32		35	神奈越後御神社		
11		23		33		36	施別東跡		
12		24		34					
13		25		35					
14		26		36					
15		27							
16		28							
17		29							
18		30							
19		31							
20		32							
21		33							
22		34							
23		35							
24		36							

第1図 遺跡位置図 (1:50,000)

国土地理院『松阪港』『松阪』『明野』(1:25,000) より



第2図 調査区位置図① (1:4,000)

明朝：平成13年度調査区 ゴシック：平成12年度調査区



第3図 調査区位置図② (1:4,000)

### III 調査の成果～層位と遺構～

#### 1 川島遺跡

調査区は、柳田川右岸の沖積平野上に位置する。以下に、各地区ごとに基本層序と主な遺構について概述する。他の遺構の詳細については遺構一覧表を参照されたい。

##### (1) 門前Ⅰ地区

###### a 基本層序

調査区の現況は水田で、標高約3.0mのところに位置する。層序は、第1層が表土で黄灰色シルト、第2層が浅黄色シルト、第3層が橙色シルト、第4層にはにぶい黄褐色砂質土である。この第4層上面で中世の遺構を検出したが、調査区を通して安定せず、にぶい黄褐色シルトや明褐色シルト、褐色シルトなどに変化していく。また、調査区中央部には旧河道が通る。

###### b 遺構

調査区は南北に長く、途中で途切れるが長さ約230m×幅約2mである。遺構は北部と南部にまとまり、中央部分は旧河道であると思われる。遺構は13世紀前半頃と15世紀後半頃のほぼ2時期に大別することができそうである。以下に、主な遺構の概要を述べる。詳細については遺構一覧表を参照されたい。

**井戸 S E 237 (第9図)** 調査区北部のc 7 グリッド付近で検出した遺構である。西半分が調査区外であるため全体の規模・深さは不明であるが、出土した石組みの平面形は方形に見える。長さ約15cm程度の小ぶりな長楕円の石が整然と組んである状況が観察できたが、調査区が狭く、完掘することや半裁して石組みの状況など図化・記録することはできなかつた。埋土中からは陶器椀などが出土しており、13世紀前半頃のものと思われる。

**井戸 S E 241 (第10図)** 調査区北部のc 10 グリッド付近で検出した遺構である。西半分が調査区外であるため、全体の規模は不明である。調査区の関係から完掘はできなかつたが、土層の観察を可能な深さまで行った結果、標高約2.0mの部分から南伊勢系土師器の鍋や羽釜などが出土した。同じ所からこぶ

し大程度の石も観察でき、その状態が組んであるようにも見えることから、今回掘削した部分が掘り方であり、中心が調査区の西側にある石組みの井戸である可能性も考えられる。15世紀後半頃のものであると思われる。

**溝 S D 243 (第11図)** 調査区北部のc 10 グリッド付近で検出した遺構である。ほぼ東西方向の溝で、S D 240 に切られる。幅などは不明であるが、深さは深いところで約40cm程度である。埋土内からは土師器皿や小皿、山茶椀などがまとめて出土しており、13世紀前半頃のものと思われる。

##### (2) 門前Ⅱ地区

###### a 基本層序

調査区の現況は水田で、標高約3.0mのところに位置する。層序は調査区の南半部と北半部とで大きく違う。南半部は色調などの違いはあるが、基本的に砂や礫の堆積層の上にシルト層がかぶっている状態である。それに対して、北半部はシルトの堆積層で、旧耕作土と旧床土との互層になっており、常に湿っている。

これらのことから、南部に自然堤防が存在し、北部が後背湿地になっていると考えられる。

###### b 遺構

調査区は南北に長く、長さ約190m、幅約2.5mで調査区南部は東に湾曲する。全体的に遺構密度が低く、特筆するものはない。

##### (3) 門前Ⅲ地区

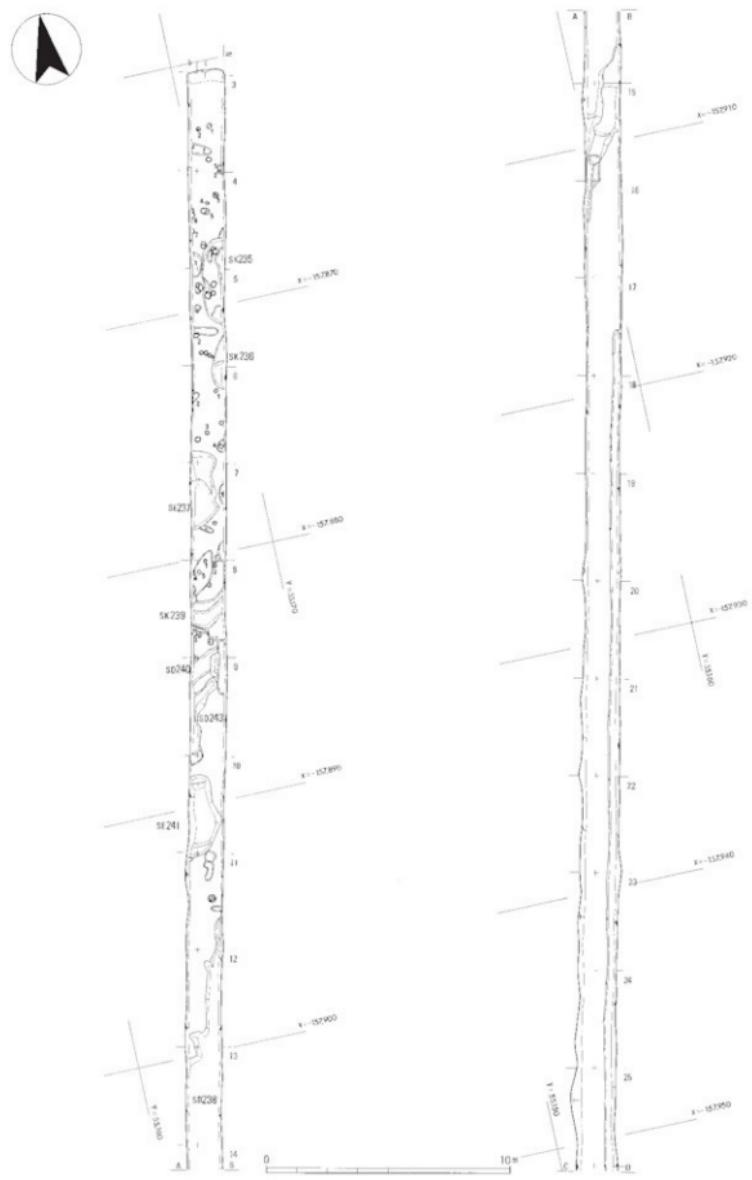
###### a 基本層序

現況は水田で、標高約2.8mのところに位置する。遺構はにぶい黄褐色砂質シルト上で検出した。

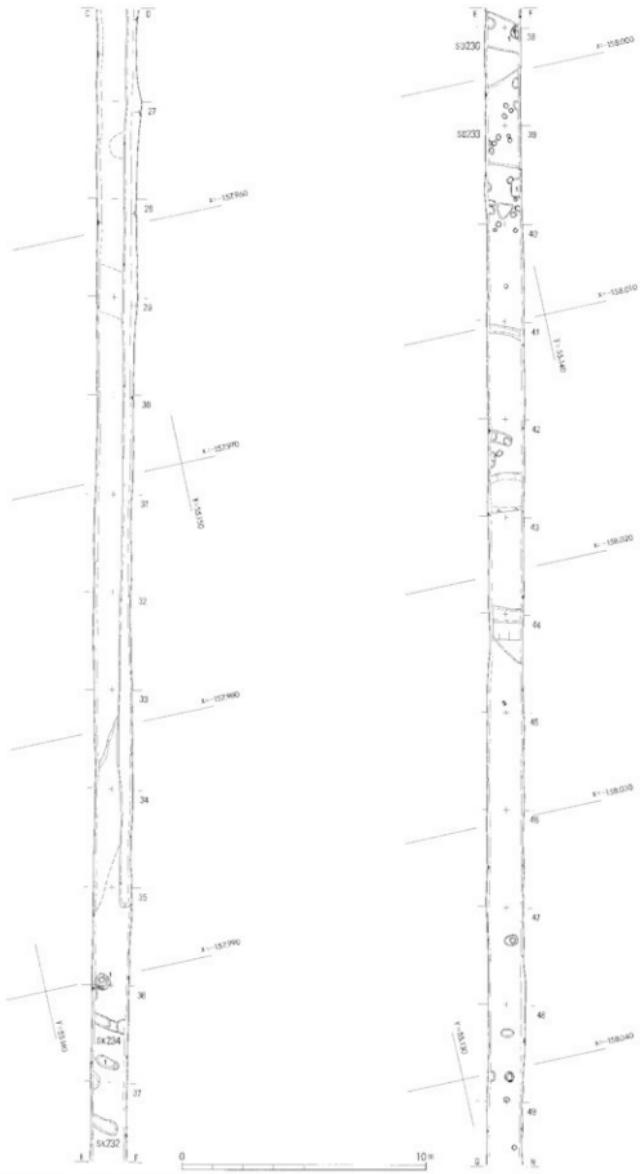
###### b 遺構

調査区は逆L字形で、南北が約50m、東西が約13m、幅1.5mである。溝やpitを検出した。

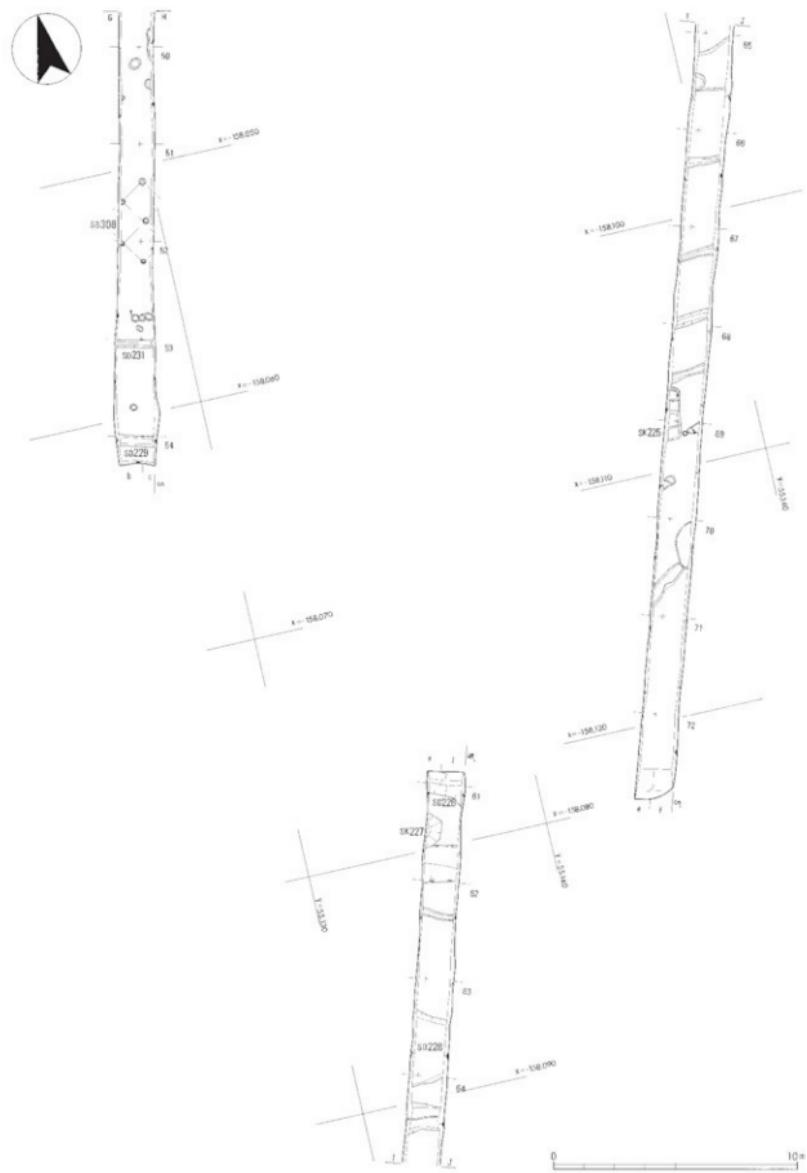
**溝 S D 202** 調査区中央部のd 8 グリッド付近で検出した遺構である。調査区南西から北東へ延びる溝で、深さは約20~30cm程度である。埋土中からは



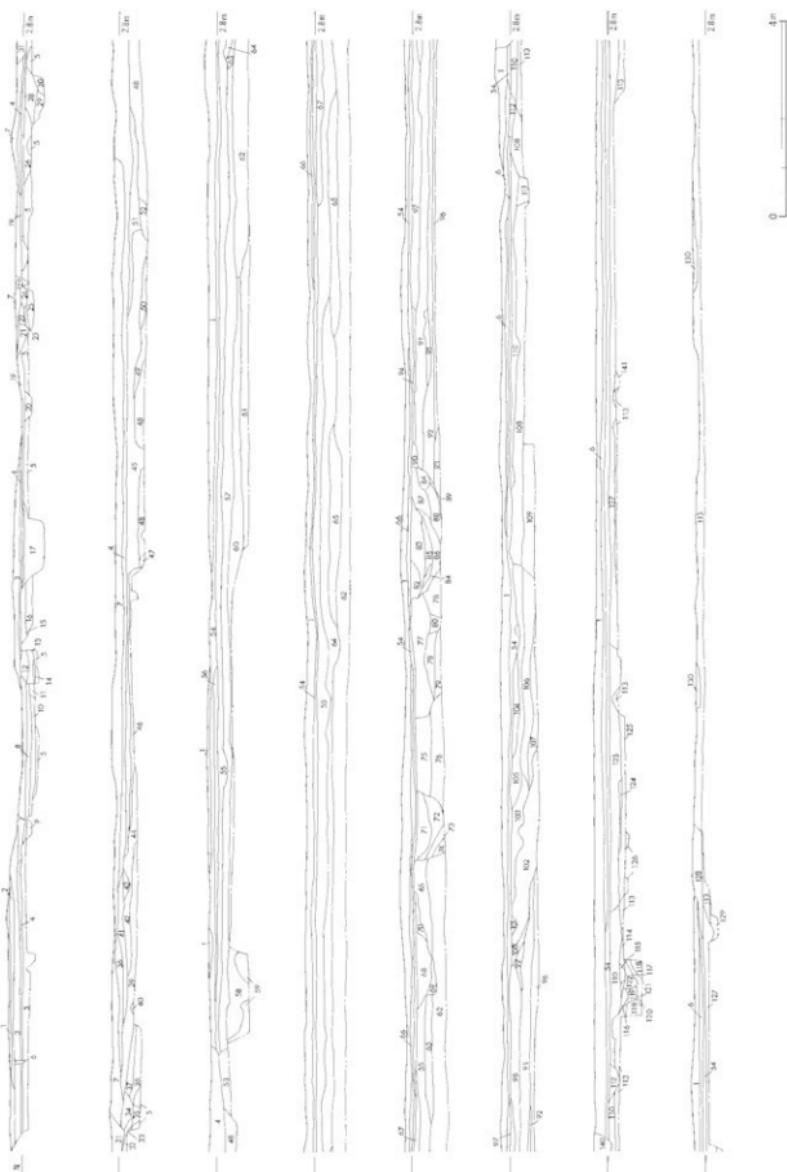
第4図 門前I地区 造構平面図① (1:200)



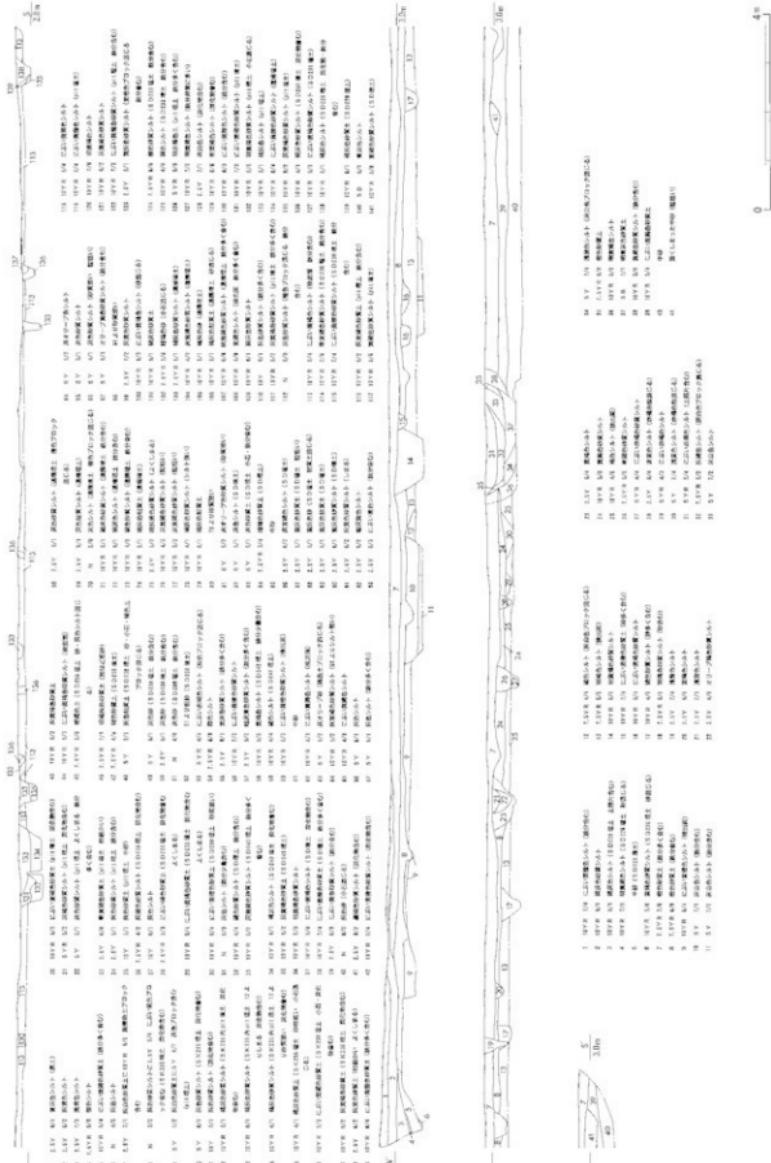
第5図 門前I地区 造構平面図② (1:200)



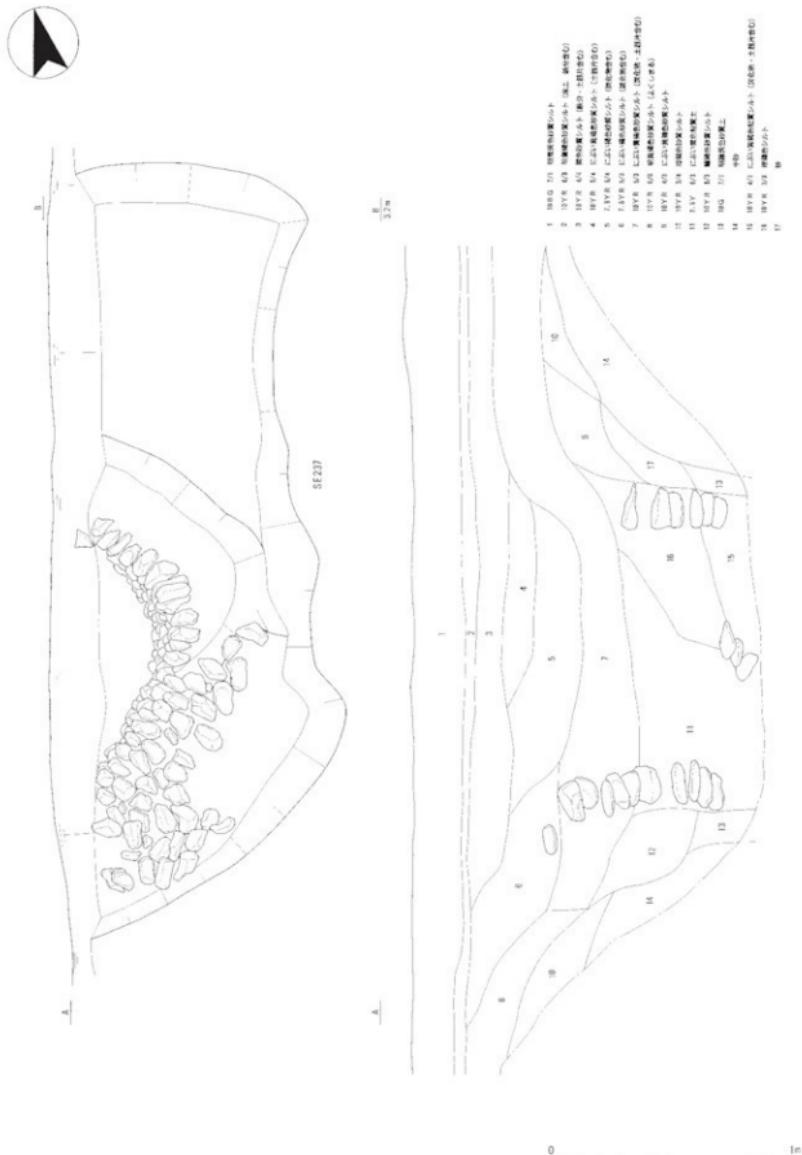
第6図 門前I地区 遺構平面図③ (1:200)



第7図 門前Ⅰ地区 土層断面図① (1:100)



第8図 門前I地区 土層断面図② (1:100)



第9図 門前Ⅰ地区 SE 237 平面図、土層断面図 (1:20)

古式土師器壺の口縁部（73）が出土している。

p i t 1 (図版6) 調査区北部のd 3 グリッドで検出した遺構である。底からロクロ土師器の椀や陶器椀がまとまって出土した。

#### (4) 門前IV地区

##### a 基本層序

現況は水田で、標高約3.0mのところに位置する。県道を挟んで東と西に調査区があり、併せて延長200mになる。便宜上東側の調査区をIV A地区、西側の調査区をIV B地区とした。IV A地区的層序は、第1層が耕作土で褐灰色土、第2層が床土で明褐色土、第3層が灰褐色シルト、第4層が褐灰色シルトである。この第4層上面で中世の遺構を検出した。またIV B地区的層序は、第1層がオリーブ黄色シルト、第2層が黄褐色砂質シルト、第3層が明黃褐色砂質シルトである。この第3層上面で中世の遺構を検出したが、調査区の西部上面は削平されており、第2層が確認できなかった。東部分の遺構は第2層上面から切りこんでいることから、この層上面が本

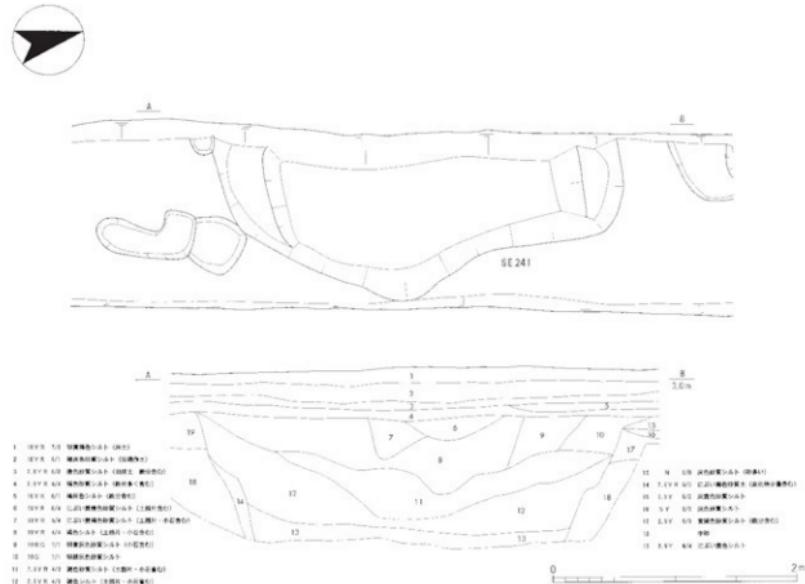
來の中世の面である可能性が高い。

##### b 遺構

IV A地区とIV B地区、あわせて東西約200mの調査を行った。検出した遺構は両地区とも溝を中心であるが、IV A地区の方は出土遺物の量が非常に少なく、遺構もはつきりしない。

土坑 S K258 (第21図) IV B地区西部のg 4 グリッドで検出した遺構である。検出面からの深さは約1.2m程で、底部から南伊勢系の鍋が2個体（101・102）出土している。101は煤が付着していない未使用のものであった。埋土中からは石も木も出でていないが、形状から素掘りの井戸である可能性が考えられる。15世紀後半頃のものと思われる。

溝 S D266・267 IV B地区西部のg 7 グリッド付近で検出した遺構である。調査時には別の遺構として掘削してしまったが、出土遺物や埋土の様子から、同一遺構であると考える。溝の南部が調査区外にあるため規模は不明であるが、掘削できた場所で、検出面からの深さは約0.5～0.6mである。埋土中からは陶器の椀（104～109）や壺（111）が出土している。



第10図 門前I地区 S E 241 平面図、土層断面図 (1:40)

第11図 門前I地区 SD243 遺物出土状況図 (1:20)

## (5) 門前V地区

### a 基本層序

現況は水田で、標高約3.2mのところに位置する。層序は第1層が黄灰色土で約20cmほど堆積する。その下は、調査区東部については第2層が黄褐色土や黄橙色土、第3層が褐灰色土やにぶい赤褐色土、第4層に概ね砂層が確認できる。それに対して、調査区西部では、第2層以下砂層・砂礫層となる。砂礫層には中世から近世にかけての遺物が散見できる。門前II地区の南部で確認できた自然堤防がこの地区の西部に続くものと思われる。

### b 遺構

旧河道 S R 215 調査区ほぼ中央部の b 9 グリッド付近で検出した遺構である。調査区を横断し、軸が北東～南西方向を向く。幅は約17mである。検出面から約20cm程掘り下げたが、出土遺物も少なく周りが脆弱であったため完掘しなかった。埋土は砂や礫の互層になっており、水の流れが伺える。陶器椀や鉢、土師器の皿や椀などが出土している。

溝 S D 217 調査区東部の b 19 グリッド付近で検出した東西方向の溝である。大部分が調査区外にあるため規模は不明である。埋土中からは土師器の皿や椀、陶器の椀・鉢などの破片が数多く出土している。

## (6) 門前VI地区

### a 基本層序

現況は畑地である。調査区は、県道を挟んで北部と南部に分かれ、標高約4.6～4.8mのところに位置する。周囲の水田から約0.8～1.2mほど高く、盛土を行った上に現在の耕作土が乗っている状況である。盛土内からは中世の遺物を中心に近世のものも少量含むことから、近世の早い段階に盛土を行ったと考えられる。

### b 遺構

南北いずれの調査区も、盛土上に中近世の遺構が存在する。検出面の様子が場所によって違うため、検出は非常に困難であった。北の調査区では、円形ないしは楕円形に約10cmほど掘りくぼめたところに集石が見られた。これらの集石は根石（栗石）<sup>⑩</sup>と考えられることから、礫石を持つ建物の存在が想定できる。

土坑 S K 297 南の調査区の北部、d 8 グリッドで検出した遺構である。平面は楕円形で、長軸約1.6m×短軸約1.3m、深さは検出面から約0.4mである。埋土中からは土師器の皿や陶器の灯明皿などが出土している。近世の遺構である。

土坑 S K 298 南の調査区の南部、e 10 グリッドで検出した遺構である。平面は長楕円形で長軸約3.2m×短軸約2.0m、検出面からの深さは約0.6mである。底から土師器壺が出土したが、その中には土師器の小皿片が入っていた。近世の遺構である。

## (7) 塩角IV地区

### a 基本層序

現況は水田で、標高約2.4mのところに位置する。調査区は西部・北部・中央部・南部の4つに分かれている。

西部の層序は、第1層が灰オリーブ色砂質シルト、第2層が旧耕作土で褐灰色砂質シルト、第3層が旧床土で明黄褐色砂質シルト、第4層が灰色砂質シルト、第5層がにぶい黄色シルト、以下下層を確認すると黄灰色シルト、灰褐色砂質シルト、青灰色粘質土、暗青灰色粘質土と続く。

南部の層序は第1層が黄褐色砂質シルト、第2層が灰オリーブ色砂質シルト、第3層が暗オリーブ色砂質シルト、第4層がオリーブ黄色粘質土、第5層がにぶい黄色シルト、以下にぶい黄色砂質シルト、青灰色砂質シルト、青灰色シルト、暗青灰色粘質土となる。

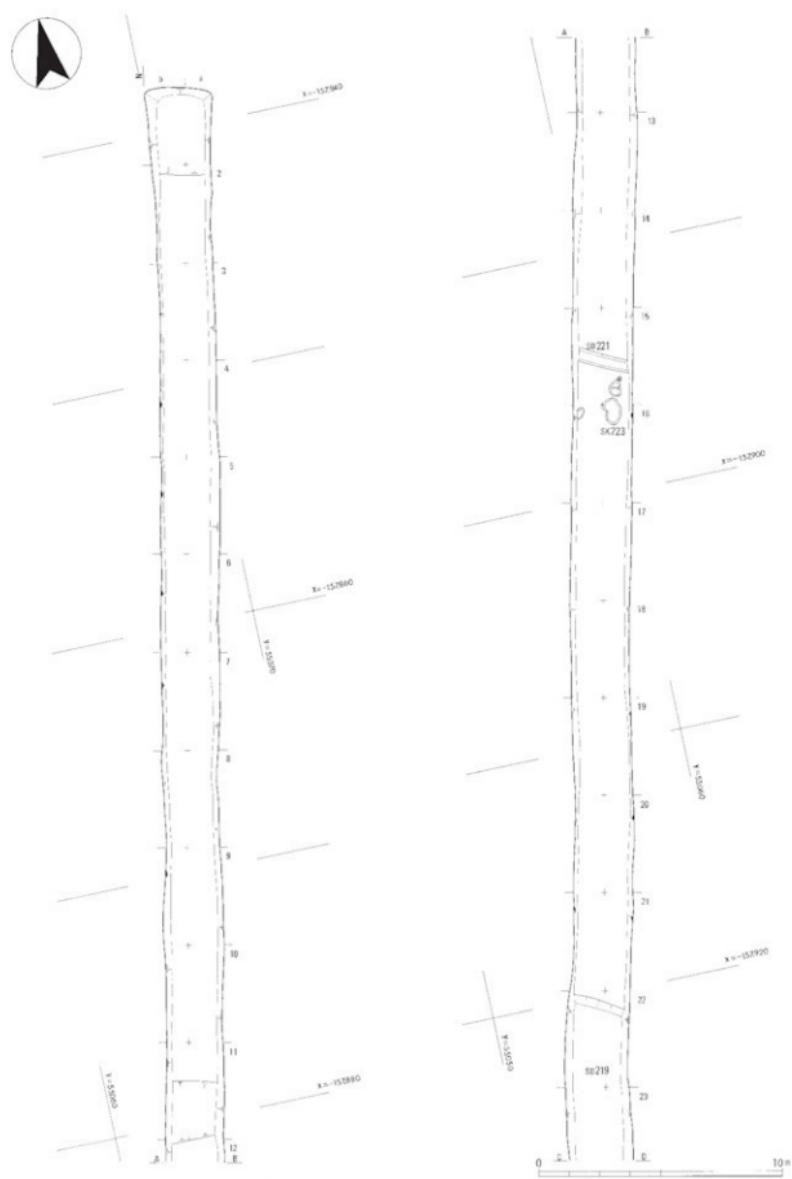
中央部の層序は、上から約60cmほどまで旧耕作土と旧床土が交互に堆積している。以下、褐色砂質シルト、灰白色粘質土、青灰色粘質土となり、その下標高約0.6mほどで砂層が確認できた。

北部の層序は第1層が旧耕作土で灰色砂質シルト、第2層が旧床土で黄褐色砂質シルト、第3層が褐色砂質シルトである。以下、耕作土と床土が交互に堆積し、その下標高約1.2mで砂層が確認できる。

以上をまとめると、砂層が北部ほど標高の高いところで確認でき、その上には耕作土と床土が交互に堆積することが言える。

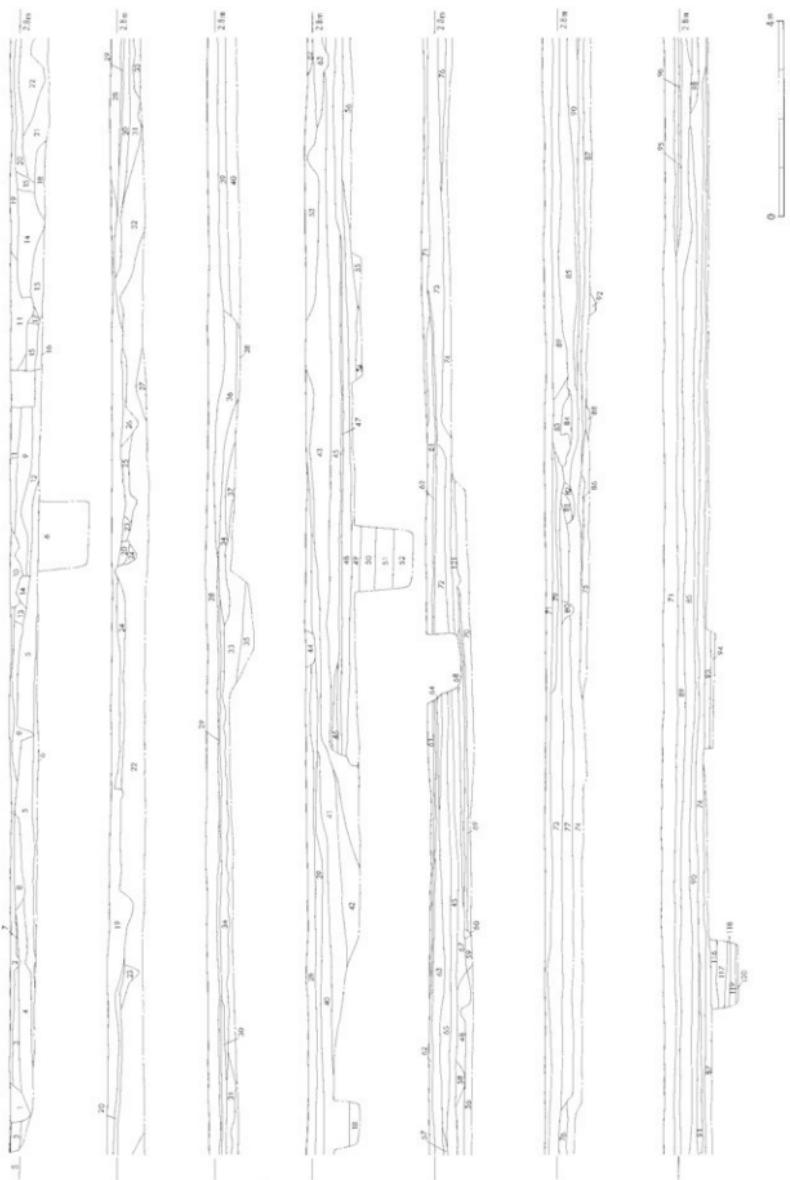
### b 遺構

調査区は逆「卜」の字形で、南北に長く延びる。



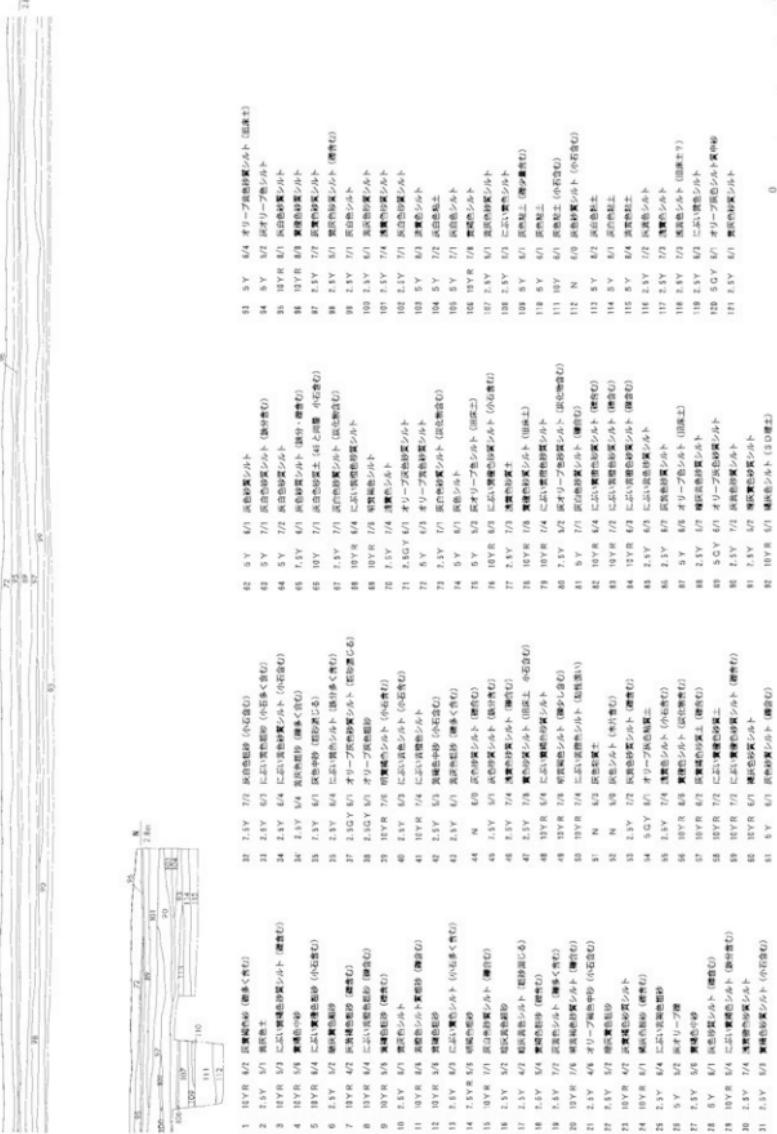
第12図 門前 II 地区 造構平面図① (1: 200)

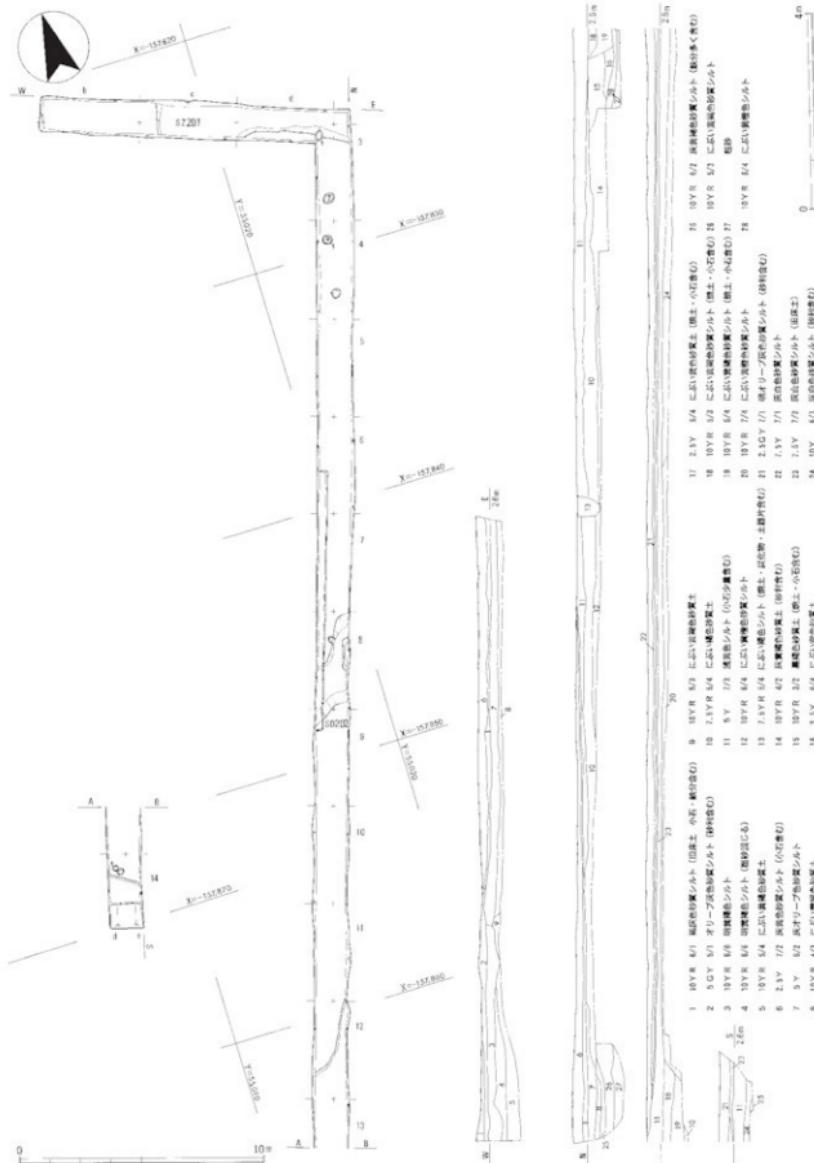
第13図 門前Ⅱ地区 遺構平面図② (1:200)



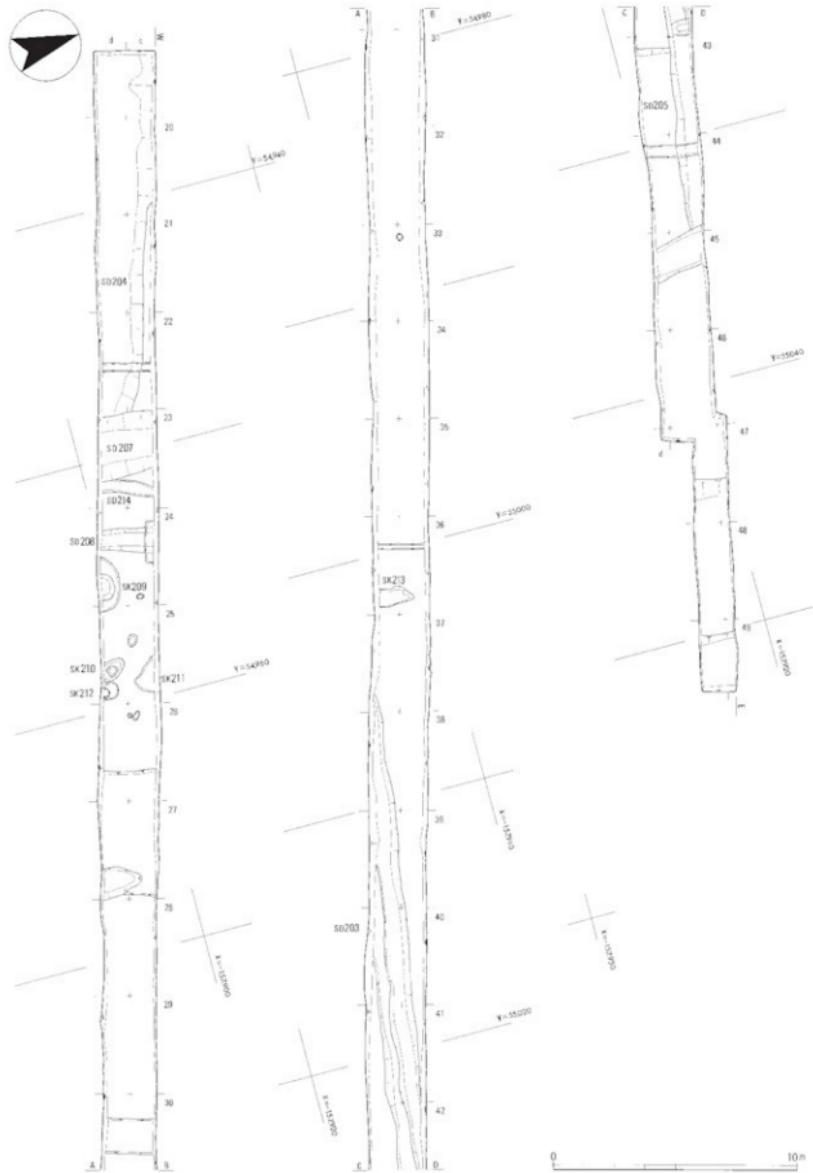
第14図 門前Ⅱ地区 土層断面図① (1:100)

第15図 門前Ⅱ地区 土層断面図(②) (1:100)



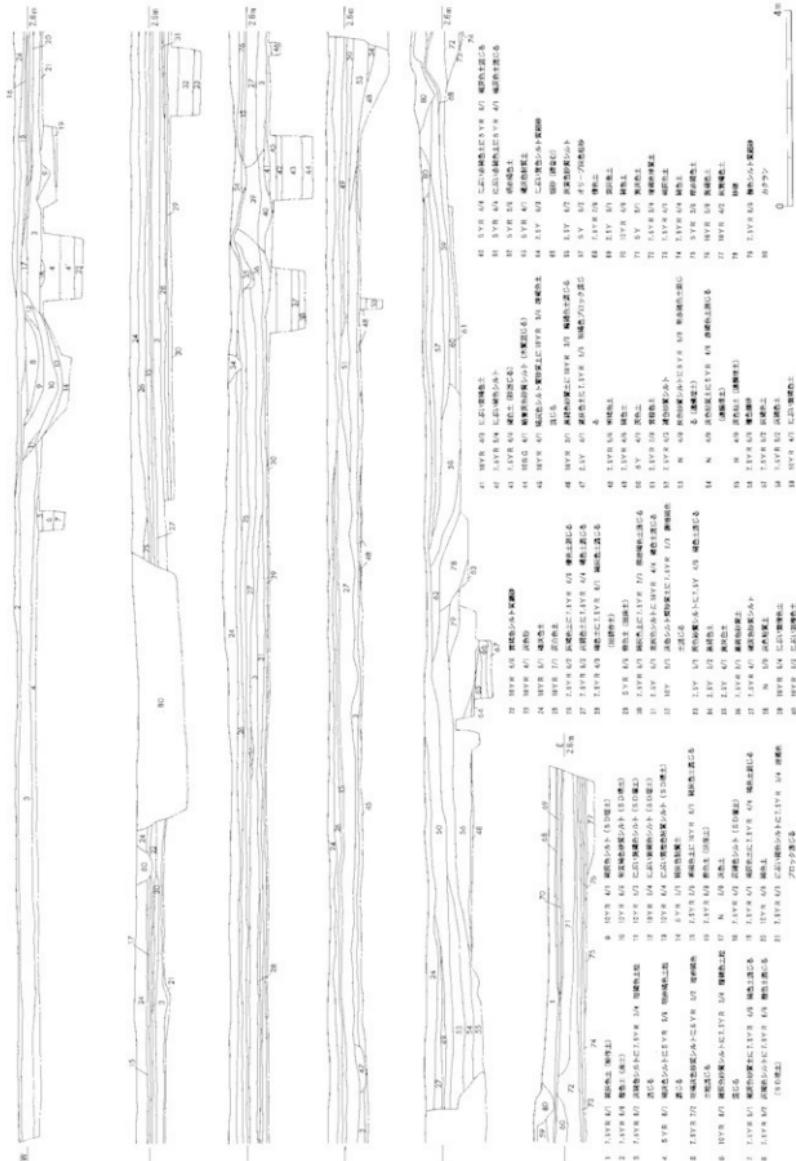


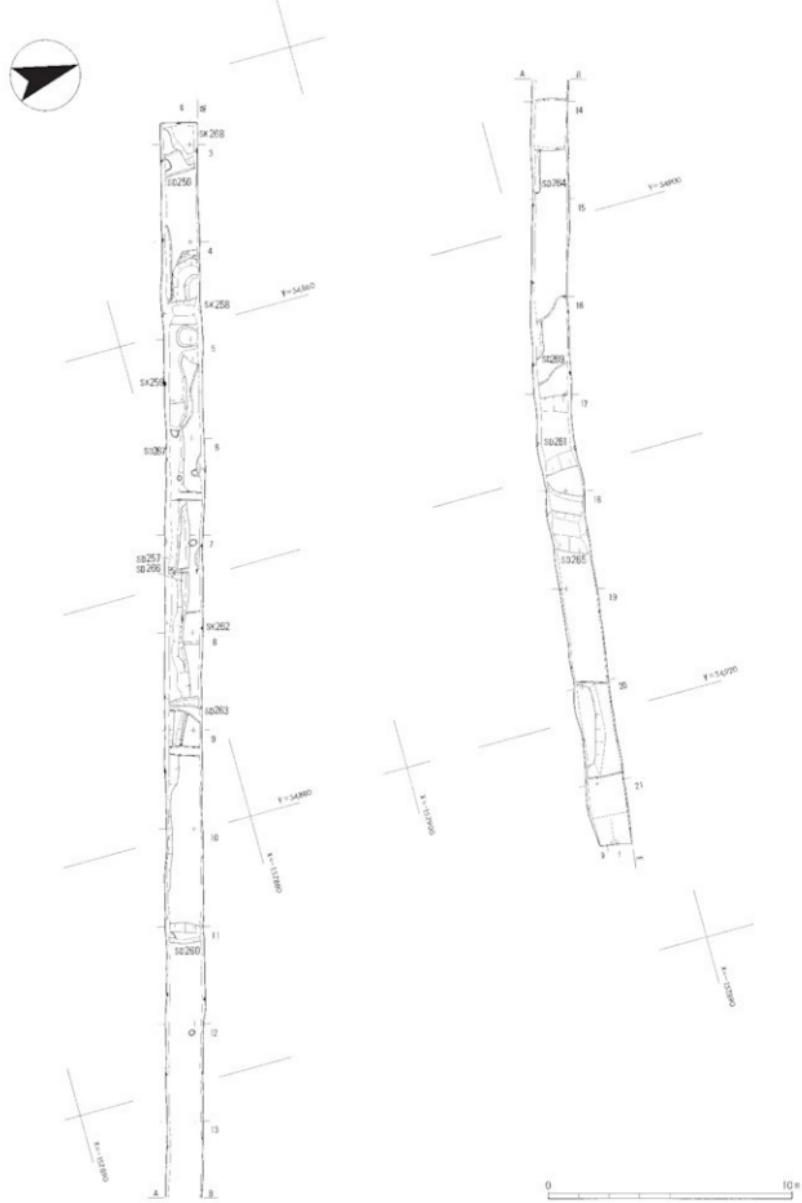
第16図 門前Ⅲ地区 遺構平面図（1:200）、土層断面図（1:100）



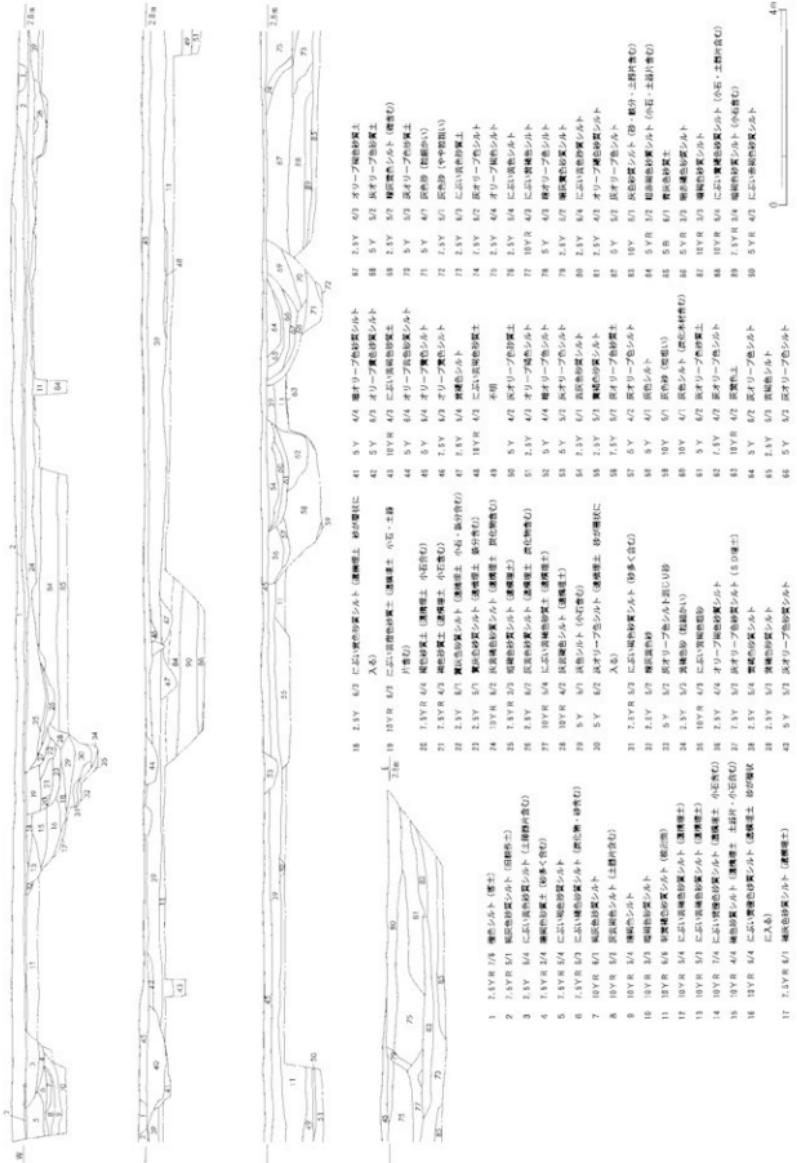
第17図 門前IV A地区 造構平面図 (1:200)

第18図 門前IV A地区 土層断面図 (1:100)





第19図 門前IV-B地区 地質断面図 (1:200)



第20図 門前IV B 地区 土層断面図 (1:100)

間に水路や農道が存在するため、細切れに4つに分けて調査を行った。西側調査区と一番南の調査区では遺構は確認できなかった。またその他でも遺構密度は少なく、調査区中央部ではほとんど検出できていない。

#### (8) 奥垣内V地区

##### a 基本層序

現況は水田で、標高約2.8~3.0mのところに位置する。層序は第1層が灰色土、第2層が黄褐色砂質シルト、その下が砂層になる。第2層上面で中世の遺構を検出した。

##### b 遺構

調査区は東西方向に長く、延長約92mである。調査区全体に遺構は広がっており、ほとんどが中世の溝である。

**溝 S D 277** 調査区中央部の南端、b 7 グリッド付近で検出した遺構である。北端の溝の肩部分のみの掘削であるため、規模は不明である。埋土からは南伊勢系土師器皿や陶器皿、楕などが出土している。13世紀前半頃の遺構であると考える。

**溝 S D 279 (第33図)** 調査区東部のb 26 グリッド付近で検出した遺構である。大部分が調査区外にあるため規模は不明である。掘削できた部分の、検出面からの深さは約1.1mである。埋土は、上の層は固くしまったシルト層であったが、底近くになって砂質土に変わる。この砂質土内から南伊勢系の土師器皿や釜が投棄されたような状態で多量に出土した。平成12年度調査で検出された、SD 58の続きである可能性が考えられる。15世紀後半頃の遺構であろう。

#### (9) 奥垣内VI地区

##### a 基本層序

現況は水田で、標高は約3.0~3.2mのところに位置する。調査区は、東西約48m、南北約58mのL字の形をしている。層序は、第1層がにぶい黄褐色土、第2層がオーブ褐色砂質シルトで、以下砂層が堆積する。南に行くほど砂の層が標高の高いところで見られる。

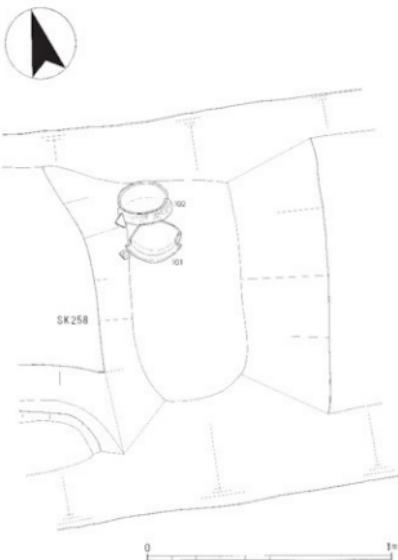
##### b 遺構

遺構は東西調査区の中央部分と南北調査区の中央部分に集中し、それ以外は薄い状態である。出土遺物から見ると、中世前半の遺構が中心である。

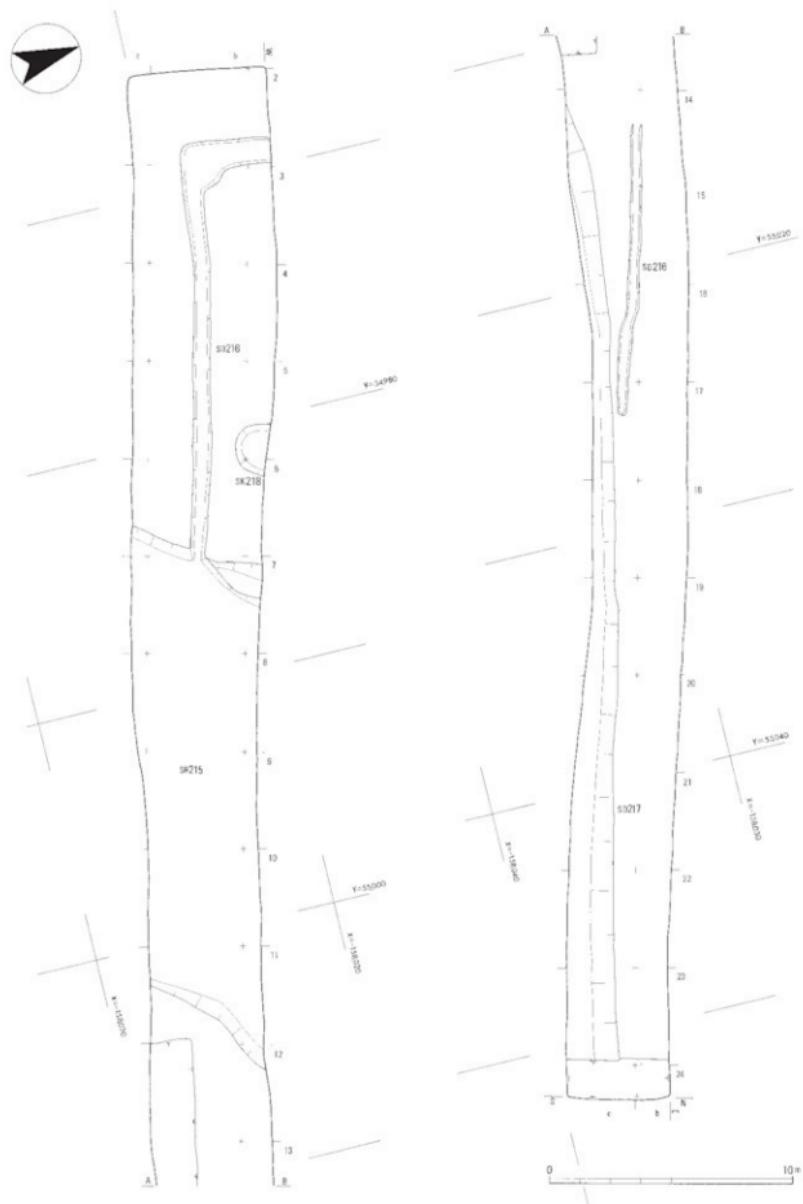
**溝 S D 285** 東西方向の調査区の西部、e 2 グリッド付近で検出した遺構である。ほぼ南北方向に伸びるもので、幅約0.6m、検出面からの深さは深いところで約0.2mである。遺構埋土からは南伊勢系の土師器皿や鍋、陶器の楕などが出土している。13世紀前半頃のものと考える。

#### (10) 道場Ⅲ地区

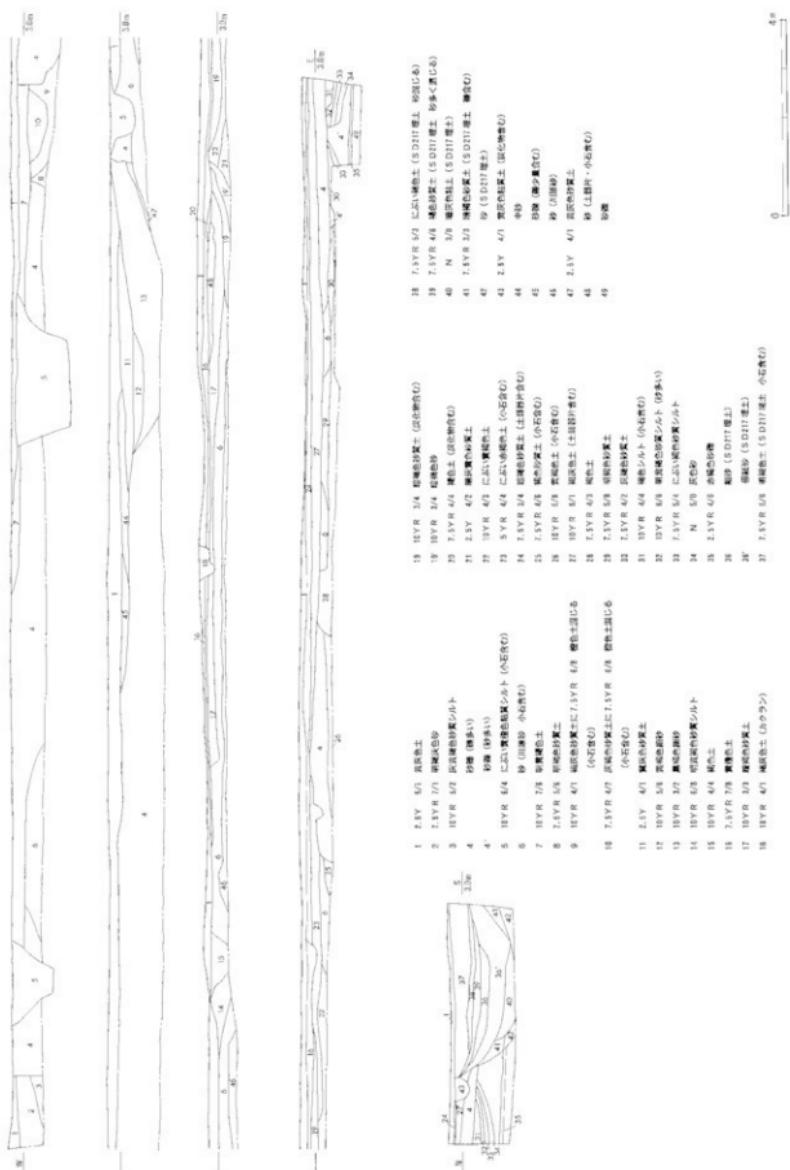
調査区が、県道とビニルハウスの間の限られた狭いスペースであり、また車道脇で調査に危険を伴うため、短時間での調査を余儀なくされていた。従つて、本調査区および後述の道場Ⅳ地区については、立会調査を行った。土層断面も柱状図での記録となつたため、連続した層序の観察はできていない。また、工事で破壊される深さまでの調査であったので、他の調査区のように砂の層が出現する高さを確認できなかった。



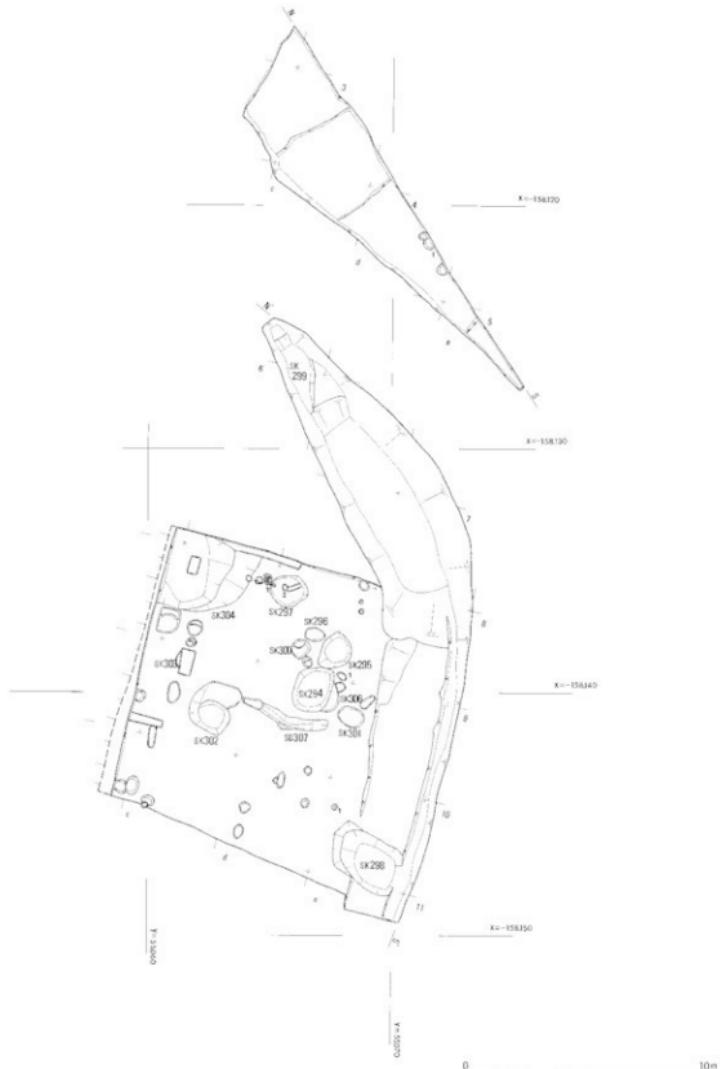
第21図 門前IVB地区 SK258 遺物出土状況図 (1:20)



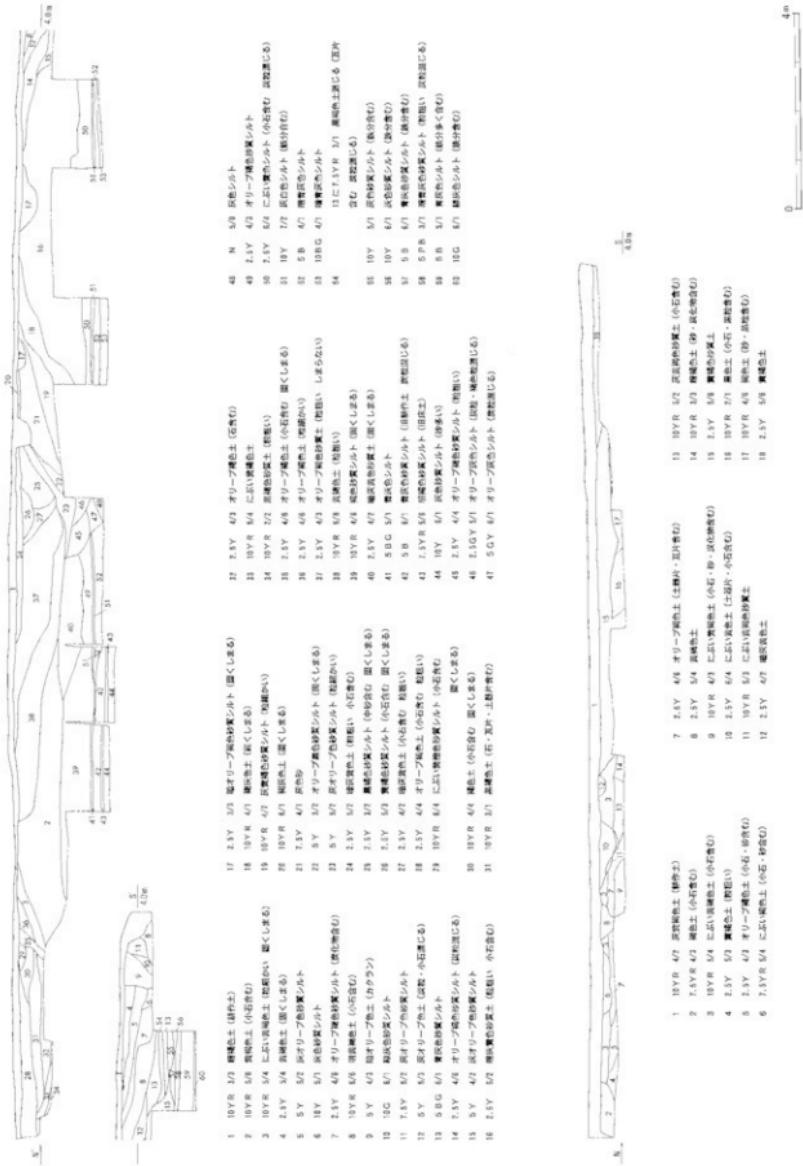
第22図 門前V地区 造構平面図 (1:200)



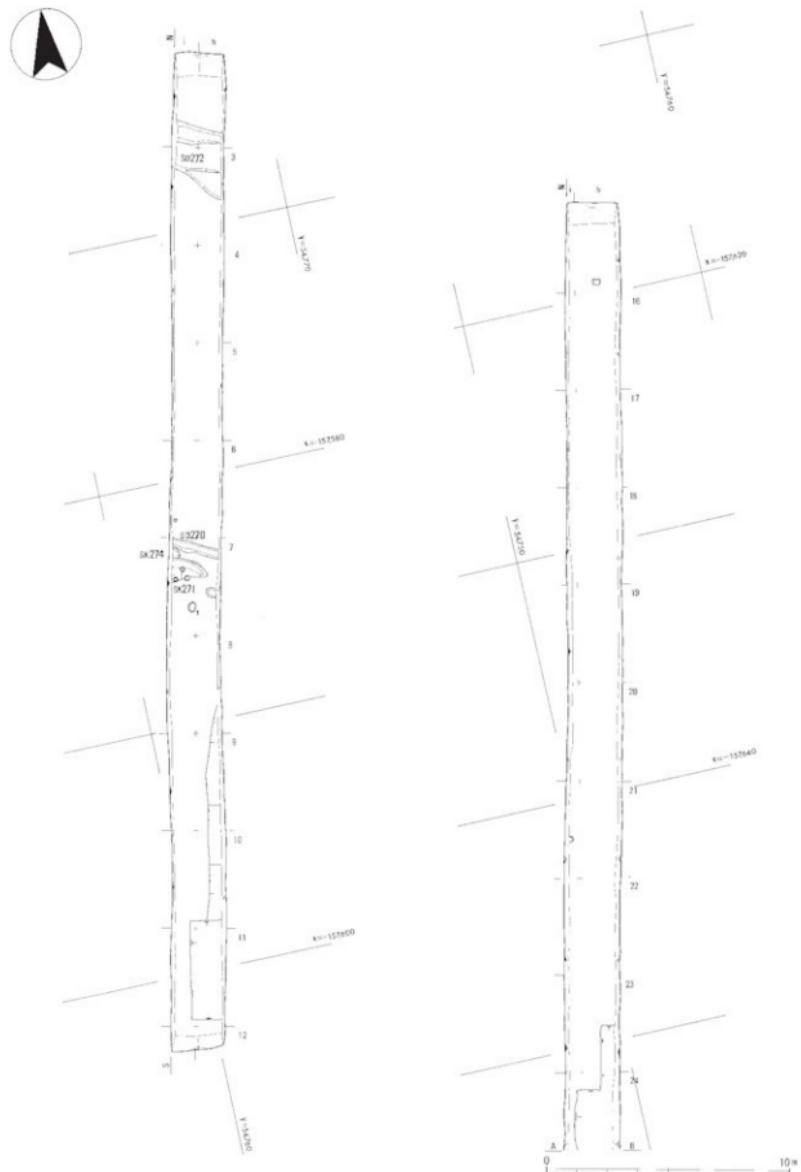
第23図 門前V地区 土層断面図 (1:100)



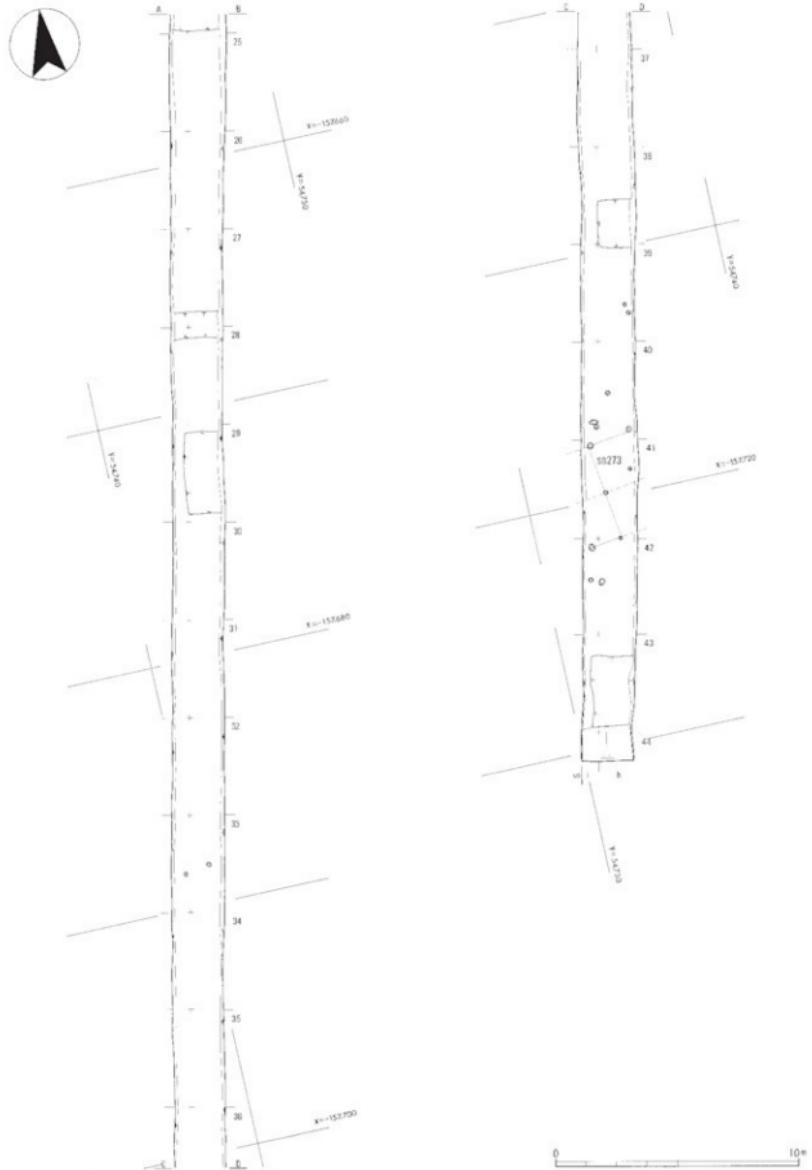
第24図 門前VII地区 遺構平面図 (1:200)



第25図 門前VII地区 土層断面図 (1:100)

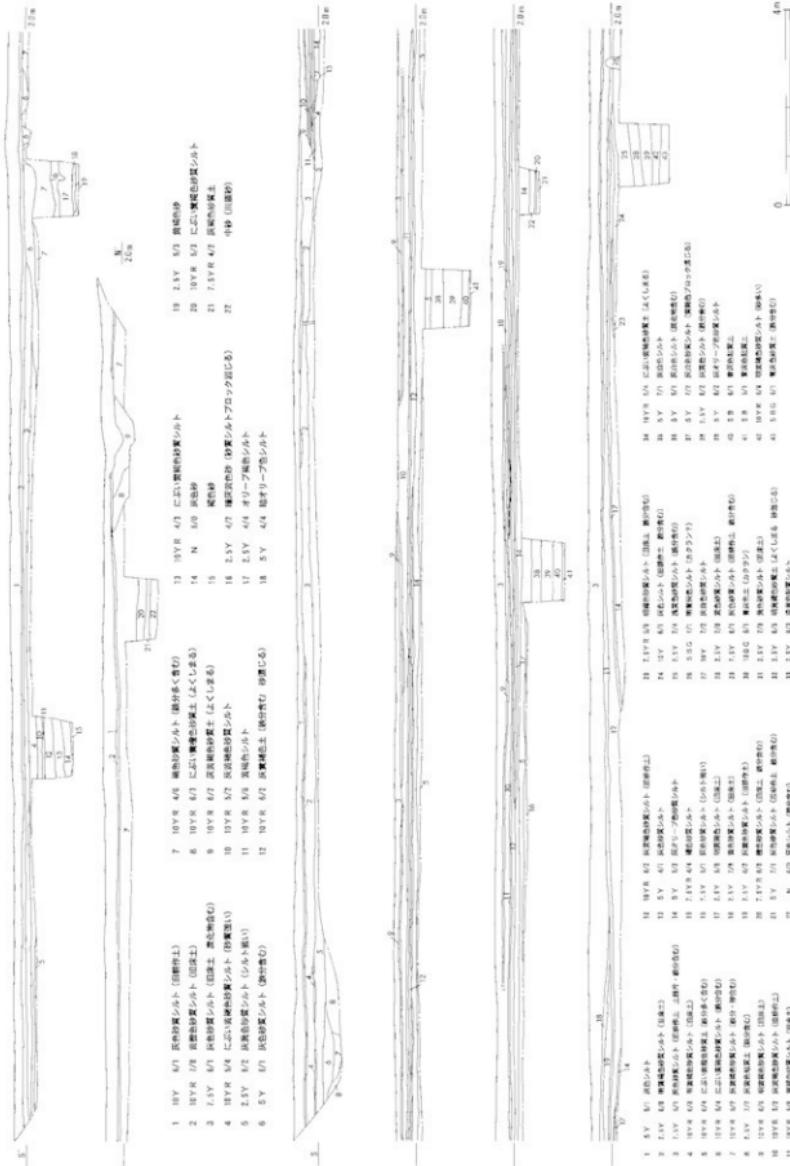


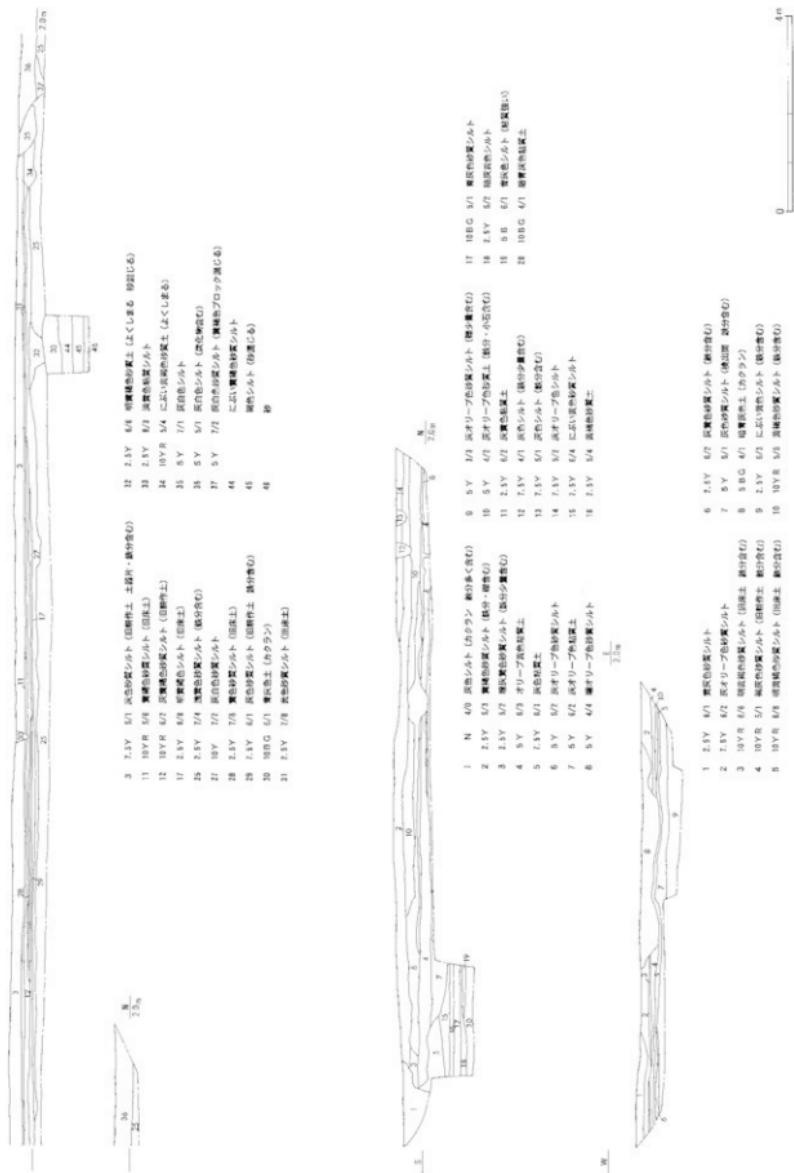
第26図 塩角IV地区 遺構平面図① (1:200)



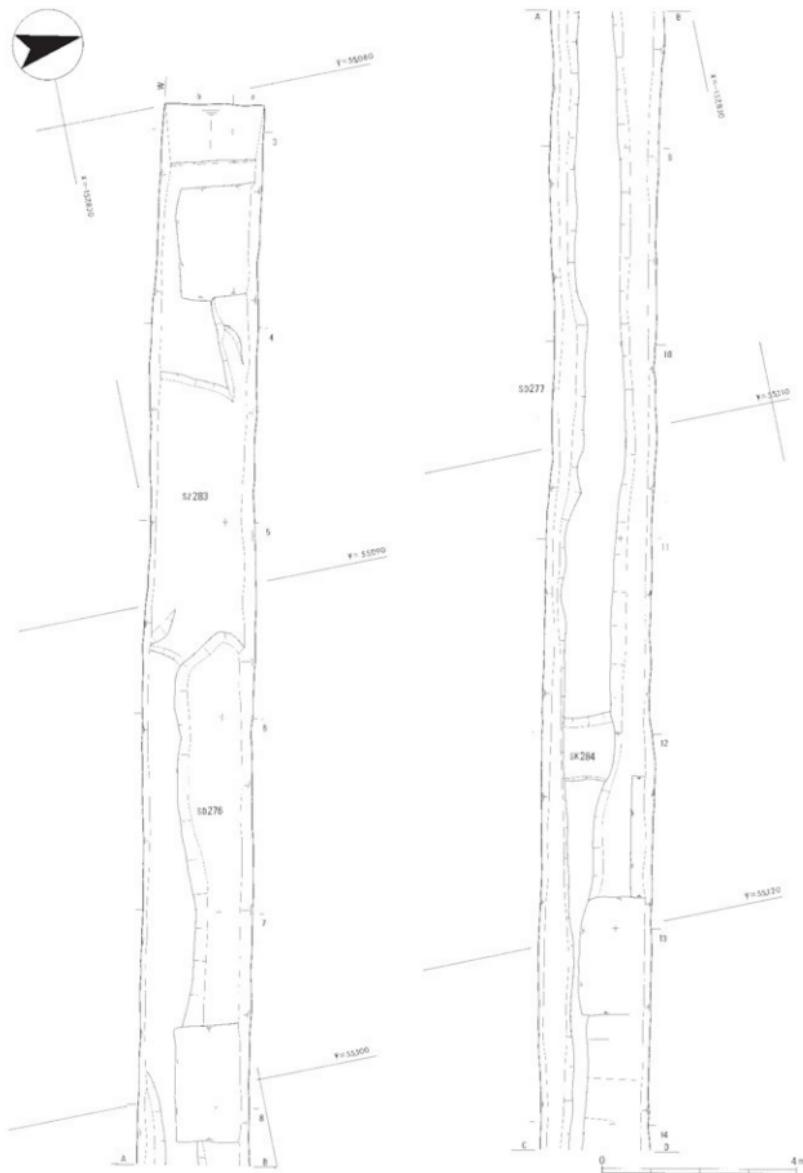
第27図 塩角IV地区 遺構平面図② (1:200)

第28図 塩角IV地区 土層断面図① (1:100)

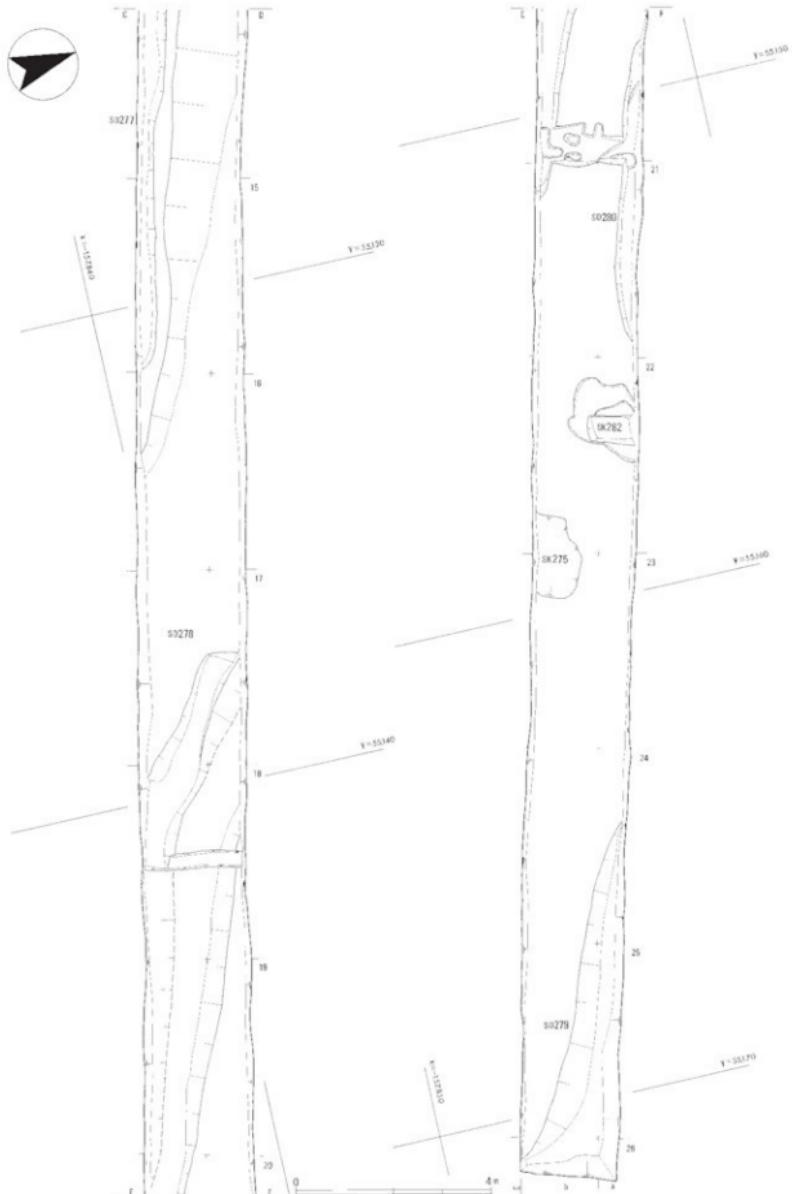




第29図 塩角IV地区 土層断面図② (1:100)



第30図 奥垣内V地区 遺構平面図① (1:100)

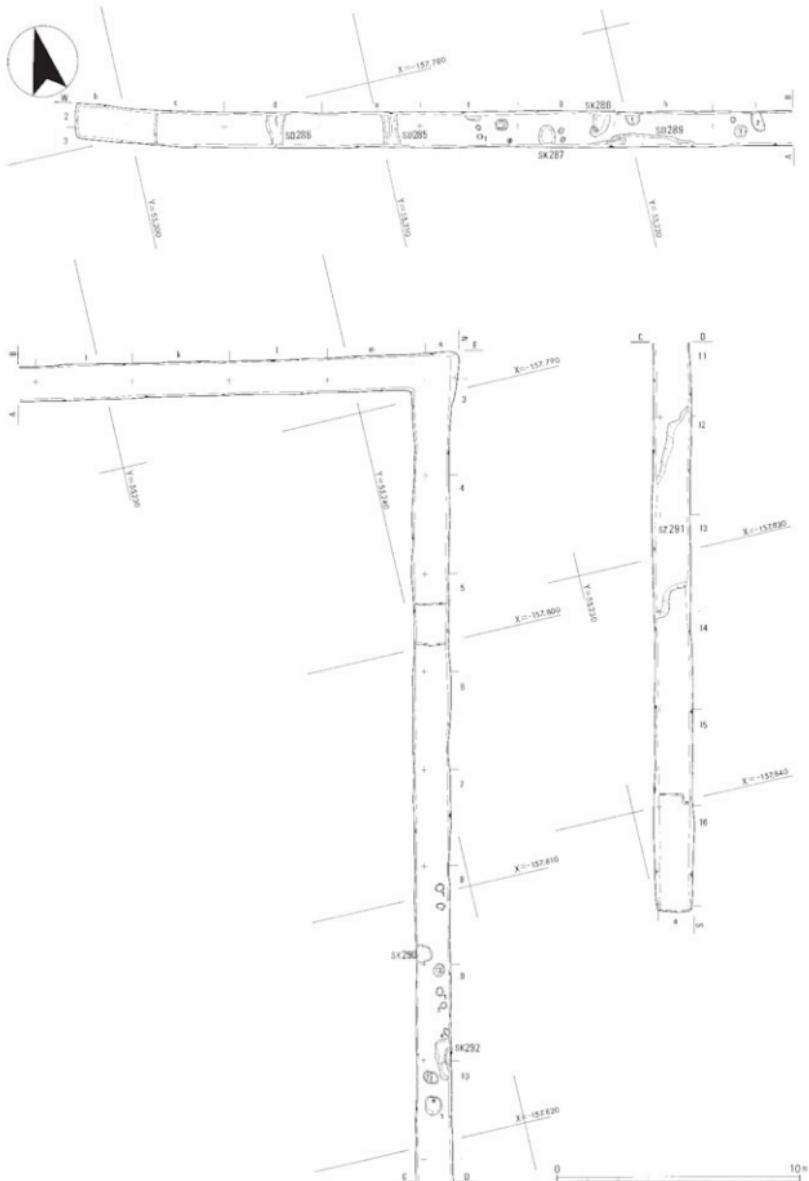


第31図 奥垣内V地区 遺構平面図② (1: 100)

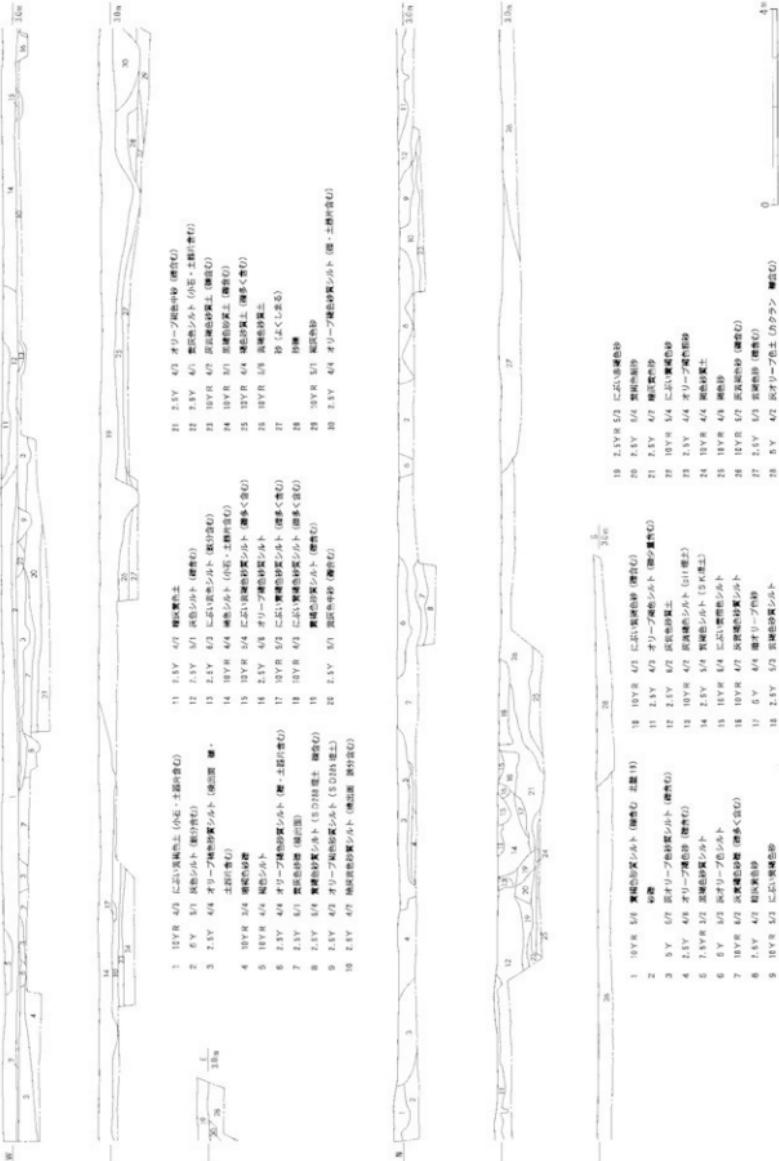
第32図 奥垣内V地区 土層断面図 (1:100)



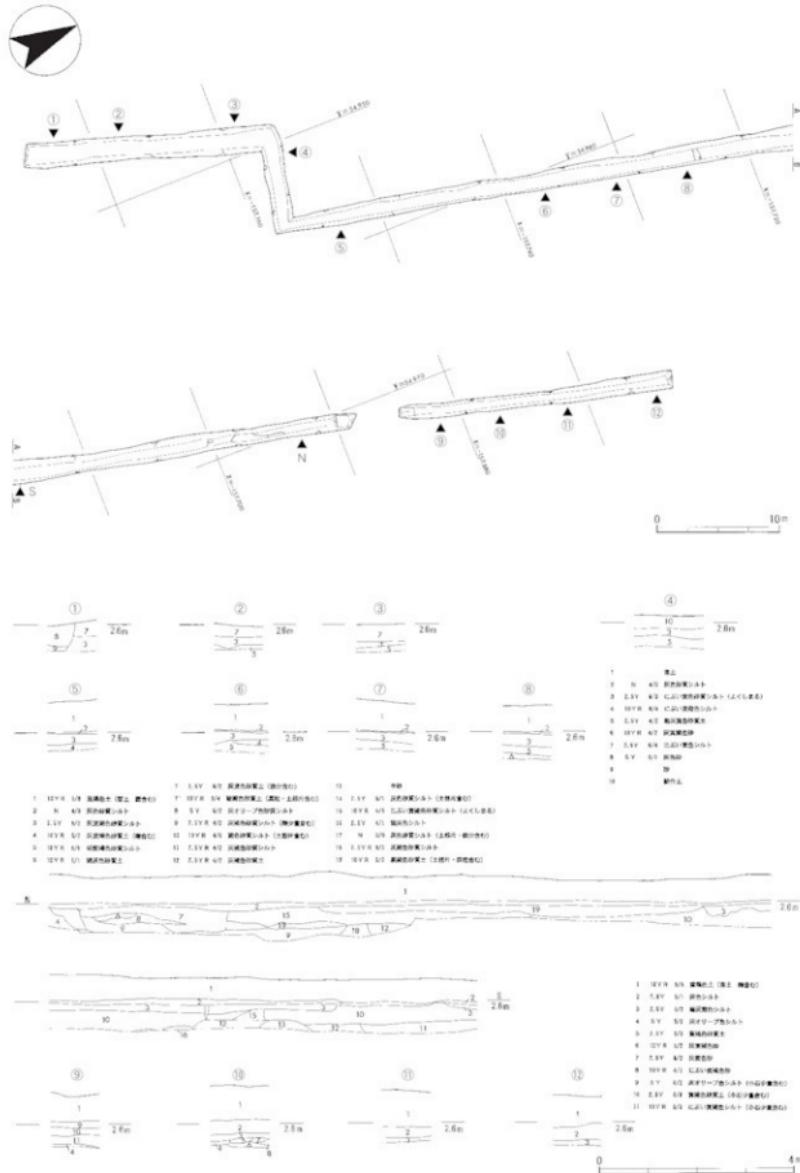
第33図 奥垣内V地区 SD279 遺物出土状況図 (1:20)



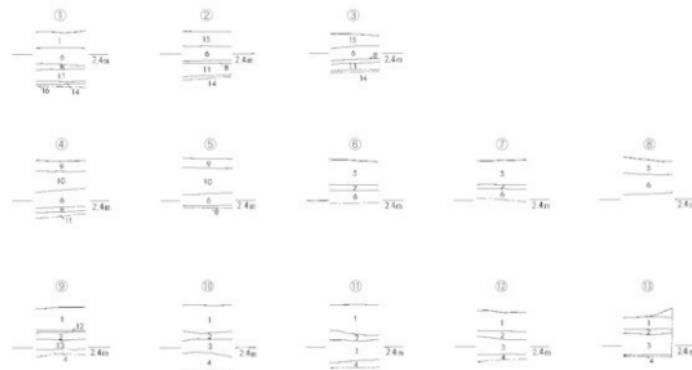
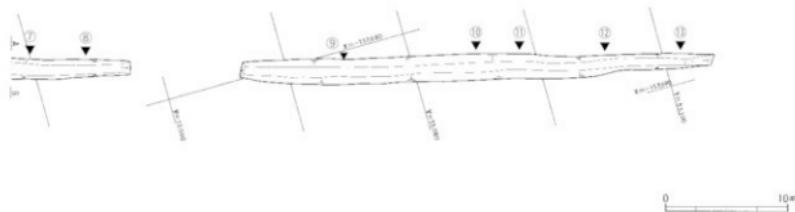
第34図 奥垣内VI地区 遺構平面図 (1:200)



第35図 奥垣内VI地区 土層断面図 (1:100)



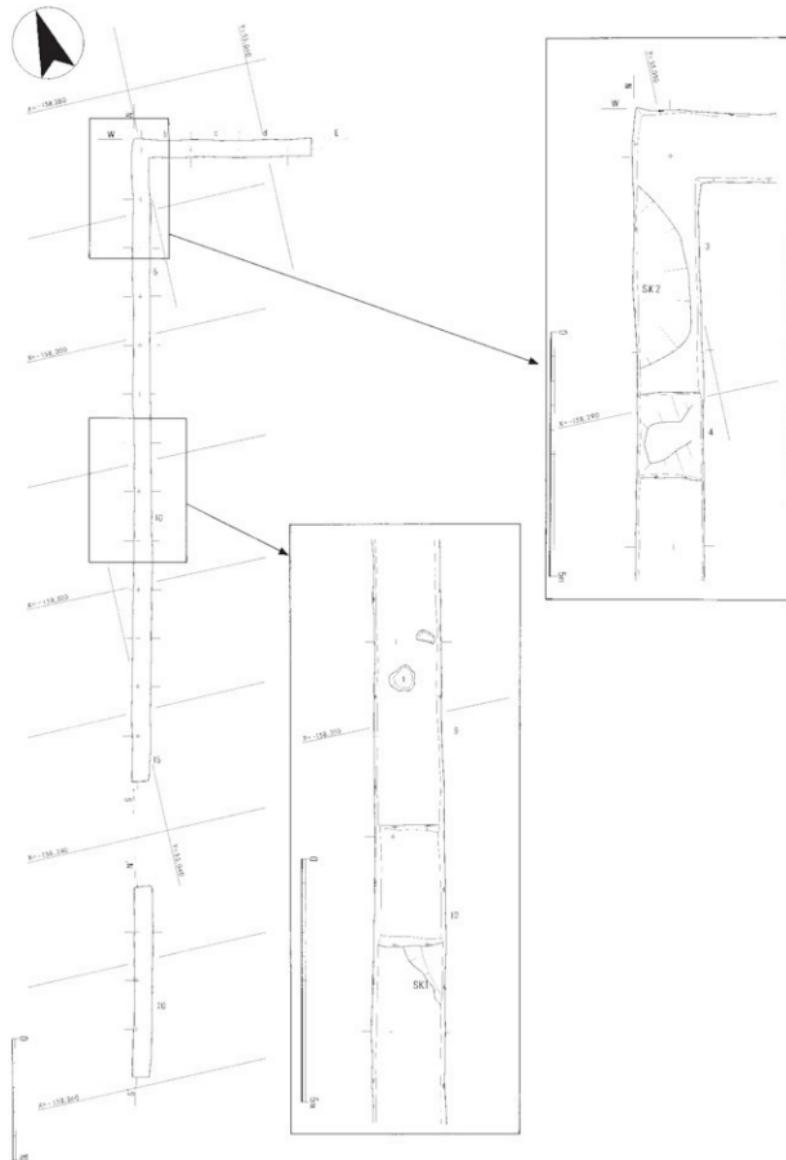
第36図 道場Ⅲ地区 遺構平面図(1:400), 土層断面図(1:100)



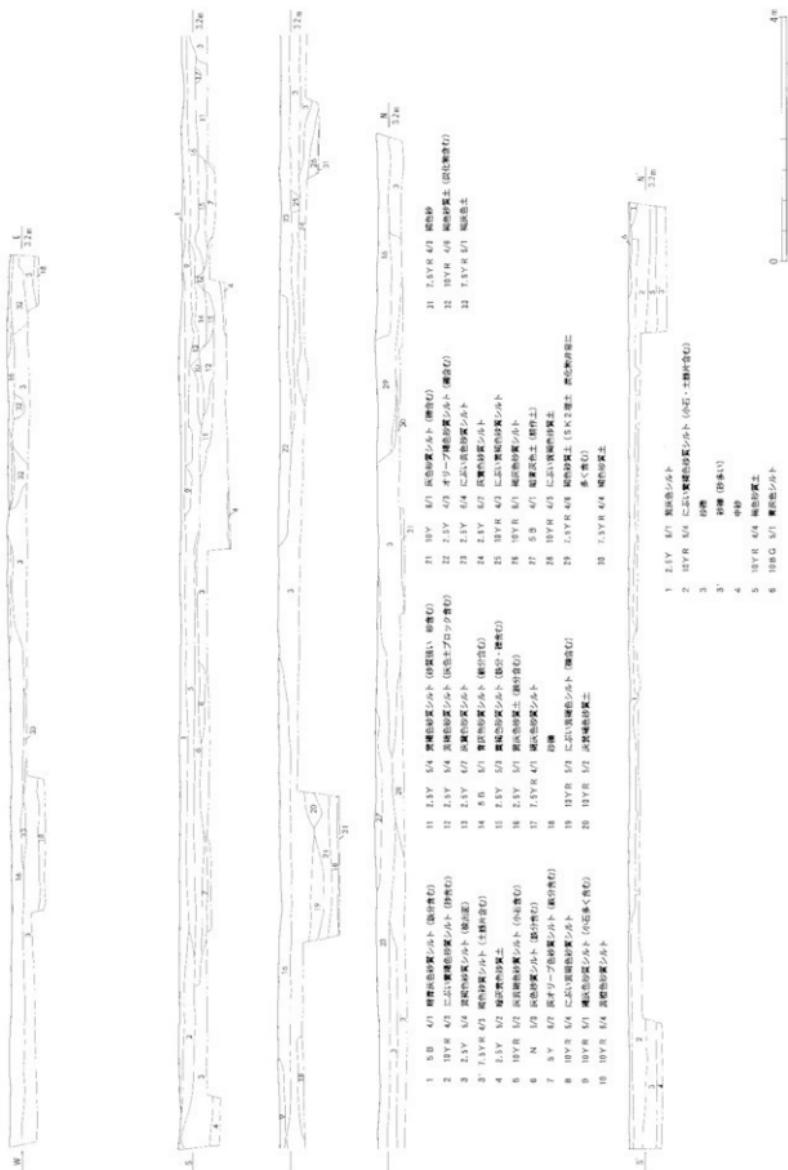
1	5 Y	5/2	灰オリーブ色土 (磯食む)
2	2.5 Y	5/2	暗灰褐色シルト
3	10 Y R	4/1	灰褐色シルト (田耕作土)
4	1.5 Y	4/1	オリーブ褐色砂質シルト
5	10 Y R	4/1	灰褐色砂質シルト
6	2.5 Y	4/1	暗灰黄色砂質シルト (田耕作土)
7	5 Y	4/1	灰褐色シルト (田耕作土)
8	10 Y R	8/8	暗黄褐色砂質シルト (田耕作土)
9			素土
10			素土 (鉛石)
11	5 Y	5/1	灰褐色シルト (田耕作土)
12	5 B	2/1	青灰色シルト
13	2.5 Y	6/4	灰褐色シルト
14	2.5 Y	6/8	暗灰褐色シルト (田耕土)
15	7.5 Y	2/1	黑色砂質シルト
16	10 Y R	5/1	暗褐色シルト (田耕作土)



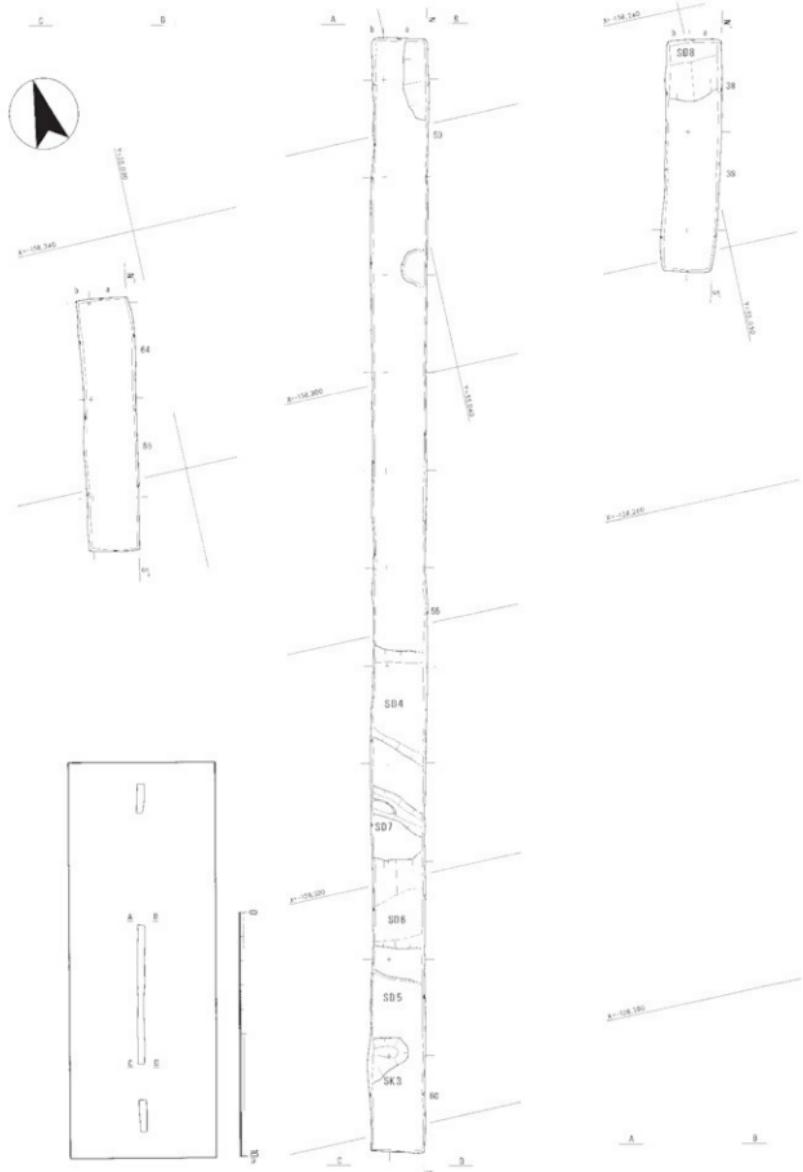
第37図 道場IV地区 遺構平面図 (1:400), 土層断面図 (1:100)



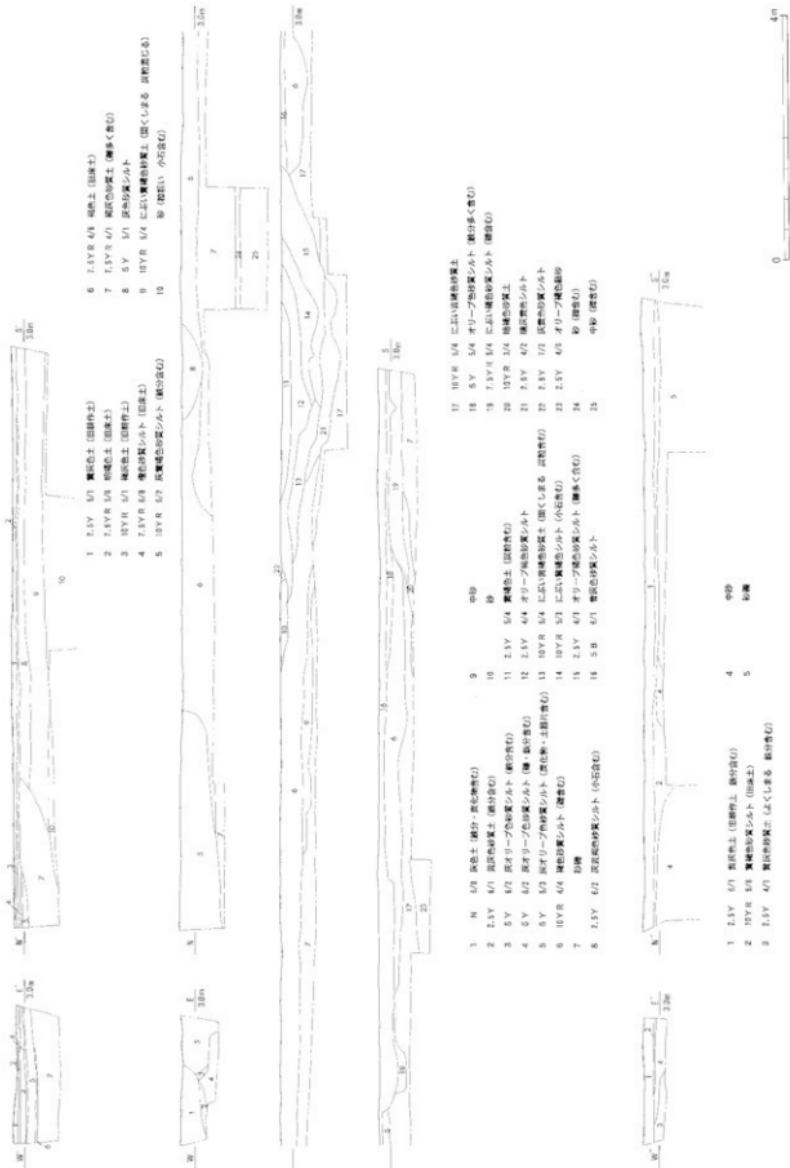
第38図 魚見下起遺跡Ⅰ地区 遺構平面図 (1:400, 1:100)



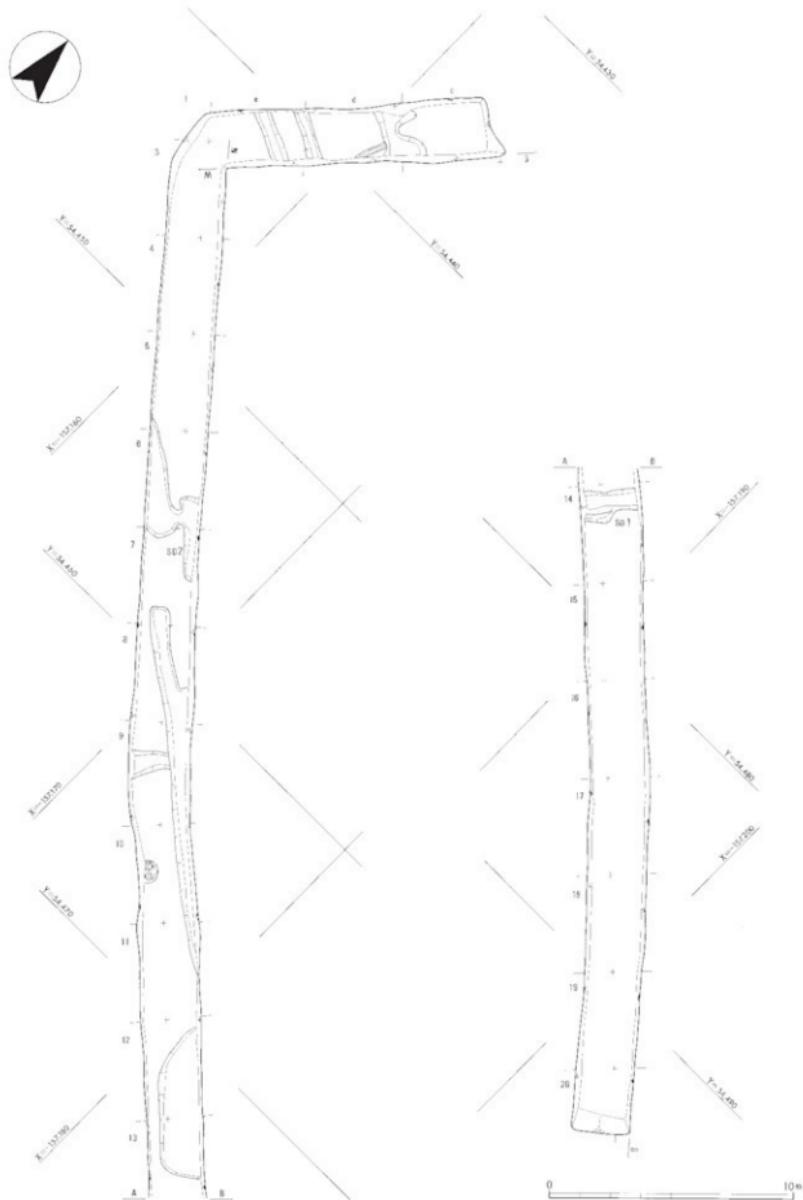
第39図 魚見下起遺跡I地区 土層断面図 (1:80)



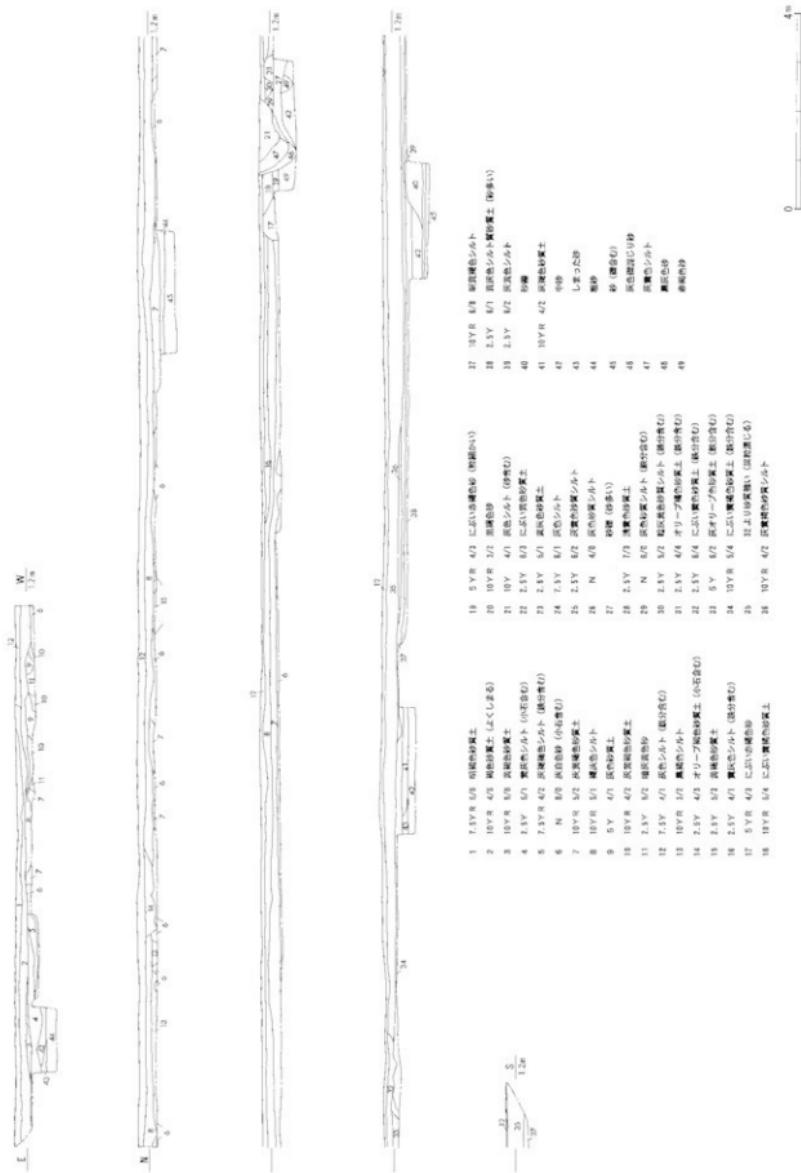
第40図 魚見下起遺跡Ⅱ地区 遺構平面図 (1:200)



第41図 魚見下起跡II地区 土層断面図 (1:80)



第42図 東久保北浦遺跡 遺構平面図 (1:200)



第43図 東久保北浦道路 土層断面図 (1: 100)

#### a 基本層序

現況はビニルハウス栽培の畑地で、もとは水田である。標高約3.2mのところに位置する。層序は第1層が客土、第2層が灰色砂質シルト、第3層が暗灰黄色シルトである。平成12年度に行われた同じ道場地区での調査<sup>②</sup>では、上層と下層の2つの遺構面を確認しているが、今回の第3層が上層検出面にあたるであろう。

#### (11) 道場Ⅳ地区

調査区が、農道とビニルハウスの間の限られた狭いスペースでの調査のため、道場Ⅲ地区と同様に立会調査を行った。

#### a 基本層序

現況はビニルハウス栽培の畑地で、もとは水田である。標高約3.2mのところに位置する。層序は第1層が灰黃褐色シルトなど、第2層が灰色シルト、第3層が暗灰黄色砂質シルトである。

## 2 東久保北浦遺跡

#### a 基本層序

現況は水田であり、標高約1.4mのところに位置する。層序は第1層が灰色シルト、第2層が褐灰色シルト、第3層が灰黃褐色砂質土で、その下に基本的に標高0.9~1.2mで砂層が確認できる。遺構は第3層上面で検出できると考えられる。

#### b 遺構

調査区はL字型で長い方が約72m、幅は約2.5mである。遺構密度が少なく出土遺物も少量である。

## 3 魚見下起跡

県道を挟んで東と西に調査区があり、東側をⅠ地区、西側をⅡ地区とした。

#### a 基本層序

現況は水田であり、標高約3.2~3.4mのところに位置する。Ⅰ地区のほうが少し高いが、砂層の出現を見ると、両地区とも標高約3.0m前後で確認できる。調査区をとおして砂層に微妙な凹凸が見られる。

#### b 遺構

Ⅰ地区は逆L字形で長さ約80m、幅約1.5mの調査区である。遺構密度が少なく、北部と中央部での

み遺構を検出した。Ⅱ地区は間に農道などを挟んで細切れに3つの調査区に分かれる。

**土坑SK3** Ⅱ地区的真ん中の調査区の南端、b59付近で検出した遺構である。西端が調査区外にあるため全体の規模は不明である。埋土からは、南伊勢系の土師器皿や鍋が出土している。16世紀後半頃の遺構であると思われる。

**溝SD8** Ⅱ地区的北の調査区の北端部で検出した遺構である。大部分が調査区外にあるため、規模は不明である。溝としたが土坑である可能性もある。埋土から南伊勢系土師器の小形鍋や鍋が出土している。16世紀後半頃のものと考える。

#### 〔註・参考文献〕

- ① 河北秀実・園田純子 「地掘きの復元と史的検討」『Mie history vol.11』 三重歴史文化研究会 2000年)
- ② 小濱 学・小林俊之 『川島遺跡群(第1次)発掘調査報告』 (三重県埋蔵文化財センター 2002年)

遺構番号	調査時	調査区	小地区	性格	時期	規格(m)	備考
SZ201	SZ201	門前Ⅲ	d2-d3	落ち込み	中世?	幅 0.1 深さ 0.1	
SD202	SD202	門前Ⅲ	d8-e8	溝		幅 1.8 深さ 0.2~0.3	
SD203	SD203	門前ⅣA	c+d37~c+d44	溝	中世後半	幅 1.4 深さ 0.1, 0.6	
SD204	SD204	門前ⅣA	c+d19~c+d23	溝	中世後半	幅 不明 深さ 0.4~0.5	
SD205	SD205	門前ⅣA	c+d43~c+d44	溝	中世	幅 不明 深さ 0.17	東端不明
SD206	SD206	門前ⅣA	c48-d46	溝	中世後半	幅 1.3 深さ 0.2	
SD207	SD207	門前ⅣA	c23-d23	溝	中世	幅 2.5 深さ 0.3	
SD208	SD208	門前ⅣA	c24-d24	溝	中世	幅 1.0 深さ 0.15	
SK209	SK209	門前ⅣA	d24-d25	土坑		径 2.2? 深さ 0.1, 0.2	落ち込みか?
SK210	SK210	門前ⅣA	d25	土坑	中世?	短軸 0.8 深さ 0.2, 0.3	落ち込みか?
SK211	SK211	門前ⅣA	c25	土坑	中世	径 1.5? 深さ 0.1	落ち込みか?
SK212	SK212	門前ⅣA	d25	土坑		径 0.7? 深さ 0.1, 0.3	遺物なし 落ち込みか?
SK213	SK213	門前ⅣA	c36-d36	土坑	中世?	短軸 0.7? 深さ 0.1	
SZ214	SZ214	門前ⅣA	c23-d23		中世?	幅 0.7 深さ 0.05	土師器片 SDか?
SR215	SR215	門前Ⅴ	a6-a12	旧河道	中世以降	幅 17.0 深さ 0.2以上	
SD216	SD216	門前Ⅴ	a+b2~b17	溝	中世後半	幅 1.0 深さ 0.3	
SD217	SD217	門前Ⅴ	b15~b24	溝	16世紀後半頃	幅 不明 深さ 0.4	
SK218	SK218	門前Ⅴ	a+b5~a+b6	土坑	中世	径 2.3 深さ 0.4	
SD219	SD219	門前Ⅱ	a-b22	溝	中世	幅 9.5 深さ 0.3	
SD220	SD220	門前Ⅱ	a-b36	溝	中世?	幅 0.4 深さ 0.2	
SD221	SD221	門前Ⅱ	a-b15	溝	中世前半	幅 0.5 深さ 0.1	
SK222	SK222	門前Ⅱ	a-b37	擾乱			
SK223	SK223	門前Ⅱ	a-b16	土坑	中世?	長軸 1.1×短軸 0.8 深さ 0.2	
SD224	SD224	門前Ⅱ					抹消
SK225	SK225	門前Ⅰ	a68~a-f69	土坑	中世?	径 (2.0) 深さ 0.7(最深部)	
SD226	SD226	門前Ⅰ	a-f60~a-f61	溝	中世後半	幅 不明 深さ 0.5	
SK227	SK227	門前Ⅰ	a61-b61	土坑	中世	径 (1.6) 深さ 0.3	
SD228	SD228	門前Ⅰ	a-f63~a-f64	溝	中世?	幅 2.8 深さ 0.3	
SD229	SD229	門前Ⅰ	b54-c54	溝	中世後半	幅 0.45 深さ 0.2	
SD230	SD230	門前Ⅰ	b-c37~b-c38	溝	16世紀初頭	幅 1.3 深さ 0.1	
SD231	SD231	門前Ⅰ	b53-c53	溝	13世紀後半以降	幅 0.3 深さ 0.2	
SK232	SK232	門前Ⅰ	b37-c37	土坑	13世紀後半以降	短軸 0.6 深さ 0.2	
SD233	SD233	門前Ⅰ	b-c38~b-c39	溝	中世	幅 3.4 深さ 0.1	
SK234	SK234	門前Ⅰ	b36-c36	土坑	13世紀後半以降	短軸 0.4 深さ 0.1~0.2	
SK235	SK235	門前Ⅰ	c4-c5	土坑	12世紀後半~13世紀前半	長軸 3.5×短軸 (0.8) 深さ 0.2	
SK236	SK236	門前Ⅰ	c5-c6	土坑	13世紀後半以降	長軸 2.2×短軸 (0.5) 深さ 0.3	
SE237	SK237	門前Ⅰ	b-c6~b-c7	石組井戸	13世紀前半		
SD238	SD238	門前Ⅰ	e11~e15	溝	13世紀前半	幅 4.5 深さ 0.1~0.2	
SD239	SK239	門前Ⅰ	b8-c8	溝?	15世紀	幅 1.2 深さ 0.3	
SD240	SD240	門前Ⅰ	b-c8~b-c9	溝	13世紀前半	幅 0.7 深さ 0.2	

第1表 川島遺跡 遺構一覧表①

遺構番号	調査時	調査区	地区	性格	時期	規格(m)	備考
SE241	SE241	門前 I	b・c10～b・c11	井戸	15世紀後半	長軸 3.4 × 短軸 (1.4) 深さ 0.9	
SD242	SD242	門前 I	c14～c16	溝	中世前半	幅 不明 深さ 0.3～0.4	SD23Bに切られる。
SD243	SD243	門前 I	b・c9～b・c10	溝	13世紀前半	幅 不明 深さ 0.4	SD240に切られる。
SD244	SD244	門前 I	b・c43～b・c44	溝	中世後半	幅 1.3 深さ 0.2～0.3	
255	255			抹消			
SD256	SD256	門前IVB	g3	溝	中世後半	幅 0.9 深さ 0.1	
SD257	SD257	門前IVB	g4, g5～g9	溝	中世	幅 不明 深さ 0.6以上	SD266を切る。
SK258	SK258	門前IVB	g4	土坑?	15世紀後半		SK259を切る?
SK259	SK259	門前IVB	g4	土坑	13世紀後半以降		
SD260	SD260	門前IVB	g11	溝	中世前半	幅 0.8 深さ 0.1	
SD261	SD261	門前IVB	g17	溝	中世後半以降	幅 3.1 深さ 0.1	
SK262	SK262	門前IVB	g7～g8	土坑	中世前半	幅 不明 深さ 0.1	
SD263	SD263	門前IVB	g8	溝	中世前半	幅 0.6 深さ 0.1	
SD264	SD264	門前IVB	g14	溝	中世	幅 不明 深さ 0.05	
SD265	SD265	門前IVB	g18	溝	中世	幅 2.4 深さ 0.2, 0.65	
SD266	SD266	門前IVB	g6～g8	溝	12世紀後半～13世紀前半		SD257に切られる。or同一か?
SD267	SD267	門前IVB	g5～g6	溝	12世紀後半～13世紀前半	幅 不明 深さ 0.5～0.6	SD257, SD266を切る。
SK268	SK268	門前IVB	g2～g3	土坑	中世		深さ 0.5
SD269	SD269	門前IVB	g16	溝	中世前半	幅 2.0 深さ 0.1	
SD270	SD270	塙角IV	i7	溝	中世前半	幅 0.4 深さ 0.16	
SK271	SK271	塙角IV	i7	土坑	中世前半	短軸 1.0 深さ 0.12	
SD272	SD272	塙角IV	i2～i3	溝		幅 2.4 深さ 0.1～0.2	遺物なし
SB273	SB273	塙角IV	i40～i42	獨立柱建物	中世	(2間) × (2間)	
SK274	SK274	塙角IV	i7	土坑	中世前半	幅 0.8 深さ 0.13	SK271に切られる。
SK275	SK275	奥垣内V	b22～b23	擾乱			
SD276	SD276	奥垣内V	a5～	溝	中世前半	幅 不明 深さ 0.3～0.4	SD278と途中で合流する。
SD277	SD277	奥垣内V	b7～	溝	13世紀前半壙	幅 不明 深さ 0.4～0.5	SD278に切られる。
SD278	SD278	奥垣内V	b15～b21	溝	13世紀前半壙	幅 不明 深さ 0.16～0.3	SD276と途中で合流する。
SD279	SD279	奥垣内V	a24～a26	溝	16世紀後半壙	幅 不明	
SD280	SD280	奥垣内V	a20～a21	溝	中世	幅 不明 深さ 0.13	
SK281	SK281	奥垣内V	b20	擾乱			
SK282	SK282	奥垣内V	b22	土坑	中世	径 1.3 深さ 0.34(最深部)	
SZ283	SZ283	奥垣内V	b3～b5		15世紀	幅 5.8 深さ 0.12	SD276に切られる。
SK284	SK284	奥垣内V	b12	土坑	中世前半	幅 1.3 深さ 0.1	
SD285	SD285	奥垣内VI	e2～e3	溝	13世紀前半	幅 0.6 深さ 0.12～0.2	
SK286	SK286	奥垣内VI	g2～g3	土坑	13世紀後半以降	短軸 0.6 深さ 0.08	
SK287	SK287	奥垣内VI	g2～g3	土坑	13世紀後半以降	短軸 0.66 深さ 0.2	
SD288	SD288	奥垣内VI	d2～d3	溝	13世紀後半以降	幅 0.7 深さ 0.14	
SD289	SD289	奥垣内VI	h3	溝	13世紀後半以降	幅 不明 深さ 0.07	
SK290	SK290	奥垣内VI	n8	土坑	13世紀後半以降	短軸 0.7 深さ 0.1	

第2表 川島遺跡 遺構一覧表②

遺構番号	調査時	調査区	地区	性格	時期	規模(m)	備考
SZ291	SZ291	奥堀内VI	n12	流路?	中世	幅 3.0 深さ 0.1	
SK292	SK292	奥堀内VI	n9-n10	土坑	中世後半	径 1.7 深さ 0.46(最深部)	SK293を含む。
	SK293						抹消
SK294	SK294	門前Ⅲ	d9	土坑	中世以降	短軸 1.5 × 長軸 1.8 深さ 0.3	
SK295	SK295	門前Ⅲ	d8	土坑	近世	短軸 1.2 × 長軸 1.6 深さ 0.5	
SK296	SK296	門前Ⅲ	d8	土坑	中世以降	短軸 1.3 × 長軸 0.8 深さ 0.1	
SK297	SK297	門前Ⅲ	d8	土坑	近世	短軸 1.3 × 長軸 1.6 深さ 0.4	
SK298	SK298	門前Ⅲ	e10	土坑	近世	短軸 2.0 × 長軸 3.2 深さ 0.6	
SK299	SK299	門前Ⅲ	c6	土坑	近世		深さ 0.3
SK300	SK300	門前Ⅲ	d8	土坑	中世以降	径 0.8 深さ 0.1, 0.3	
SK301	SK301	門前Ⅲ	e9	土坑	中世以降	短軸 0.8 × 長軸 1.1 深さ 0.1	
SK302	SK302	門前Ⅲ	c9	土坑	近世	短軸 1.8 × 長軸 2.2 深さ 0.05, 0.2	
SK303	SK303	門前Ⅲ	c9	土坑	近世	径 0.7	深さ 0.3
SK304	SK304	門前Ⅲ	b8-c8	土坑	近世		深さ 0.4
SK305	SK305	門前Ⅲ	c3	土坑	中世以降		集石
SK306	SK306	門前Ⅲ	d9	土坑	中世以降		深さ 0.17 SK294に切られる。
SD307	SD307	門前Ⅲ	d9	溝	中世以降	幅 0.5 深さ 0.1	
SB308	SB308	門前Ⅰ	b50-c50ほか	掘立柱建物	中世か?	(2間) × (2間)	遺物ほとんど無し

第3表 川島遺跡 遺構一覧表③

遺構番号	調査時	調査区	小地区	性格	時期	規模(m)	備考
SK1	SK1	魚見 I	b10	土坑	16世紀後半墳	深さ 約0.5	
SK2	SK2	魚見 I	b3	土坑	中世後半		
SK3	SK3	魚見 II	b59-60	土坑	16世紀後半墳		
SD4	SD4	魚見 II	b56	溝	16世紀後半墳		
SD5	SD5	魚見 II	b59	溝	中世	幅 4.0 深さ 0.1	
SD6	SD6	魚見 II	b58	溝	16世紀後半墳	幅 5.0 深さ ~0.3	
SD7	SD7	魚見 II	b67	溝	16世紀	幅 1.0 深さ 0.1	
SD8	SD8	魚見 II	b38	溝	16世紀後半墳		

第4表 魚見下起遺跡 遺構一覧表

遺構番号	調査時	調査区	小地区	性格	時期	規模(m)	備考
SD1	SD1		e-f14	溝		幅 1.0 深さ 0.2	
SD2	SD2		e-f7	溝		幅 1.0 深さ 0.1	

第5表 東久保北浦遺跡 遺構一覧表

## IV 調査の成果～出土遺物～

### 1 川島遺跡

今回の調査によって出土した遺物は整理箱にして約110箱である。時期的には中世のものが中心であるが、地区によっては近世の遺物も出ている。

以下各調査区ごとの出土遺物について記述する。個々の遺物の詳細については、遺物観察表を参照されたい。

#### (1) 門前Ⅰ地区出土の遺物 (1~68)

溝S D243出土遺物 (1~35) 1~19は南伊勢系土師器小皿、20~28は土師器皿である。小皿についてはいずれも口径約7~8cm、皿については約13~14cm程度である。伊藤裕偉氏による南伊勢系皿の編年<sup>①</sup> (以下、「伊藤編年」と呼称) のIIa期に相当する。

29・30は陶器小皿、31・32は陶器椀である。29~31の底部外面には「匁」の墨書きがある。いずれも知多産のものと考えられ、藤澤良祐氏による編年<sup>②</sup> (以下、「藤澤編年」と呼称) の6型式に相当するものである。

33は常滑産の陶器片口鉢である。

34・35は南伊勢系土師器の鍋である。34の外面には煤が付着している。伊藤裕偉氏による南伊勢系鍋の編年<sup>③</sup> (以下、「伊藤鍋編年」と呼称) の第1段階a~bに相当するものであろう。

土坑S K237出土遺物 (36~39) 36・37は陶器小皿、38は陶器椀である。38はよく使いこまれており、内面がツルツルしている。いずれも渥美産であると思われ、藤澤編年の6型式に併行する。

39は土鍤である。

溝S D240出土遺物 (40) 40は陶器小皿である。底部外面に墨書きがある。

溝S D238出土遺物 (41) 41は陶器椀である。高台部にモミガラ痕が見られる。知多産のもので、藤澤編年の5~6型式に相当すると思われる。

溝S D242出土遺物 (42) 42は陶器椀である。藤澤編年の6型式に相当する。

土坑S K235出土遺物 (43・44) 43は陶器椀、44

は土師器甕である。43は知多産のもので藤澤編年の5型式併行に相当すると思われる。44の内外面には炭化物が付着している。

井戸S E241出土遺物 (45~47) 45は陶器小皿である。底部外面に「匁」の墨書きが、内面には重ね焼き痕が見られる。

46・47は南伊勢系土師器の鍋である。いずれも外面に煤が付着している。46は第3段階b、47は第4段階aに相当する。

p i t 出土遺物 (48~52) 48は陶器椀、49は陶器皿である。いずれも知多産のものである。

50~52は南伊勢系土師器の皿である。51と52は同じp i t から出土している。50は伊藤編年のB系統IIa期、51・52はB系統のIVa期に相当するであろう。

土坑S K239出土遺物 (53~59) 53・54は南伊勢系土師器の鍋、55~58は羽釜である。53は鍋A、54は鍋B; で第4段階のbに相当する。55は小形の羽釜で、短く内傾する口縁部を持ち鈎は短い。56~58は口縁部が内窓し、いわゆる姥口形を呈するものである。

59は瀬戸産の陶器の鉢で、藤澤古瀬戸編年<sup>④</sup>の古瀬戸後II期頃のものと考える。

包含層はか出土遺物 (60~68) 60・61は南伊勢系土師器の小皿、62・63は皿である。62・63はB系統のIIa~IIIbに相当する。

64は陶器小皿、65~67は陶器椀である。65の底部内面には重ね焼き痕が見られる。67の底部外面には「匁」の墨書きがある。

68は須恵器の壺である。表土掘削中に出土したものであるが、中に骨が詰まっていた（骨の同定は「V 自然科学分析」参照）。

#### (2) 門前Ⅱ地区出土の遺物 (69~72)

p i t 出土遺物 (69) 69は12世紀後半頃の土師器の甕である。口縁部が「く」の字状に外反し、端部を折り返す。

表土掘削はか出土遺物 (70~72) 70は土師器高杯

の脚部である。外面に赤色顔料を施している。古墳時代後期頃のものであろう。

71・72は土師器の椀である。同様のものが松阪市の鴻ノ木遺跡<sup>5</sup>で確認されている。口縁部外面が剥離しており、これは鴻ノ木遺跡の例でも同様である。

### (3) 門前Ⅲ地区出土の遺物 (73~91)

溝S D 202出土遺物 (73) 73は土師器の壺で、古墳時代前期頃のものと思われる。

p i t 出土遺物 (74~88) 74~79は同じ p i t から出土している。74・75・76は土師器皿、77・78は土師器椀である。79は陶器椀で、藤澤編年の3型式に併行するかと思われる。

74~76は伊藤編年のA系統の小皿で、I期に相当する。

80~86は同じ p i t 内出土である。80・81は口クロ土師器の小皿である。82は知多産の陶器椀で4型式に相当する。83は猿投産の陶器椀であると思われる。84は土師器椀、85は土錘、86は土師器甕である。

87・88は同じ p i t から出土している。87はI期の小皿、88はフイゴの羽口である。

包含層ほか出土遺物 (89~91) 89は陶器の小椀で、高台はない形である。底部外面に「○」の墨書きが見られる。

90は陶器甕で渥美産と思われる。平底を呈し、外面には平行タタキ目を施す。

91はやや大型の土錘である。

### (4) 門前Ⅳ地区出土の遺物 (92~124)

土坑S K 262出土遺物 (92) 92はロクロ土師器の小皿である。12世紀後半頃のものと思われる。

溝S D 204出土遺物 (93) 93は土師器皿である。伊藤編年のB系統Ⅲ b 期に相当する。

溝S D 260出土遺物 (94) 94は土師器の杯である。口縁部に強いヨコナデを施したため、底部から口縁部にかけてのところに稜を持つ。平安時代中~後期頃のものと思われる。

溝S D 256出土遺物 (95・96) 95は陶器の折縁深皿の口縁部、96は陶器の椀形鉢の高台部である。

95は古瀬戸後 I 期のものと思われる。

溝S D 206出土遺物 (97) 97は南伊勢系土師器の鍋である。伊藤鍋編年の鍋Cに相当する。

溝S D 265出土遺物 (98・99) 98は瀬戸の折縁中皿の口縁部である。古瀬戸後 I 期のものと思われる。小片であったため、本来の大きさよりも小さく図示しているかもしれない。

99は常滑の練鉢の口縁部である。

溝S D 203出土遺物 (100) 100は南伊勢系土師器の羽釜で、口径が約22cmと小形のものである。

土坑S K 258出土遺物 (101・102) 101・102は南伊勢系土師器の鍋Aに相当するものである。101は煤が付着しておらず未使用のものと思われる。また102は外面の煤が五徳の使用を示唆する形で付着しており、おもしろい(図版20)。素地の状況から15世紀前半頃のものであると思われる。

溝S D 266出土遺物 (103~111) 103は南伊勢系土師器の甕である。I期に相当する時期のものであろう。

104は陶器の小椀、105~109は陶器椀である。全体的によく使いこまれている痕跡が見られる。いずれも藤澤編年の4型式に相当すると思われる。

110は土錘、111は陶器の壺である。111は底部に砂粒の圧痕が見られる。渥美産のものであろう。

包含層ほか出土遺物 (112~124) 112は須恵器杯蓋である。古墳時代後期のものである。

114は土師器の甕で7世紀代のものと思われる。

115は青磁の椀の高台部、116は陶器壺、117は知多産の陶器の皿である。115の外面は鍋連弁文と考えられる。

118・119は南伊勢系土師器の小皿、120~122は皿である。伊藤編年のⅢ b ~ IV a 期に相当する。

123は土錘である。

124は土師器椀である。71と同様のもので、口縁部外面が剥離している。

### (5) 門前Ⅴ地区出土の遺物 (125~193)

溝S D 216出土遺物 (125~135) 125は瀬戸産の陶器の平椀、126・127は知多産の陶器椀である。

128~130は南伊勢系土師器の皿で、B系統IV a 期に相当する。

131・132は土師器椀の高台部である。口縁は71

や72のようなものとなる。

133は瀬戸産陶器の練鉢である。古瀬戸後I～II期のものと考えられる。

134・135は南伊勢系土師器の鍋Aである。

溝S D 217出土遺物（136～181） 136は常滑産の陶器の練鉢、138は無頭壺、139～142は甕である。139は外面に煤、内面に炭化物が付着している。140～142は常滑産のものであろう。

143～147は南伊勢系土師器の皿である。143～145はB系統IV b期に相当するものであり、146・147はD系統のものであろう。

148～151は南伊勢系の土師器椀、152は陶器丸椀である。

153～159は陶器椀である。いずれも藤澤編年の5型式～6型式に相当すると思われる。他の遺物との関係から混入遺物であると考える。

160・161は茶釜蓋である。底部は欠損しているが、おそらく底部内面につまみがつくと思われる。

162は加工円盤である。常滑の甕の体部を利用していると思われる。

163は南伊勢系土師器の小形の羽釜、164～175は鍋、176～178は茶釜、179～181は壺である。164は鍋A、165～168は鍋C、169～175は鍋Bで、第4段階d～eに相当する。179～181は口縁部の形態は茶釜と同じであるが、それよりも大形であるためここでは壺とした。

土坑S K 218出土遺物（182・183） 182は瀬戸産の陶器平椀、183は陶器椀である。他の出土遺物から、183は混入遺物であると考える。

旧河道S R 215出土遺物（184～191） 184は瀬戸産陶器の擂鉢である。古瀬戸後IV期（新）のものである。

185・186は陶器椀である。藤澤編年の5型式に相当する。

187は土師器椀で、口縁部外面が剥離する。124などと同様のものである。

188は18世紀頃の磁器椀で、肥前・波佐見系のものと思われる<sup>6</sup>。189も同じく18世紀頃の陶器椀で、瀬戸美濃系のものである。底部外面に墨書が見られる。

190・191は近世の南伊勢系土師器の小皿である。

190は内面に墨書が見られる。

包含層ほか出土遺物（192・193） 192は須恵器壺の口縁部である。古墳時代後期頃のものであろう。

193は平瓦片であるが、砥石に転用されているようである。

#### （6）門前VII地区出土の遺物（194～239）

土坑S K 297出土遺物（194～198） 194・195は土師器皿である。いずれも油煙が付着しており、灯明皿として使用されたものであろう。かなり赤い胎土で、他の出土遺物とも考え合せると、近世のものであると思われる。

196は陶器の灯明受皿である。口縁部には油煙が付着している。灰釉が施されており、油溝が半月形を呈す。信楽産であると思われる。

197は陶器皿、198は磁器椀である。

包含層など出土遺物（199） 199は天目茶椀である。瀬戸の大窯期のものであろう。

土坑S K 305出土遺物（200） 200は陶器の鉢である。

土坑S K 304出土遺物（201～209） 201は土師器小皿、202は天目茶椀の高台部、203は陶器の灯明受皿である。203は灰釉が施されており、油溝が半月形を呈す。信楽産と思われる。

204は磁器皿である。

205は瓦質の焙烙である。久居市以北でよく見られ、南勢での出土は珍しい<sup>7</sup>。

207は銭貨（寛永通寶）である。

208は瀬戸産の陶器擂鉢、209は常滑産の陶器鉢である。

いずれも18世紀代のものと思われる。

土坑S K 299出土遺物（210～215） 210は陶器椀で、瀬戸美濃産のものである。津市に所在する雲出島貢遺跡でも同様のものが出土している<sup>8</sup>。

211は磁器椀、212は陶器大皿、213は陶器土瓶、214は土師器の焙烙、215は陶器（炻器）である。コンロや七厘のようなものであると思われる。211は瀬戸美濃産、213は信楽産であろう。

土坑S K 295出土遺物（216～219） 216は陶器灯明皿、217・218は灯明受皿である。いずれも灰釉が施されている。216は見込み部分に環状痕が見ら

れる。217・218の油溝は切立状である。いずれも瀬戸美濃産であると思われる。

219は銭貨（寛永通寶）である。

いずれも18世紀～19世紀代のものと思われる。

土坑S K298出土遺物（220～231） 220～222は土師器小皿である。222の口縁部に油煙が確認できることから灯明皿であると思われる。

223は陶器の灯明受皿である。鉄釉が施されており、油溝は切立状を呈す。瀬戸美濃産である。

224は陶器の蓋である。煤が付着している。

225は陶器椀、226は陶器鉢である。

227は陶器の擂鉢である。瀬戸産のものである。

228は陶器の筒状花器ではないかと思われるが、徳利の可能性もある。

229は磁器の小形壺であると思われる。口縁は円形であるが、器形は六角柱のように体部にそれぞれ面を持つ。肥前・波佐見系であろう。

230は五輪塔片で風輪である。

231は南伊勢系土師器の壺である。中には土師器皿片が入れられていた。

土坑S K302出土遺物（232～239） 232は丸瓦片である。凸面部にスタンプが施されている。

233は磁器で仮飯器である。瀬戸美濃産のものであろう。

234・235は磁器の皿である。底部内面に同様の型押文様が見られる。瀬戸美濃産のものであると思われる。

236・237は磁器の椀、238は蓋である。内面には「成化年製」の文字が確認できる。237は肥前・波佐見系、それ以外は瀬戸美濃産であると考える。

239は平瓦片である。後端面の部分に232と同型のスタンプが押されている。

（7）奥垣内V地区出土の遺物（240～294・296・298）

溝S D279出土遺物（240～272） 240は南伊勢系土師器の小皿、241・242は皿、243は椀の高台部である。伊藤編年による241・242はC系統に相当する。

244・245は天目茶椀で、大窯期のものである。

246～249は南伊勢系土師器の鍋A、250～258は

鍋Bである。いずれも伊藤鍋編年の第4段階c～dにおさまるものと思われる。

259～261は陶器鉢である。259は常滑産の練鉢で、内面に十文字のヘラ記号が施されている。260・261は瀬戸産の擂鉢で内外面に鉄泥が施される。大窯II期に相当する。

262は石製の硯である。

263・264は加工円盤である。いずれも常滑産の甕の体部を転用したものである。

265・266は南伊勢系土師器の茶釜、267～270は鍋C、271・272は羽釜である。

溝S D277出土遺物（273～287） 273は南伊勢系土師器の小皿、274～277は皿である。いずれもIIb期に相当するものと思われる。

278は南伊勢系土師器の鍋である。第1段階aに相当する。

279は陶器小皿、280～286は陶器の椀である。

285は底部外面上に「団」の墨書きが見られる。286の底部外面上にも墨書きが見られる。藤澤編年の5～7型式にあたるであろう。

287は土師器壺の口縁部で、古墳時代前期のものであろう。他の出土遺物から、混入遺物であると考える。

溝S D278出土遺物（288～291） 288は陶器小椀、289・290は椀である。290の底部外面上には「団」の墨書きが見られる。藤澤編年の5～7型式に相当すると思われる。

291は南伊勢系土師器の鍋である。第4段階cに相当する。S D278は12世紀後半～13世紀前半頃の造構であると考えており、291はこの時期に合わない。造構掘削時に、それとは気付かず新しい造構も一緒に掘削したのかもしれない。

溝S D276出土遺物（292～294） 292は土師器の高杯である。脚部外面上に柳描文と刺突文が施されている。古墳時代前期のものと思われる。混入遺物であろう。

293は灰釉陶器の皿、294は陶器の椀である。294は知多産であると思われ、藤澤編年の第6型式に相当するものであろう。内面には炭化物が付着している。

表土掘削ほか出土遺物（296・298） 296は陶器の

椀である。渥美産であると思われる。内面に炭化物が付着している。

298はクロコ土師器の皿である。

(8) 奥垣内Ⅶ地区出土の遺物 (295・297・299～304)

表土掘削ほか出土遺物 (295・297) 295は陶器皿。297は白磁の椀である。297の底部内面に重ね梳痕が見られる。

溝S D 285出土遺物 (299～303) 299は南伊勢系土師器小皿、300は皿、303は鍋である。303は第1段階a～bに相当する。

301は陶器小皿、302は陶器椀である。いずれも知多産で藤澤編年の第5～6型式に相当する。

S Z 291出土遺物 (304) 304は常滑産の陶器甕である。

## 2 魚見下起遺跡

土坑SK 3出土遺物 (1～6) 1～4は南伊勢系土師器の皿である。IVc期に相当する。

5は土師器の蓋、6は鍋である。6は第4段階eに相当する。

溝S D 7出土遺物 (7) 7は陶器皿である。底部内面にトチ痕が確認できる。瀬戸産のものであろう。

p i t 出土遺物 (8) 8は南伊勢系土師器の鍋である。器高が低く、焙烙に近い器形になってきている。伊藤鍋編年の第4段階eに相当する。

包含層ほか出土遺物 (9・10) 9は陶器の水滴、10は天目茶椀である。いずれも鉄釉が施されている。瀬戸産のものであろう。

土坑SK 8出土遺物 (11～14) 11は南伊勢系土師器の鍋A、12・14は鍋C、13は鍋Bである。これらは第4段階d～eに相当する。

土坑SK 1出土遺物 (15) 15は南伊勢系土師器の鍋Cである。

溝S D 4出土遺物 (16) 16は南伊勢系土師器の鍋Aである。

土坑SK 2出土遺物 (17) 17は南伊勢系土師器の蓋である。

## 【註・参考文献】

① 以下、南伊勢系の土師器皿については、  
伊藤裕偉 『岩出地区内遺跡群発掘調査報告』 (三重県埋蔵文化財センター 1996年)

伊藤裕偉 『多気遺跡群発掘調査報告』 (三重県埋蔵文化財センター 1993年)  
による。

② 以下、陶器椀については、  
藤澤良祐 『山茶碗研究の現状と課題』 (『研究紀要』第3号 三重県埋蔵文化財センター 1994年)  
による。なお、本文中では「山茶椀」を「陶器椀」、「山皿」を「陶器小皿」とする。

③ 以下、南伊勢系の鍋については、  
伊藤裕偉 『伊勢の中世煮沸用土器から東海を見る』 (『鍋と食そのデザイン』 第4回東海考古学フォーラム 1996年)  
伊藤裕偉 『中世南伊勢系の土師器に関する一試論』 (『Mie history』 vol.1 三重歴史文化研究会 1990年)  
による。

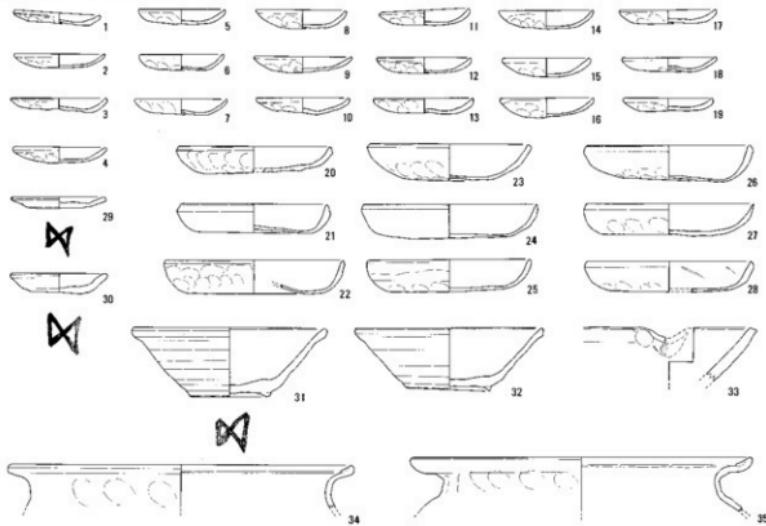
④ 以下、古瀬戸について、  
『研究紀要』第5輯 (財団法人 瀬戸市埋蔵文化財センター 1997年)  
藤澤良祐 『瀬戸・美濃大窯編年の再検討』 (『研究紀要』第10輯 財団法人 瀬戸市埋蔵文化財センター 2002年)  
による。

⑤ 森川常厚ほか 『鴻ノ木遺跡(上巻編)』 (三重県埋蔵文化財センター 1998年)

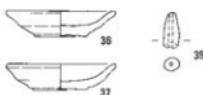
⑥ 近世の出土遺物については、  
井汲隆夫ほか 『内藤町遺跡』 第II分冊 (遺物編) (新宿区内藤町遺跡調査会 1992年)  
を主に参照した。

⑦ 伊藤裕偉氏の御教示による。  
⑧ 伊藤裕偉 『鷗抜Ⅱ』 (三重県埋蔵文化財センター 2000年)

門町 I 地区 SD243 (1~35)



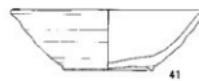
S K237 (36~39)



S D240 (40)



S D238 (41)



S D242 (42)



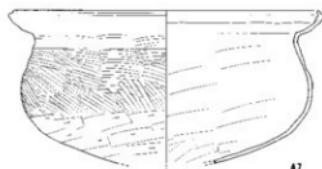
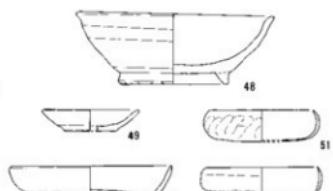
S K235 (43, 44)



S E241 (45~47)



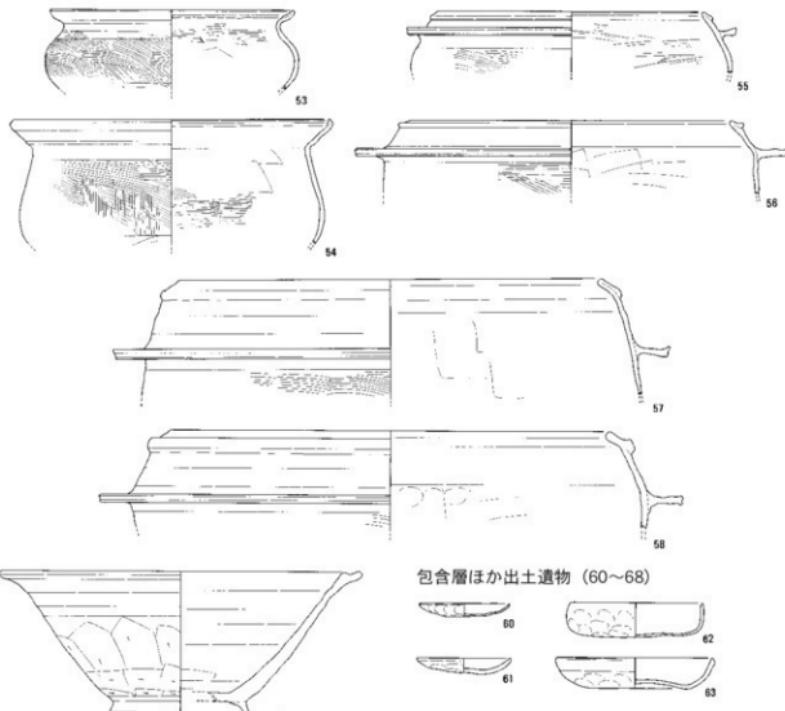
p i t 出土遺物 (48~52)



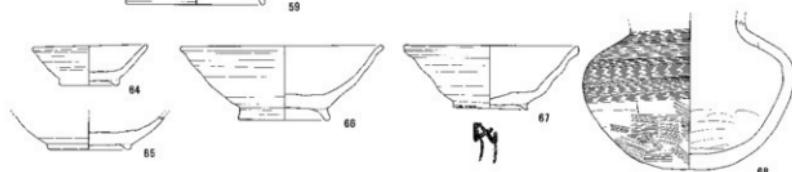
20cm

第44図 門町 I 地区 出土遺物実測図 (1:4)

門前 I 地区 SK239 (53~59)



包含層ほか出土遺物 (60~68)

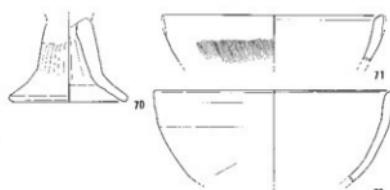


門前 II 地区 pit 出土遺物 (69)



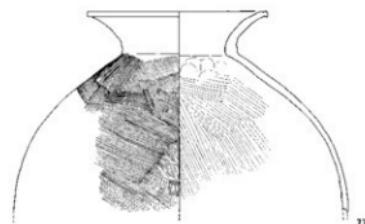
0 20 cm

門前 II 地区 表土掘削ほか出土遺物 (70~72)

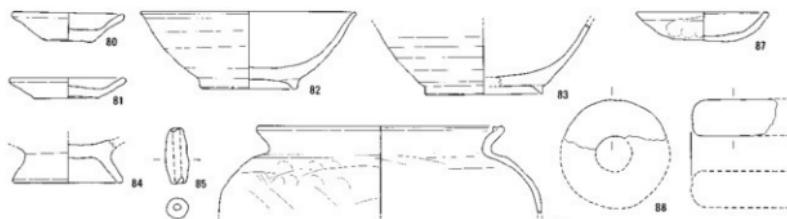
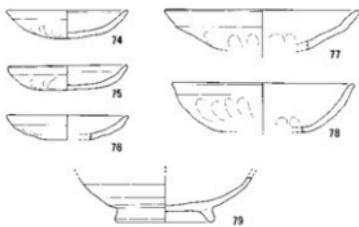


第45図 門前 I・II 地区 出土遺物実測図 (1:4)

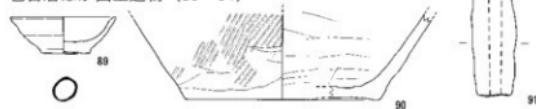
門前Ⅲ地区 S D 202 (73)



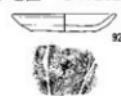
p i t 出土遺物 (74~88)



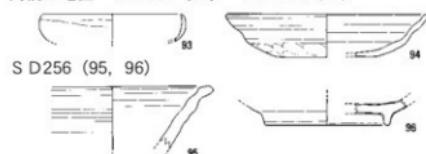
包含層ほか出土遺物 (89~91)



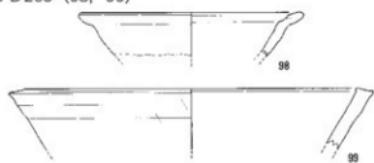
門前Ⅳ地区 S K 262 (92)



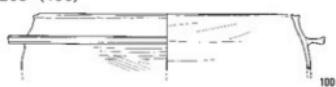
門前Ⅳ地区 S D 204 (93) S D 260 (94)



S D 265 (98, 99)



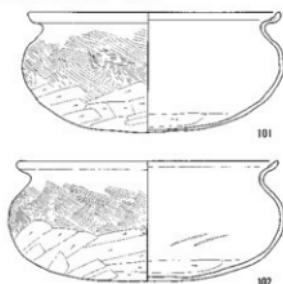
S D 203 (100)



門前Ⅳ地区 S D 206 (97)



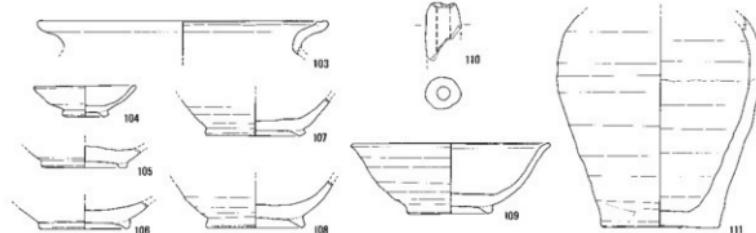
S K 258 (101, 102)



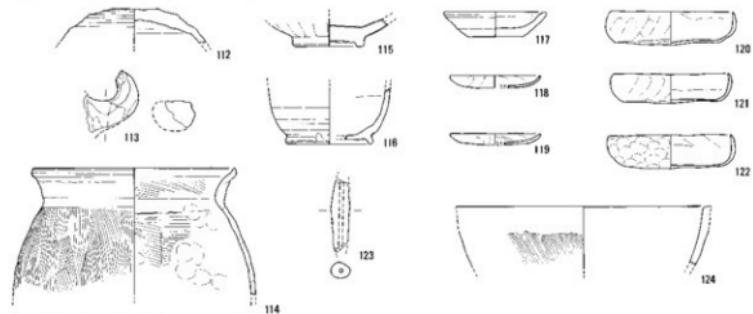
0 20 cm

第46図 門前Ⅲ・Ⅳ地区 出土遺物実測図 (1:4)

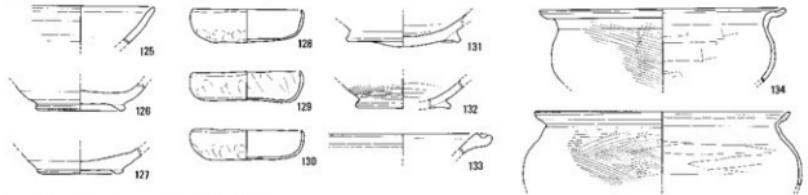
門前IV地区 S D266 (103~111)



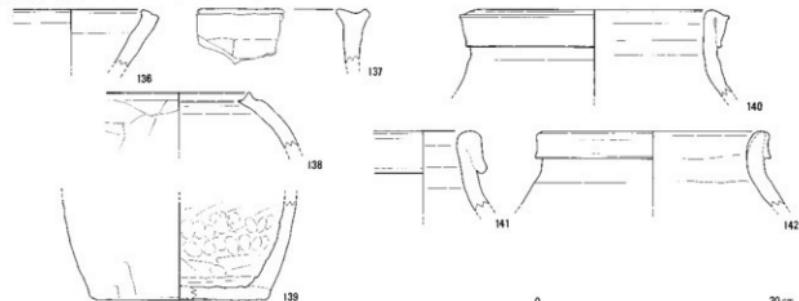
包含層ほか出土遺物 (112~124)



門前V地区 S D216 (125~135)

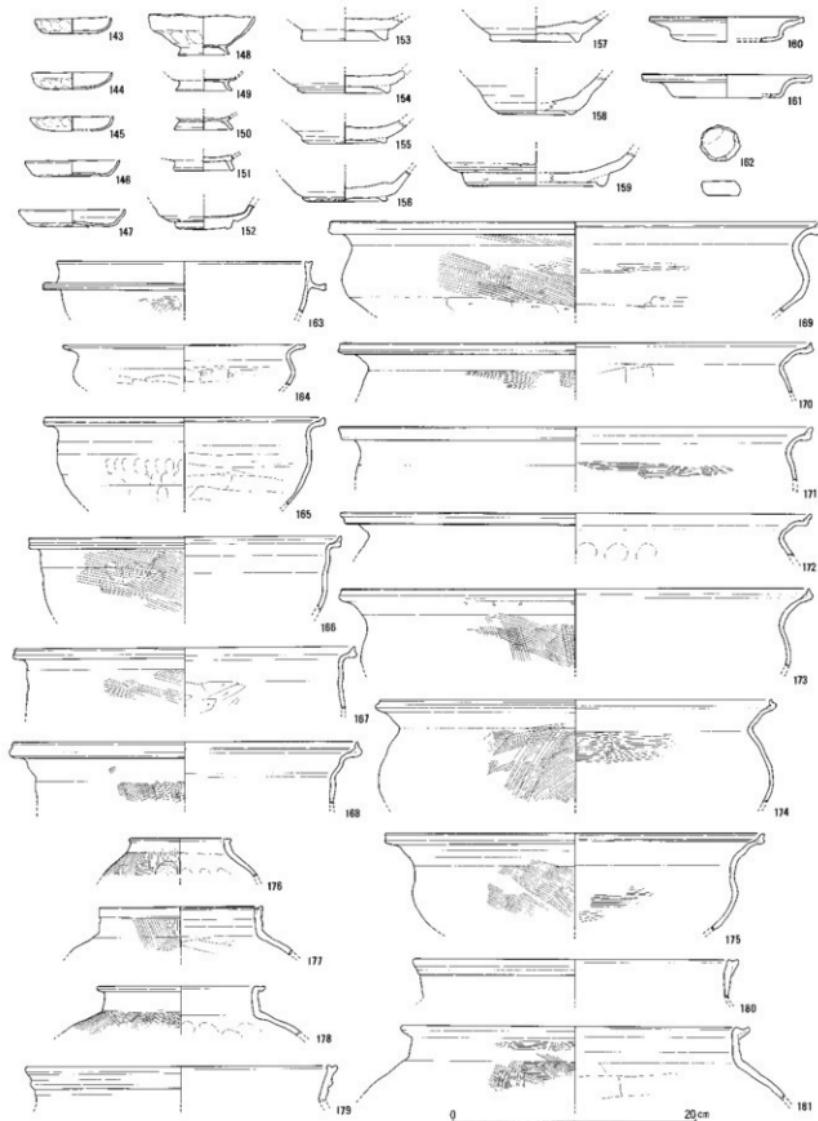


門前V地区 S D217 (136~181)



第47図 門前IV・V地区 出土遺物実測図 (1:4)

門前V地区 SD217 (136~181)

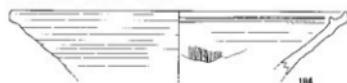


第48図 門前V地区 出土遺物実測図 (1:4)

門前V地区 SK218 (182, 183)



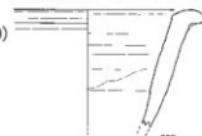
S R215 (184~191)



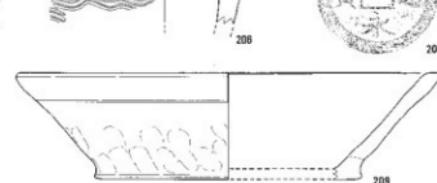
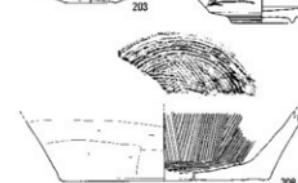
門前V地区 SK297 (194~198)



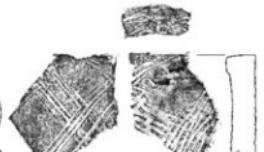
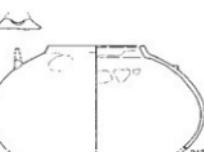
門前V地区 SK305 (200)



SK304 (201~209)



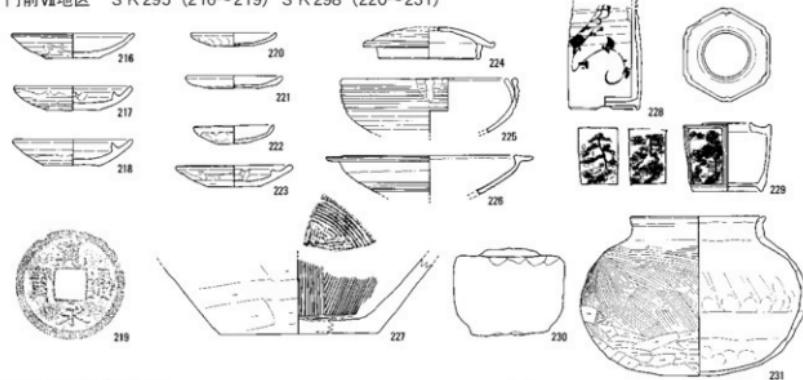
SK299 (210~215)



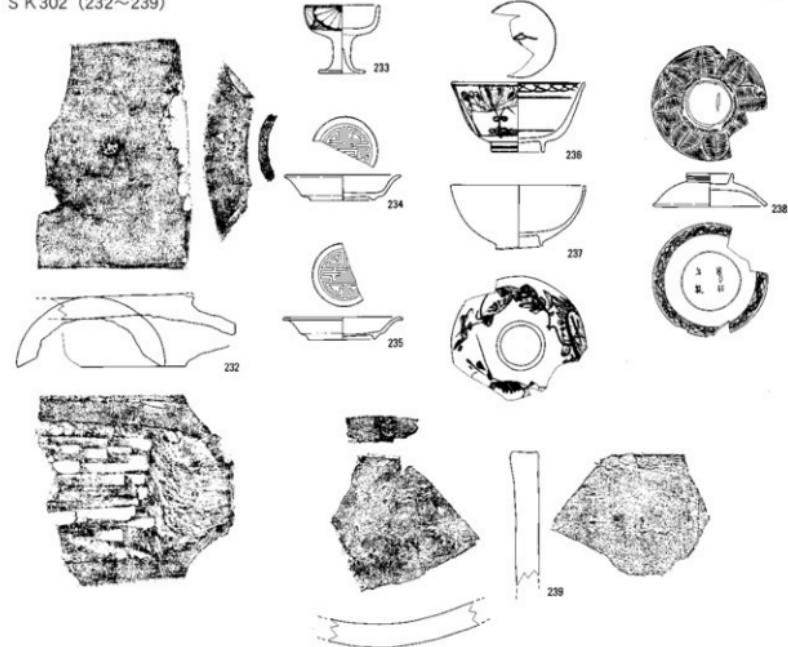
0 20 cm

第49図 門前V・VII地区 出土遺物実測図 (1:4, 207は1:1)

門前VII地区 SK 295 (216~219) SK 298 (220~231)



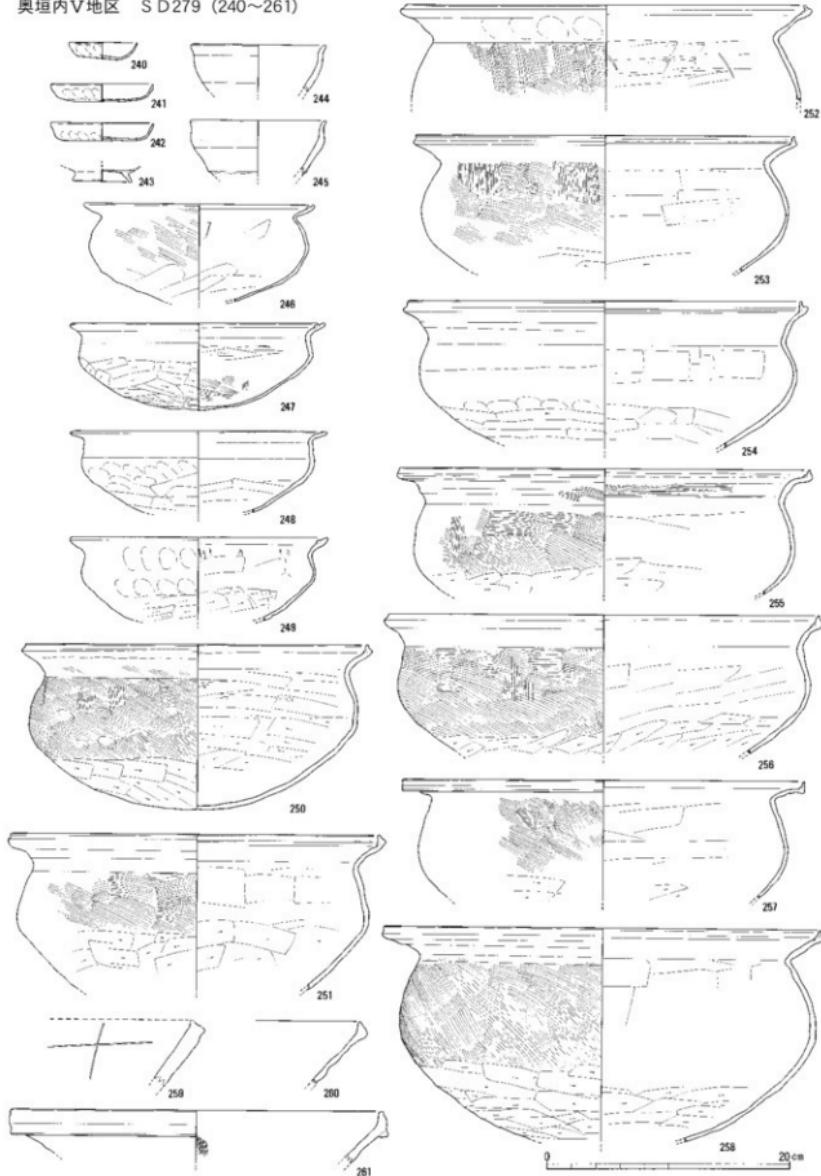
SK 302 (232~239)



0 20 cm

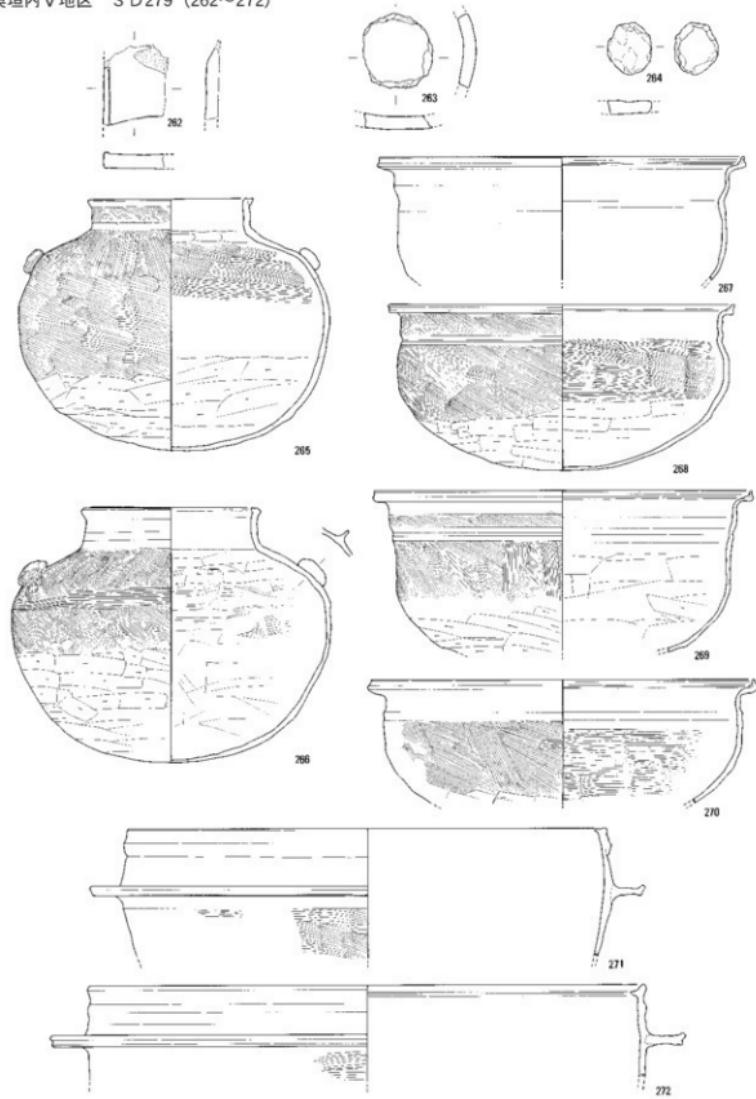
第50図 門前VII地区 出土遺物実測図 (1:4, 219は1:1)

奥垣内V地区 S D279 (240~261)



第51図 奥垣内V地区 出土遺物実測図 (1:4)

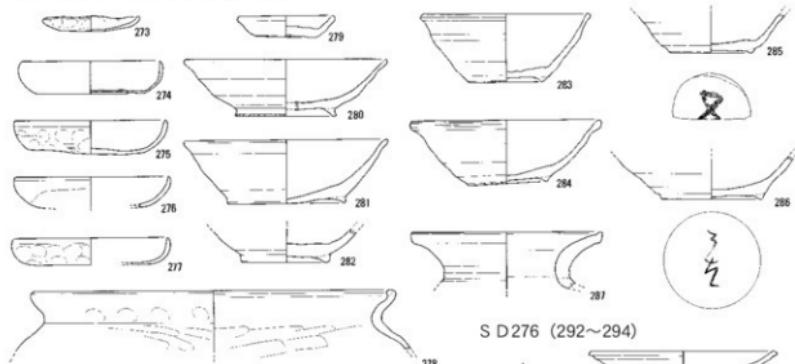
奥垣内V地区 S D279 (262~272)



0 20cm

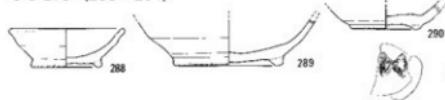
第52図 奥垣内V地区 出土遺物実測図 (1:4)

奥垣内V地区 S D 277 (273~287)



S D 276 (292~294)

S D 278 (288~291)

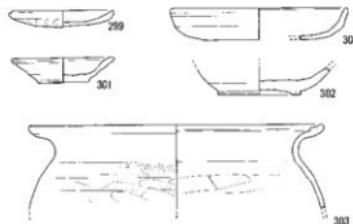


奥垣内V・VI地区

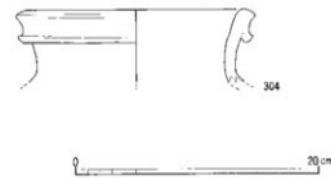
表土掘削ほか出土遺物 (295~298)



奥垣内VI地区 S D 285 (299~303)



奥垣内VI地区 S Z 291 (304)



第53図 奥垣内V・VI地区 出土遺物実測図 (1:4)

魚見下起遺跡Ⅱ地区 SK 3 (1~6)



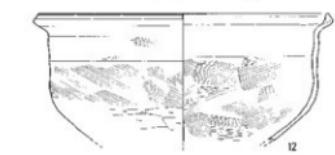
魚見下起Ⅱ SD 7 (7)



魚見下起Ⅱ 表土 (10)



魚見下起Ⅱ SK 8 (11~14)



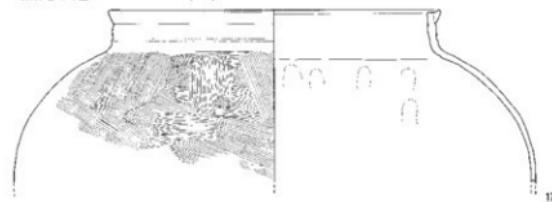
魚見下起Ⅰ SK 1 (15)



魚見下起Ⅱ SD 4 (16)



魚見下起Ⅰ SK 2 (17)



0 20 cm

第54図 魚見下起遺跡Ⅰ・Ⅱ地区 出土遺物実測図 (1:4)

番号	登録番号	種類	地区	出土位置 層	計測値(cm)			調査(技法)の特徴	地土	構成	色調	保存度	備考	
					口径	幅	高さ							
1	039-06	土師器 小皿	門前 I	b+9 SD243 ②	6.7~7.2	0.8~1.2		内面:ナデ・オサエ 内面:ナデ	やや細(～2.0mm の砂粒含)	土	底質 SYR 8/4 底質 SYR 7/3	良	7/8	南伊勢
2	039-08	土師器 小皿	門前 I	b+9 SD243	7.5	1.1		内面:ナデ・オサエ 内面:ナデ	やや細	土	にじい縁 SYR 3/4	1/2	南伊勢	
3	039-05	土師器 小皿	門前 I	b+9 SD243	7.8~8.1	0.8~1.2		内面:ナデ・オサエ 内面:ナデ	密	底質 7SYR 8/3 8/4	良存	南伊勢		
4	040-00	土師器 小皿	門前 I	b+10 SD243 ②	7.4~7.8	1.3		内面:ナデ・オサエ 内面:ナデ	やや細(～2.0mm の砂粒含)	土	灰白 10YR 8/2	良存	内面凹凸付 南伊勢	
5	040-01	土師器 小皿	門前 I	b+10 SD243 ②	6.7~10	1.2		内面:ナデ・オサエ 内面:ナデ	やや細(～2.0mm の砂粒含)	土	底質 7SYR 8/4 底質 10YR 8/2	ほぼ完存	南伊勢	
6	040-12	土師器 小皿	門前 I	b+10 SD243	7.0	1.3		内面:ナデ・オサエ 内面:ナデ	中細(～2.0mm の砂粒含)	土	底質 SYR 8/4 底質 10YR 8/3	3/4	南伊勢	
7	040-10	土師器 小皿	門前 I	b+10 SD243 ②	7.6~8.1	1.3		内面:ナデ・オサエ 内面:ナデ	やや細(～1.0mm の砂粒含)	土	底質 10YR 8/3	ほぼ完存	南伊勢	
8	040-09	土師器 小皿	門前 I	b+10 SD243 ②	7.4~11	1.5		内面:ナデ・オサエ 内面:ナデ	やや密	土	縁 SYR 7/8	完存	南伊勢	
9	039-04	土師器 小皿	門前 I	b+9 SD243	8.0~8.2	1.3		内面:ナデ・オサエ 内面:ナデ	やや密	土	底質 7SYR 8/4	完存	南伊勢	
10	039-07	土師器 小皿	門前 I	b+9 SD243 ②	7.65	1.4		内面:ナデ・オサエ 内面:ナデ	やや密	土	にじい縁 SYR 3/4	1/2	南伊勢	
11	040-06	土師器 小皿	門前 I	b+10 SD243	7.5	1.0~1.4		内面:ナデ・オサエ 内面:ナデ	やや密(～2.0mm の砂粒含)	土	にじい縁 SYR 3/4	完存	南伊勢	
12	039-03	土師器 小皿	門前 I	b+9 SD243 ②	7.6~8.0	1.3		内面:ナデ・オサエ 内面:ナデ	やや密	土	縁 SYR 7/8	完存	南伊勢	
13	040-05	土師器 小皿	門前 I	b+10 SD243 ②	7.9~8.2	1.3		内面:ナデ・オサエ 内面:ナデ	やや細(～2.0mm の砂粒含)	土	にじい縁 SYR 7/4 底質 10YR 8/1	完存	南伊勢	
14	040-07	土師器 小皿	門前 I	b+10 SD243	7.8~8.2	1.5		内面:ナデ・オサエ 内面:ナデ	やや密	土	にじい縁 7SYR 7/4 底質 7SYR 6/1	完存	南伊勢	
15	040-02	土師器 小皿	門前 I	b+10 SD243 ②	7.1~7.8	1.6		内面:ナデ・オサエ 内面:ナデ	やや細(～2.0mm の砂粒含)	土	縁 SYR 7/8 7/6 底質 7SYR 6/3	完存	南伊勢	
16	040-04	土師器 小皿	門前 I	b+10 SD243 ②	7.7~7.9	1.6		内面:ナデ・オサエ 内面:ナデ	やや細(～2.0mm の砂粒含)	土	底質 7SYR 8/4 にじい縁 10YR 7/4	ほぼ完存	南伊勢	
17	040-03	土師器 小皿	門前 I	b+10 SD243 ②	7.5~8.0	1.1		内面:ナデ・オサエ 内面:ナデ	やや密	土	にじい縁 SYR 7/4 にじい縁 10YR 7/4	完存	南伊勢	
18	040-11	土師器 小皿	門前 I	b+10 SD243 ②	7.8~8.0	1.2		内面:ナデ・オサエ 内面:ナデ	やや密	土	縁 SYR 7/8	1/2	南伊勢	
19	039-09	土師器 小皿	門前 I	b+9 SD243	7.4	1.1		内面:ナデ・オサエ 内面:ナデ	やや細(～2.0mm の砂粒含)	土	底質 7SYR 8/4 底質 10YR 8/1	5/8	南伊勢	
20	041-04	土師器 皿	門前 I	b+10 SD243 ②	12.8	2.1		内面:ナデ・オサエ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	やや細(～1.5mm の砂粒含)	土	底質 10YR 8/3	9/10	小がみ有り 南伊勢	
21	042-01	土師器 皿	門前 I	b+9 SD243	12.0~13.0	2.4		内面:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	底(～3.2mmの砂 粒含)	土	底質 10YR 8/3 8/4	完存	南伊勢	
22	039-02	土師器 皿	門前 I	b+10 SD243	14.8	2.75		内面:ナデ・オサエ 内面:ナデ	やや密(～1.0mm の砂粒含)	土	底質 7SYR 8/3 底質 10YR 8/2	1/4	南伊勢	
23	042-04	土師器 皿	門前 I	b+10 SD243 ②	13.0	3.0		内面:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	底(～1.0mmの砂 粒含)	土	底質 7SYR 8/2 底質 10YR 7/2	1/2	小がみ大 南伊勢	
24	042-03	土師器 皿	門前 I	b+9 SD243	14.0	2.8		内面:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	底(～1.5mmの砂 粒含)	土	底質 7SYR 8/4 にじい縁 SYR 7/4	ほぼ完存	南伊勢	
25	039-01	土師器 皿	門前 I	b+10 SD243	13.5	2.8		内面:ナデ・オサエ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	やや密	土	にじい縁 SYR 7/4 内面 底質 10YR 5/1	5/8	南伊勢	
26	042-02	土師器 皿	門前 I	b+9 SD243 ②	13.5~14.0	2.8		内面:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	やや密(～1.0mm の砂粒含)	土	底質 10YR 8/4	完存	南伊勢	
27	042-05	土師器 皿	門前 I	b+9 SD243 ②	13~13.8	2.5		内面:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	やや密(～2.0mm の砂粒含)	土	内面 にじい縁 7SYR 7/4 内面 底質 10YR 8/2	ほぼ完存	南伊勢	
28	041-03	土師器 皿	門前 I	b+9 SD243 ②	13.8	2.5		内面:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	密	土	底質 10YR 8/3	1/3	南伊勢	
29	044-06	陶器 小皿	門前 I	b+10 SD243	7.8	1.25	底径 3.7	内面:ロクナナ・糸切V・後ナデ 内面:ロクナナ	やや密(～1.0mm の砂粒含)	土	底白 SY 3/1	3/4	一部自然 底質 10YR 8/4 知多産	
30	044-05	陶器 小皿	門前 I	b+9 SD243	8.0	1.65	底径 4.7	内面:ロクナナ・糸切V 内面:ロクナナ	やや密(～1.0mm の砂粒含)	土	底白 SY 3/1	ほぼ完存	自然粘 底質 10YR 8/4 知多産	
31	044-02	陶器 皿	門前 I	b+10 SD243 ②	13.8~14.4	5.2~6.1		内面:ロクナナ・糸切V・貼付け後ナデ 内面:ロクナナ	底(～2.5mmの砂 粒含)	土	底白 2SY 3/1 底白 1SY 6/1	完存	老子山 底質 10YR 8/4 知多産	
32	044-01	陶器 皿	門前 I	b+9 SD243 ②	15.6	5.2		内面:ロクナナ・糸切V・貼付け後ナデ 内面:ロクナナ	やや密(～4.0mm の砂粒含)	土	底白 1SY 3/1	3/4	老子山 知多産	
33	044-03	陶器 片口器	門前 I	b+9 SD243				内面:ロクナナ 内面:ロクナナ	内面:にじい縁 SYR 8/3 内面:底質 SYR 8/2	口縁小片 深底	にじい縁 SYR 7/3 底質 10YR 8/2 にじい縁			
34	041-01	土師器 鍋	門前 I	b+9 SD243 ②	26.7			内面:オサエ・ヨコナデ 内面:ヨコナデ	底(～3.5mmの小 石含)	土	底白 10YR 8/3 底質 10YR 8/3 にじい縁	1/3	外腹付 南伊勢	

第6表 川島遺跡 出土遺物観察表①

番号	登録番号	器種	地区	出土位置 （遺構）	計測値(cm)			調査(技術)の特徴	出土	集成	色調	保存度	備考
					口径	高さ	その他						
35	041-02	土器器 類	門前 I	b+9 BK243 ②	28.2			内面:オサエ-ヨコナデ 内面:ロクナデ	直(~1.7mmの砂 粒含)	外壁:にじむ様 内面:済青緑 1.5YR 8/2 黒斑:10YR 5/1	直 灰白 2.5Y 8/1	1/4	南伊勢
36	046-04	陶器 小皿	門前 I	b+7 BK237	8.0	2.1	底径 4.3	内面:ロクナデ-先切U 内面:ロクナデ	中中密	直 灰白 2.5Y 8/1	1/4	自然施 薬美濃	
37	046-03	陶器 小皿	門前 I	b+7 BK237	8.0	2.1	底径 4.5	内面:ロクナデ-先切U 内面:ロクナデ	やや密	直 灰白 2.5Y 8/1	1/2	薬美濃	
38	046-02	陶器 小皿	門前 I	b+6 BK237			高台径 7.8	内面:ロクナデ-先切U後ナデ-點付け後ナデ 内面:ロクナデ	やや密	直 灰白 2.5Y 7/1	高台部 完存	使用歴	
39	046-04	土器	門前 I	b+7 BK237	8.0	1.3	幅 6.0		中中密	直 にじむ様 2.5YR 6/2	直 灰白 1kg		
40	048-05	陶器 小皿	門前 I	b+9 BK240			底径 4.7		中中密(~1.8mm の砂粒含)	直 灰白 2.5Y 8/1	1/3	底斑付 薬美濃	
41	047-04	陶器 小皿	門前 I	b+13 BK238	15.8	5.0	高台径 7.0	内面:ロクナデ-先切U-點付け後ナデ 内面:ロクナデ	中中密(~3.5mm の砂粒含)	直 灰白 N 8/9	1/6	自然施 モガラ病 知多連	
42	048-02	陶器 小皿	門前 I	a15 BK242	14.5	5.2	高台径 6.5	内面:ロクナデ-先切U-點付け後ナデ 内面:ロクナデ	中中密(~1.5mm の砂粒含)	直 灰白 5Y 3/1	1/2	モガラ病 知多連	
43	047-03	陶器 小皿	門前 I	a6 BK235			高台径 7.1	内面:ロクナデ-先切U-點付け後ナデ 内面:ロクナデ	中中密(~1.8mm の砂粒含)	直 灰白 N 7/0 内面:灰白 N 8/0	高台部 完存	モガラ病 知多連	
44	047-01	土器器 類	門前 I	c5 BK235	25.2			内面:オサエナデ 内面:ロクナデ-ヨコナデ	中中密(~3.5mm の砂粒含)	直 灰白 3YR 8/4 明褐色 7.5YR 7/2	1/6	内面保付 直	
45	046-06	陶器 小皿	門前 I	b+11 SE241			底径 4.7	内面:ロクナデ-先切U 内面:ロクナデ	やや密	直 灰白 2.5Y 8/1	底斑付 知多連 ほぼ完存		
46	045-03	土器器 類	門前 I	b+10 SE241	27.0			内面:オサエナデ-ヨコナデ 内面:オサエナデ-ヨコナデ	やや密	直 にじむ様 10YR 8/2 二級黄 10YR 7/3	1/5	外面部付 南伊勢	
47	046-01	土器器 類	門前 I	b+10 SE241	25.0			内面:オサエナデ-ヨコナデ 内面:ケズイ-工具-オサエナデ	中中密	直 にじむ様 10YR 7/3	1/4	外面部付 ハケナシ-2.5cm 南伊勢	
48	047-02	陶器 小皿	門前 I	c4 p55	16.0	5.8-8.0	高台径 3.1	内面:ロクナデ-先切U後ナデ-點付け後ナデ 内面:ロクナデ	中中密(~3.0mm の砂粒含)	直 灰白 N 8/0 内面:灰白 2.5Y 8/1	3/4	モガラ病 知多連	
49	047-05	陶器 小皿	門前 I	b+4 p56	7.8	1.8	底径 4.0	内面:ロクナデ-先切U後ナデ 内面:ロクナデ	中中密(~1.2mm の砂粒含)	直 灰白 N 8/9	1/8	知多連	
50	048-03	土器器 類	門前 I	a11 p11	13.0	2.4		内面:オサエナデ-ヨコナデ 内面:オサエナデ	中中密(~5.0mm の砂粒含)	底 灰青 10YR 8/4 二級黄 10YR 7/4	1/3	南伊勢	
51	048-07	土器器 類	門前 I	c28 p11	8.5			内面:オサエナデ-ヨコナデ 内面:オサエナデ	直(~1.0mmの砂 粒含)	底 灰青 2.5Y 8/3	3/8	南伊勢	
52	048-04	土器器 類	門前 I	c38 p11	9.2	2.4		内面:オサエナデ-ヨコナデ 内面:オサエナデ	直(~1.5mmの砂 粒含)	底 灰青 2.5Y 8/3	完存	南伊勢	
53	044-04	土器器 類	門前 I	b+8 BK239	20.0		底盤径 20.8	内面:オサエナデ-ヨコナデ 内面:オサエナデ-ヨコナデ	直(~1.5mmの砂 粒含)	底 灰青 10YR 8/3	1/6	ハケナシ-2.5cm 南伊勢	
54	043-03	土器器 類	門前 I	b+9 BK239 西壁	26.0			内面:オサエナデ-ヨコナデ 内面:工具-オサエナデ	中中密(~2.0mm の砂粒含)	底 灰青 10YR 8/3	小片	外面部付 南伊勢	
55	043-02	土器器 類	門前 I	b+9 BK239 西壁	21.8		つば径 27.2	内面:オサエナデ-點付け後ナデ-ヨコナデ 内面:工具-オサエナデ	中中密(~1.5mm の砂粒含)	底 灰青 10YR 8/3	1/4	外面部付 南伊勢	
56	045-02	土器器 類	門前 I	b+9 BK239	26.4		つば径 33.5	内面:オサエナデ-點付け後ナデ-ヨコナデ 内面:軸ナデ-ヨコナデ	やや密	底 灰白 2.5Y 8/2	1/4	内面保付 ハケナシ-1.3cm 南伊勢	
57	043-01	土器器 類	門前 I	b+9 BK239 西壁	35.0		つば径 46.0	内面:オサエナデ-點付け後ナデ-ヨコナデ 内面:軸ナデ-ヨコナデ	直(~3.0mmの砂 粒含)	底 灰青 10YR 8/4	1/6	南伊勢	
58	045-01	土器器 類	門前 I	b+9 BK239 ②	36.0		つば径 48.0	内面:オサエナデ-點付け後ナデ-ヨコナデ 内面:ハラカズイ-旋押え-ヨコナデ	直(~2.0mm の砂粒含)	底 灰青 10YR 7/3	ハケナシ-2.5cm 南伊勢		
59	044-07	陶器 鉢	門前 I	b+9 BK239 西壁	29.3	11.8	裏白径 11.2	内面:ロクナデ-ヘラカズイ-點付け後ナデ 内面:ロクナデ	直(~4.0mmの砂 粒含)	底 灰 7.5Y 8/1 底 灰白 1.5Y 2/1	口縁:小片 底:灰白		
60	048-06	土器器 小皿	門前 I	b+11 BK239	7.2	1.15		内面:オサエ 内面:オサエ	中中密(~2.0mm の砂粒含)	底 灰青 2.5Y 8/2	3/8	小がみ有り 南伊勢	
61	049-07	土器器 小皿	門前 I	裏土掘削	7.7	1.3		内面:オサエ-ヨコナデ 内面:オサエ-ヨコナデ	やや密	底 3YR 7/8 底 灰白 10YR 8/1	3/4	南伊勢	
62	049-06	土器器 小皿	門前 I	裏土掘削	11.0	2.8		内面:オサエ-ヨコナデ 内面:オサエ-ヨコナデ	中中密(~5.0mm の砂粒含)	底 灰白 10YR 8/2	2/3	南伊勢	
63	049-05	土器器 小皿	門前 I	裏土掘削	13.1	2.5		内面:オサエ-ヨコナデ 内面:オサエ-ヨコナデ	中中密	底 にじむ様 7.5YR 3/4	1/2	南伊勢	
64	050-04	陶器 小皿	門前 I	c3 底全層	9.5	31-33	裏白径 4.9	内面:ロクナデ-先切U-點付け後ナデ	やや密	底 灰白 2.5Y 8/1	5/6	自然施 薬美濃	
65	048-01	陶器 小皿	門前 I	b+21 底全層	6.0		裏白径 7.8	内面:ロクナデ-先切U-點付け後ナデ 内面:ロクナデ	密	底 灰白 N 8/9		自然施 薬美濃 底斑付内面保付	
66	050-02	陶器 小皿	門前 I	c3 底全層	16.0	6.1	裏白径 6.1	内面:ロクナデ-先切U-點付け後ナデ 内面:ロクナデ	やや密	底 灰白 N 8/0		モガラ病 底斑付内面保付 多少差?	
67	050-03	陶器 小皿	門前 I	裏土掘削	14.4	5.2	裏白径 6.1	内面:ロクナデ-先切U-點付け後ナデ 内面:ロクナデ	中中密(~4.0mm の砂粒含)	底 灰白 N 7/0 底 灰白 N 8/0	1/4	モガラ病 底斑付内面保付 多少差?	
68	050-01	漆器器 類	門前 I	裏土掘削			体形径 17.5	内面:ロクナデ-タキキ-ケズイ-カキメ 内面:ロクナデ	中中密(~7.0mm の砂粒含)	底 灰青 7/0 底 灰白 N 5/0	漆器から 移行 自然施 中見葉		

第7表 川島遺跡 出土遺物観察表②

番号	登録番号	器種	地区	出土位置 遺構	計測値(cm)			調査(技法)の特徴	地土	構成	色調	保存度	備考
					口径	基高	その他						
69	049-01	土器器 皿	門前Ⅱ	b15 pH1	22.0			内面:工芸ナ-デ-ヨコナデ 内面:ナ-デ-ヨコナデ	やや暗 (~11.0mm の小粒含む)	泥	にじみ暗 灰 7SYR 3/4 6/4 灰白 7SYR 5/2 にじみ黄褐 10YR 7/3	1/6	
70	049-04	土器器 皿	門前Ⅱ	b43 東室				内面:ナ-デ-ヨコナデ 内面:ヨコナデ	白や密	泥	壁 SYR 7SYR 3/4 底 SYR 7SYR 5/2 底黄褐 10YR 8/3	開口部 1/4	外表面赤褐色付着
71	049-03	土器器 皿	門前Ⅱ	a27 西室	18.0			内面:ナ-デ-ヨコナデ 内面:ナ-デ-ヨコナデ	白や密	泥	底黄褐 10YR 8/3 底灰 10YR 4/1 底灰 N 5/0	1/6	口部断面剥離 ハケ付口底部
72	049-02	土器器 皿	門前Ⅱ	表土面附	18.8			内面:ナ-デ-ヨコナデ 内面:ナ-デ-ヨコナデ	白や密	泥	にじみ暗 灰 7SYR 7/4 灰 N 4/0	1/6	
73	069-01	土器器 皿	門前Ⅲ	a8 SD202	14.7			内面:ナ-エ-ヨコナデ 内面:ナ-エ-オサ-ナ-ヨコナデ	やや暗 (~2.0mm の小粒含む)	泥	内面:にじみ暗 灰 7SYR 7/3 内面:にじみ黄褐 10YR 7/3	完存	ハケ付5cm×1.5m (外側)
74	012-01	土器器 皿	門前Ⅲ	d3 pH1	10.0	2.3		内面:ナ-エ-ヨコナデ 内面:ナ-エ-ヨコナデ	やや暗 (~2.0mm の小粒含む)	泥	灰白 10YR 8/2	ほぼ完存	南伊勢
75	012-02	土器器 皿	門前Ⅲ	d3 pH1	10.0	2.0		内面:オサ-ナ-ヨコナデ 内面:ナ-エ-ヨコナデ	白や密	泥	底黄褐 10YR 8/3	15/16	南伊勢
76	012-03	土器器 皿	門前Ⅲ	d3 pH1	10.0	2.0		内面:オサ-ナ-ヨコナデ 内面:ナ-エ-ヨコナデ	やや暗 (~5.0mm の小粒含む)	泥	灰白 10YR 8/2	1/2	南伊勢
77	013-02	土器器 皿	門前Ⅲ	d3 pH1	16.0			内面:ナ-エ-ヨコナデ 内面:オサ-ナ-ヨコナデ	やや暗 (~2.0mm の小粒含む)	泥	底黄褐 7SYR 8/4	1/6	
78	013-01	土器器 皿	門前Ⅲ	d3 pH1	14.8			内面:オサ-ナ-ヨコナデ 内面:オサ-ナ-ヨコナデ	やや暗 (~4.0mm の小粒含む)	泥	底黄褐 7SYR 8/4 にじみ暗 灰 7SYR 7/3	3/6	中がみ大
79	012-06	陶器 瓶	門前Ⅲ	d3 pH1				内面:ロクロナ-ナ-底V-貼付け後ナデ 内面:ロクロナ-ナ	壁 (~2.0mmの砂 粒含む)	泥	灰白 5Y 1/1	万台部 完存	自然崩 使用痕 底部剥離
80	014-06	匁付 土器器 皿	門前Ⅲ	d3 pH2	9.3	2.3	底径 4.3	内面:ロクロナ-ナ-底V-貼付け後ナデ 内面:ロクロナ-ナ	白や密	泥	灰白 10YR 8/2	1/3	
81	014-05	ロクロ 土器器 皿	門前Ⅲ	d3 pH2	8.2-9.8	1.8	底径 5.4	内面:ロクロナ-ナ-底V-貼付け後ナデ 内面:ロクロナ-ナ	やや暗 (~2.5mm の小粒含む)	泥	灰白 10YR 8/2	完存	
82	014-01	陶器 瓶	門前Ⅲ	d3 pH2	17.7	8.3	台高 8.0	内面:ロクロナ-ナ-底V-貼付け後ナデ 内面:ロクロナ-ナ	白や密 (~6.0mm の小粒-砂粒含む)	泥	灰白 5Y 7/1	1/2	使用痕 モザイク 粘土層
83	014-02	陶器 瓶	門前Ⅲ	d3 pH2			高台径 8.7	内面:ロクロナ-ナ-底V-貼付け後ナデ 内面:ロクロナ-ナ	白や密 (~1.0mm の砂粒含む)	泥	灰白 N 8/9	高台部 1/2	使用痕 確認?
84	014-04	土器器 皿	門前Ⅲ	d3 pH2			高台径 8.1	内面:ナ-デ-横方向ナデ 内面:ナ-デ	やや暗 (~1.5mm の砂粒含む)	泥	外面:にじみ暗 7SYR 6/4 内面:底黄褐 10YR 5/2	高台部 1/2	保付帯?
85	015-03	土器	門前Ⅲ	d3 pH2	4.5	1.8	穴径 0.8		白や密	泥	底黄褐 10YR 8/3 底灰 10YR 3/1		重量 11.15g
86	015-01	土器器 皿	門前Ⅲ	d3 pH2	20.6			内面:オサ-ナ-エ-ナ-ヨコナデ 内面:工芸ナ-ヨコナデ	やや暗 (~2.0mm の砂粒含む)	泥	にじみ暗 灰 7SYR 7/3 底灰 10YR 3/2	1/6	
87	012-04	土器器 皿	門前Ⅲ	d4 pH1	11.0	2.3		内面:オサ-ナ-ヨコナデ 内面:ナ-ヨコナデ	やや暗 (~3.0mm の砂粒含む)	泥	灰白 10YR 8/2	3/4	南伊勢
88	013-05	斐ゴ の口	門前Ⅲ	d4 pH1					壁 (~10.0mm の小粒含む)	泥	底黄褐 10YR 8/2 底灰 7SYR 8/4 底灰褐 10YR 6/2		
89	014-07	陶器 瓶	門前Ⅲ	表土掘附	8.8	3.0	底径 4.0	内面:ロクロナ-ナ-底V-貼付け後ナデ 内面:ロクロナ-ナ	白や密 (~3.0mm の砂粒含む)	泥	灰白 N 7/0	1/3	底削付帯「〇」 知多産
90	014-03	陶器 瓶	門前Ⅲ	壁附				内面:ナ-デ-ヨコナデ 内面:工芸ナ-デ	白や密	泥	外面: N 8/9 内面:灰白 5Y 7/1	1/4	底削痕
91	015-02	土器	門前Ⅲ	d4+9 底付	高さ 6.5	幅 3.5	穴径 1.0		白や密	泥	灰白 10YR 8/2 底黄褐 10YR 6/3		重量 125.5g 使用痕あり
92	035-02	ロクロ 土器器 皿	門前Ⅳ	s7 BK262	6.5	1.5	底径 5.2	内面:ロクロナ-ナ-底V-貼付け後ナデ 内面:ロクロナ-ナ	やや暗 (~1.5mm の砂粒含む)	泥	にじみ暗 7SYR 7/4	1/3	
93	015-07	土器器 皿	門前Ⅳ	a-011 SD204	11.4			内面:ナ-デ 内面:ナ-デ	白や密 (~2.0mm の砂粒含む)	泥	灰白 2SY 8/2	1/4	南伊勢
94	035-01	土器器 皿	門前Ⅳ	s11 SD260	16.6	3.5		内面:オサ-ナ-ヨコナデ 内面:ナ-ヨコナデ	白や密 (~1.5mm の砂粒含む)	泥	壁 SYR 6/6	2/5	
95	035-04	陶器 折縫器皿	門前Ⅳ	s3 SD256				内面:ロクロナ-ナ 内面:ロクロナ-ナ	壁 (~1.0mmの砂 粒含む)	泥	素地:灰白 7SY 8/1 輪郭:灰白 7SY 7/2	口縁小片 底削痕	
96	035-05	陶器 折縫器皿	門前Ⅳ	s3 SD256			高台径 10.2	内面:ロクロナ-ナ 内面:ロクロナ-ナ	壁 (砂粒含む)	泥	素地:底黄褐 10YR 8/2 輪郭:灰白 5Y 8/1-8/2	高台部 1/4 底削痕	
97	034-01	土器器 皿	門前Ⅳ	c-046 SD266	27.2		底付径 24.1	内面:ナ-ケズ-ヨコナデ 内面:ケズ-ナ-ヨコナデ	密 (~1.0mmの砂 粒含む)	泥	にじみ暗 灰 7SYR 4/2 内面:底灰 7SYR 5/4 にじみ暗 灰 7SYR 5/3	2/5	外側付帯 化粧土壁 南伊勢
98	038-02	陶器 折縫器皿	門前Ⅳ	s18 SD265	18.5			内面:ロクロナ-ナ 内面:ロクロナ-ナ	白や密	泥	素地:灰白 5Y 8/1-8/2 輪郭:灰白 5Y 7/2	1/12	底削 底部
99	038-01	陶器 折縫器皿	門前Ⅳ	s18 SD265	30.0			内面:ロクロナ-ナ 内面:ロクロナ-ナ	白や密 (~3.0mm の砂粒含む)	泥	底黄褐 3SY 5/1-4/1 内面:底灰 3SY 6/3	口縁小片 常滑産	
100	015-04	土器器 皿	門前Ⅳ	d40 SD203	22.0		つば径 28.2	内面:ナ-ケズ-ヨコナデ 内面:工芸ナ-デ	白や密	泥	にじみ暗 灰 7SYR 7/2 6/2	1/6	外側付帯 化粧土壁 南伊勢
101	038-02	土器器 皿	門前Ⅳ	s4 SK258 ①	21.4	10.8		内面:ナ-ケズ-ヨコナデ 内面:ナ-ケズ-ヨコナデ	白や密 (~2.3mm の砂粒含む)	泥	底黄褐 10YR 8/3 にじみ暗 SYR 7/4	1/2	南伊勢
102	038-01	土器器 皿	門前Ⅳ	s4 SK258 ②	21.2	8.8		内面:ナ-ケズ-ヨコナデ 内面:ナ-ケズ-ヨコナデ	密 (~1.0mmの砂 粒含む)	泥	底黄褐 10YR 8/3	完存	外側付帯 化粧土壁 ハマ木本・南伊勢

第8表 川島遺跡 出土遺物観察表③

番号	登録番号	種類	地区	出土位置 遺物 名	計測値(cm)			調整(技術)の特徴	地土	構成	色調	保存度	備考	
					口径	幅	高さ							
103	037-03	土器等 類	門前V	g8 SD266	24.0			内面:ロクロナデ 内面:テジ-ヨコナデ	中や細(~2.5mm の砂粒含)	土	灰白・ 灰黄 23Y 1/2	5/3	1/6	南伊勢
104	038-03	陶器 小瓶	門前V	g7 SD266	8.4	25	高台径 3.8	内面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	中や細	土	灰白 BY 3/1			口縁:火打 底:自然 灰白色
105	037-05	陶器 瓶	門前V	g8 SD266 ②			高台径 6.8~7.2	内面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	中や細	土	灰白 10YR 8/2		1/6	使用度 高精度
106	037-06	陶器 瓶	門前V	g9 SD266 ④			高台径 7.4~7.7	内面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	中や細	土	灰白 BY 3/1		1/6	高台部 軽量化? 底:灰白色?
107	037-04	陶器 瓶	門前V	g8 SD266 ③			高台径 8.2	内面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	中や細	土	灰白 23Y 3/2		1/6	使用度 灰白色
108	037-02	陶器 瓶	門前V	f-7 SD266			高台径 7.8~8.1	内面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	やや粗	土	灰白 BY 3/1			高台部 灰白色
109	034-02	陶器 瓶	門前V	g8 SD266 ⑤	16.0	5.8	高台径 7.0	内面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	中や細(~1.5mm の砂粒含)	土	灰白 23Y 3/1 灰白 23Y 6/1		2/3	高精度
110	038-09	土器	門前V	g7 SD266	4.7	2.9	穴径 1.1	内面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	中や細	土	灰白 10YR 5/2 にじむ灰 SYR 6/4			重量: 25.6g
111	037-01	陶器 瓶	門前V	g8 SD266 ①			底径 8.2~8.7	内面:ケヅリ-ロクロナデ 内面:ロクロナデ	やや粗	土	灰白 N 7/0			底部灰分 自然灰 底精度
112	034-03	漆器等 付属	門前V	g20 梅原土				内面:ロクロナデ-ロクロケズリ	やや粗(~3.5mm の砂粒含)	土	灰白 N 7/0 灰 N 6/0			
113	035-03	土器等 把手	門前V	g11 金具					中や細(~2.0mm の砂粒含)	土	漆喰壁 10YR 8/3			
114	034-05	土器等 把手	門前V	g14 トレンチ	16.7		盤面径 14.8	内面:ハケメナデ-ヨコナデ 内面:オサエ-ナデ-ヒダ-ハケ後ナデ-ヨコナデ	中や細(~1.5mm の砂粒含)	土	にじむ灰壁 10YR 6/3 灰壁 15YR 4/2		1/5	外縁:火打 ハケ-火打-底:灰
115	015-06	青磁 瓶	門前V	g15 盆底			高台径 5.9	内面:ロクロエズリ-割り出し高台	粗	土	灰地:灰白 10Y 7/1 輪:オーナー灰 10Y 6/2		1/6	施釉 輪底灰分
116	035-06	陶器 瓶	門前V	b17 木屋			高台径 7.1	内面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	底(~1.0mmの砂 粒含)	土	灰地:灰白 23Y 6/2 輪:にじむ灰壁 10YR 6/4		1/6	施釉
117	034-04	陶器 小瓶	門前V	g8 骨壺	8.4	2.05	底径 4.8	内面:ロクロナデ-あ切U 内面:ロクロナデ	中や細(~2.0mm の砂粒含)	土	灰白 23Y 3/1		1/3	自然灰 母貝灰
118	038-08	土器等 小瓶	門前IVB	表土剥離	7.4			内面:オサエ-ナデ 内面:ナデ	やや粗	土	灰白 10YR 8/2		1/3	中がく有り 南伊勢
119	038-07	土器等 小瓶	門前IVB	表土剥離	7.4			内面:オサエ-ナデ 内面:ナデ	やや粗	土	外面:漆喰灰 SYR 7/2 内面:灰白 23Y 6/2		1/3	南伊勢
120	038-06	土器等 盆	門前IVB	表土剥離	10.1	2.8		内面:オサエ-ナデ 内面:ナデ	やや粗	土	外面:灰白 23Y 6/2 内面:にじむ灰壁 10YR 7/2		1/3	南伊勢
121	038-06	土器等 盆	門前IVB	表土剥離	8.4	2.4		外面:オサエ-ナデ 内面:ナデ	やや粗	土	外面:灰白 23Y 6/2 内面:にじむ灰壁 10YR 7/2		1/3	南伊勢
122	038-04	土器等 盆	門前IVB	表土剥離	10.0	2.7		内面:オサエ-ナデ 内面:ナデ	やや粗	土	灰白 23Y 6/2			ほぼ完存/南伊勢
123	035-07	土器	門前V	g9 トレンチ			底径 6.0	内面:ロクロナデ 内面:ナデ	中や細(~1.0mm の砂粒含)	土	にじむ灰壁 10YR 7/4 壁 SYR 6/6			重量: 10.5g
124	015-05	土器等 盆	門前VA	表土剥離	21.0			外面:ハケメナデ-ヨコナデ 内面:ナデ-ヨコナデ	やや粗	土	外面:灰白 23Y 7/2 内面:灰 BY 5/1		1/6	口縁:火打剥離 ハケ-火打-底:灰
125	010-06	陶器 平底	門前V	b17 SD216				内面:ロクロエズリ 内面:ロクロナデ	底(微粉粒)	土	灰地:灰白 23Y 7/1 輪:にじむ灰壁 SYR 6/4			施釉 輪底灰分
126	009-07	陶器 瓶	門前V	b5 SD216			高台径 7.4	内面:ロクロナデ-あ切U-貼付け後ナデ 内面:ロクロナデ	底(~1.5mmの砂 粒含)	土	灰白 10Y 8/1		1/2	自然灰 輪底灰分 知多島
127	009-06	陶器 瓶	門前V	b2 SD216			高台径 7.0	内面:ロクロナデ-あ切U-貼付け後ナデ 内面:ロクロナデ	中や細(~1.5mm の砂粒含)	土	灰白 7.5Y 7/1		2/2	使用度 モガラ灰 知多島
128	009-01	土器等 盆	門前V	b5 SD216 ②	8.2	2.7		内面:オサエ-ナデ 内面:ナデ	中や細(~3.5mm の砂粒含)	土	灰白 10YR 8/1		1/2	南伊勢
129	009-02	土器等 盆	門前V	b5 SD216 ①	8.3	2.8		内面:オサエ-ナデ 内面:ナデ	中や細(~2.0mm の砂粒含)	土	灰白 10YR 8/2			底削成後底厚丸 南伊勢
130	009-03	土器等 盆	門前V	b5 SD216	9.3	2.4~2.8		内面:オサエ-ナデ 内面:ナデ	中や細(~1.5mm の砂粒含)	土	漆喰壁 10YR 8/3		1/3	南伊勢
131	010-03	土器等 瓶	門前V	a2 SD216			高台径 9.4	内面:ナデ-貼付け後ナデ 内面:ナデ	底(微粉粒)	土	外面:にじむ灰壁 10YR 6/3 内面:にじむ灰壁 10YR 6/2		1/3	底:火打 輪:灰
132	010-04	土器等 瓶	門前V	a2 SD216			高台径 7.8	内面:ハケメナデ-貼付け後ナデ 内面:ナデ	底(~1.0mmの砂 粒含)	土	外面:にじむ灰壁 10YR 7/3 内面:灰黄 23Y 7/2		1/4	ハケ-火打-底:灰 南伊勢
133	010-05	陶器 平底	門前V	b5 SD216				内面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	底(~4.0mmの砂 粒含)	土	外面:灰 S 5/0 内面:灰白 N 7/0			口縁:小穴 底:灰
134	009-05	土器等 瓶	門前V	b3 SD216	20.2		体部 18.3	内面:ハケメナデ-ヨコナデ 内面:ナデ-ヨコナデ-ヨコナデ	中や細(~1.5mm の砂粒含)	土	灰白 23Y 8/2 内面:灰黄 23Y 6/1		1/4	ハケ-火打-底:灰 南伊勢
135	009-04	土器等 瓶	門前V	b5 SD216	21.0		体部 23.0	内面:ハケメナデ-ヨコナデ 内面:ナデ-ヨコナデ	中や細(~2.0mm の砂粒含)	土	にじむ灰壁 10YR 7/4 内面:灰黄 23Y 7/4		1/10	ハケ-火打-底:灰 南伊勢
136	001-04	陶器 瓶	門前V	b17 SD217				内面:ナデ-ヨコナデ 内面:ナデ-ヨコナデ	底(~3.0mmの砂 粒含)	土	外面:にじむ灰壁 10YR 6/3 内面:灰黄 10YR 6/2			口縁:小穴 底:灰

第9表 川島遺跡 出土遺物観察表④

番号	登録番号	基種	地区	出土位置 基種 層位	計測値(cm)			調査(技法)の特徴	地土	構成	色調	残存度	備考
					口径	基高	その他						
137	007-04	陶器	門前V	b21 SD217				内面:工芸ナード・コロナデ 内面:ナード・コロナデ	やや密(～2.0mm の砂粒度)	泥	内面:透視 SYR 8/4 内面:底面 7SYR 4/2	口縁小片 内面透付青 一端加工	
138	001-06	陶器 施釉	門前V	SD217 (重複層面)				内面:ロクロナデ・工芸ナード 内面:ロクロナデ・オサニ・コロナデ	やや密(～3.0mm の砂粒度)	泥	内面:透視 SYR 3/3 内面:底面 7SYR 3/3	口縁小片 施釉 底面のみ大	
139	001-01	陶器 施塗	門前V	b24 SD217		底径 14.8		内面:ケイセイ・コロナデ・ロクロナデ 内面:オサニ・ナデ	やや密(5.0mmの 砂粒度)	泥	透視: 7SYR 8/6 内面:透視 7SYR 5/3 内面:底面 7SYR 5/3	底部 底面付青 内面透化物付青	
140	001-06	陶器 施塗	門前V	SD217 (重複層面)	22.0			内面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	内面:(～1.8mmの砂粒度) 内面:9mmの小石子	泥	内面:泥灰 7SYR 5/3 内面:泥灰 2SYR 5/3	1/10 発掘度:	
141	001-03	陶器 施塗	門前V	b20 SD217				内面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	密(～1.5mmの砂 粒度)	泥	内面:透視オーリーフ BY 4/2 内面:泥灰 7SYR 5/4	口縁小片 外自然輪 発掘度:	
142	001-02	陶器 施塗	門前V	SD217 (重複層面)	18.2			内面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	やや密(～2.0mm の砂粒度)	泥	底: 10YR 5/1 内面:底面 7SYR 5/3	1/6 発掘度:	
143	009-06	土師器 施塗	門前V	b17 SD217	4.3	1.3		内面:オサニ・ナデ	密	泥	内面:透視 SYR 8/3 内面:透視 7SYR 6/4 断面:底灰 7SYR 6/1	1/2 南伊勢	
144	005-04	土師器 施塗	門前V	b17 SD217	6.6	1.4		内面:オサニ・コロナデ 内面:ナード・コロナデ	密	泥	透視: 7SYR 8/4 内面:透視 7SYR 7/4	2/3 南伊勢	
145	005-05	土師器 施塗	門前V	b17 SD217	6.9	1.2		内面:ナード・オサニ 内面:ナード・オサニ	密	泥	透視: 7SYR 8/3	2/3 南伊勢	
146	007-06	土師器 施塗	門前V	b16 SD217	7.8	1.2～1.5		内面:ナード・オサニ・コロナデ 内面:ナード・コロナデ	密	泥	内面:透視 10YR 8/3 内面:底灰 2SY 8/2	1/3 内面透視付青 底面のみ大 南伊勢	
147	007-05	土師器 施塗	門前V	b20 SD217	8.8	0.8～1.6		内面:ナード・オサニ・コロナデ 内面:ナード・コロナデ	密	泥	底灰 10YR 8/2	3/8 内面透視付青 少部分 南伊勢	
148	005-03	土師器 施塗	門前V	b17 SD217	8.2	2.2	底径 4.2	内面:オサニ・ナード・コロナデ 内面:ナード・コロナデ	やや密(～2.3mm の砂粒度)	泥	透視: 7SYR 8/4	15/16 少部分 南伊勢	
149	008-07	土師器 施塗	門前V	b19 SD217			高台径 4.8～4.7	内面:ナード・粘付け後ナデ 内面:ロクロナデ	密	泥	透視: 10YR 8/3 底: 7SYR 4/1	高台部 完存 南伊勢	
150	008-06	土師器 施塗	門前V	b15 SD217			高台径 4.8	内面:ナード・粘付け後ナデ 内面:ロクロナデ	やや密(～2.0mm の砂粒度)	泥	透視: 10YR 8/3	高台部 ほぼ完存 南伊勢	
151	008-05	土師器 施塗	門前V	b15 SD217			高台径 5.0～5.2	内面:粘付け後ナデ・粘付け後ナデ 内面:ロクロナデ	やや密	泥	底灰 2SY 8/3 底灰 2SY 8/2 底: N 4/0	高台部 完存 南伊勢	
152	002-01	陶器 丸瓶	門前V	SD217 (重複層面)			高台径 4.7	内面:ロクロケツ 内面:ロクロ使用	密(～1.5mmの砂 粒度)	泥	底: 10YR 8/2 白色: オリーブ灰 7SYR 6/3	高台部 完存 内面透視	
153	002-08	陶器 瓶	門前V	b18 SD217			高台径 7.2	内面:ロクロナデ・あ切V・粘付け後ナデ 内面:ロクロナデ	やや密(～1.5mm の砂粒度)	泥	底灰 2SY 7/2	高台部 ほぼ正直 使用歴 透視度:	
154	002-07	陶器 瓶	門前V	b18 SD217			高台径 7.8～8.2	内面:ロクロナデ・あ切V・ナデ・粘付け後ナデ 内面:ロクロナデ	やや密(～1.5mm の砂粒度)	泥	底灰 2SY 7/2	高台部 完存 使用歴 透視度:	
155	002-03	陶器 瓶	門前V	SD217 (重複層面)			高台径 7.8	内面:ロクロナデ・あ切V・粘付け後ナデ 内面:ロクロナデ	やや密(～2.0mm の砂粒度)	泥	底灰 7SY 3/1	高台部 3/4 使用歴 透視度:	
156	002-04	陶器 瓶	門前V	SD217 (重複層面)			高台径 7.8	内面:ロクロナデ・あ切V・粘付け後ナデ 内面:ロクロナデ	やや密(～2.0mm の砂粒度)	泥	底灰 7SY 3/1	高台部 完存 モザイク 夏野焼き 自然輪 自燃度:	
157	002-06	陶器 瓶	門前V	b18 SD217			高台径 7.4	内面:ロクロナデ・あ切V・粘付け後ナデ 内面:ロクロナデ	やや密(～2.5mm の砂粒度)	泥	底灰 2SY 3/1	高台部 完存 使用歴 透視度:	
158	002-05	陶器 瓶	門前V	b22 SD217			高台径 8.8	内面:ロクロナデ・あ切V・粘付け後ナデ 内面:ロクロナデ	やや密(～2.0mm の砂粒度)	泥	底灰 7SY 8/1	高台部 1/3 内面透視 自燃度:	
159	002-02	陶器 瓶	門前V	SD217 (重複層面)			高台径 11.4	内面:ロクロケツ 内面:ロクロ使用	やや密(～1.5mm の砂粒度)	泥	底灰: 底灰 7SY 8/1 底灰: 底灰 7SY 7/2	高台部 1/4 内面透視 トランク	
160	005-02	土師器 施塗	門前V	b23 SD217	12.6	2.0	底径 7.0	内面:ナード・コロナデ 内面:ナード・コロナデ	密	泥	内面:底灰 7SYR 7/4 内面:底灰 7SYR 7/3	1/4 南伊勢	
161	005-01	土師器 施塗	門前V	b19 SD217	13.8	1.8		内面:ナード・コロナデ 内面:オサニ・ナデ	密	泥	底: 10YR 7/4 底: 10YR 7/3	1/4 外自然輪付青 底面付青	
162	002-09	加工円盤	門前V	b22 SD217				内面:コロナデ 内面:オサニ・ナデ	やや密(～1.5mm の砂粒度)	泥	内面:底灰 7SYR 7/4 内面:底灰 7SYR 5/2	完満度: 重量: 13kg	
163	008-04	土師器 施塗	門前V	SD217	21.0		つぼ径 23.2	内面:ハケテ・コロナデ・粘付け後ナデ 内面:ナード・コロナデ	やや密	泥	底: 10YR 7/3 底: 10YR 8/3	口縁小片 ハマケテ・ナード・ 南伊勢	
164	007-03	土師器 施塗	門前V	b17 SD217	20.0			内面:ハケテ・コロナデ 内面:ナード・コロナデ	やや密(～2.0mm の砂粒度)	泥	底: 10YR 7/2 底: 10YR 6/3	1/8 南伊勢	
165	007-02	土師器 施塗	門前V	b20 SD217	23.2			内面:ナード・オサニ・コロナデ 内面:ナード・コロナデ	やや密	泥	透視: 7SYR 8/4 底灰: 底灰 4/0	1/9 外自然輪付青 南伊勢	
166	006-04	土師器 施塗	門前V	b20 SD217	25.8			内面:ハケテ・コロナデ 内面:工芸ナード・コロナデ	やや密(～2.0mm の砂粒度)	泥	底: 10YR 7/4 底: N 4/0	1/6 ハマケテ・ナード・ 南伊勢	
167	003-04	土師器 施塗	門前V	b23 SD217	28.0			内面:ハケテ・コロナデ 内面:ナード・コロナデ	密	泥	底: 10YR 7/1 底: 10YR 6/3	外自然輪付青 ハマケテ・ナード・ 南伊勢	
168	004-02	土師器 施塗	門前V	b22 SD217	28.4			内面:ハケテ・コロナデ 内面:ナード・コロナデ	やや密	泥	底: 10YR 3/2 底: 10YR 2/1	ハマケテ～11.0cm 内面透視付青 南伊勢	
169	007-01	土師器 施塗	門前V	b16 SD217	30.0			内面:ハケテ・コロナデ 内面:ナード・コロナデ	やや密	泥	底: 10YR 8/4 底: 7SYR 4/2 底: H 4/0	1/11 ハマケテ・ナード・ 南伊勢	
170	003-01	土師器 施塗	門前V	SD217 (重複層面)	36.8			内面:ハケテ・コロナデ 内面:工芸ナード・コロナデ	密	泥	底: 10YR 6/1 底: 10YR 5/1	内面透視 ハマケテ・ナード・ 南伊勢	

第10表 川島遺跡 出土遺物観察表⑤

番号	登錄番号	器種	地区	出土位置 段階	計測値(cm)			調査(技法)の特徴	地土	構成	色調	保存度	備考	
					口径	幅	その他							
171	003-03	土師器 壺	門前V	b22 SD217	38.8			内面:ナガニコナデ 内面:ハメニコナデ・ヨコナデ	密	底	灰 内面:灰 外壁:土質 内壁:灰 底:灰	外壁:灰 内面:灰 外壁:土質 内壁:灰 底:灰	5/3 6/3 5/1	1/6 南伊勢
172	003-02	土師器 壺	門前V	b23 SD217	38.8			内面:ナガニコナデ 内面:オサニコナデ・ヨコナデ	密	底	灰 内面:灰 外壁:土質 内壁:灰 底:灰	外壁:土質 内壁:灰 外壁:土質 内壁:灰 底:灰	2/1 3/3 5/1	1/6 外面付帯 南伊勢
173	004-01	土師器 壺	門前V	b16 SD217	38.8			内面:ナガニコナデ・剝離 内面:エヌニコナデ・ヨコナデ	密	底	灰 内面:灰 外壁:土質	内面:灰 外壁:土質	7/3 7/4	1/10 ハケアリ本/南 伊勢
174	004-03	土師器 壺	門前V	b17 SD217	32.2			内面:ハメニコナデ・ヨコナデ・キザミ? 内面:ナガニコナデ・ヨコナデ	密	底	灰 内面:灰 外壁:土質	内面:灰 外壁:土質	7/3 7/4	1/10 外面付帯 ハケアリ本/南 伊勢
175	006-01	土師器 壺	門前V	b21 SD217	31.2			内面:ナガニコナデ 内面:エヌニコナデ・ヨコナデ	中や密	底	灰 内面:灰 外壁:土質	内面:灰 外壁:土質	8/3 8/3	1/12 外面付帯 ハケアリ本/南 伊勢
176	006-02	土師器 壺	門前V	b21 SD217	8.4			内面:ナガニコナデ・ヨコナデ 内面:ナガニコナデ・ヨコナデ	中や密	底	灰 内面:灰 外壁:土質	内面:灰 外壁:土質	8/3 8/3	1/6 南伊勢
177	006-05	土師器 壺	門前V	b14 SD217	13.4			内面:ハメニコナデ 内面:エヌニコナデ	中や密	底	灰 内面:灰 外壁:土質	内面:灰 外壁:土質	8/3 8/3	1/5 ハケアリ本/南 伊勢
178	006-03	土師器 壺	門前V	b21 SD217	13.8			内面:ナガニコナデ 内面:ナガニコナデ・ヨコナデ	中や密	底	灰 内面:灰 外壁:土質	内面:灰 外壁:土質	7/3 7/3	1/4 ハケアリ本/南 伊勢
179	008-03	土師器 壺	門前V	b17 SD217	25.6			内面:コロナデ 内面:コロナデ	やや密	底	灰 内面:灰 外壁:土質	内面:灰 外壁:土質	7/3 7/3	1/14 南伊勢
180	008-02	土師器 壺	門前V	b20 SD217	26.8			内面:コロナデ 内面:コロナデ	密	底	灰 内面:灰 外壁:土質	内面:灰 外壁:土質	7/3 7/3	1/6 南伊勢
181	008-01	土師器 壺	門前V	b17 SD217	28.8			内面:ナガニコナデ 内面:エヌニコナデ	中や密	底	灰 内面:灰 外壁:土質	内面:灰 外壁:土質	7/3 7/3	1/12 ハケアリ本/南 伊勢
182	012-07	陶器 平底	門前V	a5 SK218				内面:ロクロ使用 内面:ロクロ使用	密	底	灰 内面:灰 外壁:土質	内面:灰 外壁:土質	2.5Y 7/2 6/4	口縁小片 底付
183	012-05	陶器 壺	門前V	a5 SK218				高台佳 内面:ロクロナデ・あ切口・貼付けナデ 内面:ロクロナデ	中や密	底	灰白 内面:灰 外壁:土質	内面:灰 外壁:土質	8/1	高台部 自然物 底付
184	011-01	陶器 壺	門前V	b7 BR215	28.0			内面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ・縦目	中や密 (~1.5mm の砂粒)	底	灰 内面:灰 外壁:土質	内面:灰 外壁:土質	2.5Y 8/2 5/2	1/6 銀物(鉢) 底付
185	010-01	陶器 壺	門前V	b7 BR215	15.0	5.4		高台佳 内面:ロクロナデ・貼付けナデ 内面:ロクロナデ	密 (~1.0mm の砂粒)	底	灰白 内面:灰 外壁:土質	内面:灰 外壁:土質	3Y 7/1	使用痕 底付
186	010-02	陶器 壺	門前V	b7 BR215				高台佳 内面:ロクロナデ・あ切口・貼付けナデ 内面:ロクロナデ	中や密 (~3.0mm の砂粒)	底	灰白 内面:灰 外壁:土質	内面:灰 外壁:土質	7.5Y 7/1	高台部 充填
187	011-02	土師器 壺	門前V	b7 BR215	20.0			内面:コロニコロナデ 内面:ナガニコナデ	中や密 (~1.0mm の砂粒)	底	灰 内面:灰 外壁:土質	内面:灰 外壁:土質	7/3	1/10 ハケアリ本/南 伊勢
188	011-06	陶器 壺	門前V	b11 BR215	9.5	4.7		高台佳 内面:ロクロ使用 内面:ロクロ使用	密(微細粒)	底	灰 内面:灰 外壁:土質	底 底:灰 底:灰 底:灰	2.5GY 1/1	銀物 底付-底付 底付
189	011-05	陶器 壺	門前V	b10 BR215				高台佳 内面:ロクロケヅリ 内面:ロクロ使用	密(微細粒)	底	灰 底:灰 底:灰 底:灰	底 底:灰 底:灰 底:灰	8/0 10Y 8/1	高台部 充填 底付
190	011-04	土師器 小品	門前V	b7 BR215				内面:オサエ 内面:オサエ・ナデ	密(微細粒)	底	灰 内面:灰 外壁:土質	底 底:灰 底:灰 底:灰	8/3	小片 内面付
191	011-03	土師器 小品	門前V	b10 BR215	4.8	0.95		内面:オサエ 内面:オサエ・ナデ	密 (~1.0mm の砂粒)	底	灰 内面:灰 外壁:土質	内面:灰 外壁:土質	SYR 7/4	充填
192	013-03	陶器 壺	門前V	b4 包合層	19.0			内面:ロクロナデ-膨張灰 内面:ロクロナデ	中や密 (~5.0mm の砂粒)	底	灰 内面:灰 外壁:土質	底 底:灰 底:灰	12.8/1.5cm	
193	013-04	平瓦	門前V	b8 雨屋					中や密 (~2.0mm の砂粒)	底	灰 内面:灰 外壁:土質	底 底:灰 底:灰	3.5cm(鉛)	
194	062-03	土師器 壺	門前V	d8 BK297	7.2	1.3		外面:ナガニコナデ 内面:ナガニコナデ	中や密	底	灰 内面:灰 外壁:土質	内面:灰 外壁:土質	SYR 6/6	1/2 泥埋付 灯明塗
195	052-02	土師器 壺	門前V	d8 BK297	7.4	1.3		内面:オサエ 内面:オサエ・ナデ	中や密	底	灰 内面:灰 外壁:土質	内面:灰 外壁:土質	SYR 6/6	充填 泥埋付 灯明塗
196	053-01	陶器 灰吹き出	門前V	d8 BK297	16.8	2.1		泥被 内面:ロクロケヅリ-ロクロナデ 内面:ロクロナデ	密	底	灰 内面:灰 外壁:土質	内面:灰 外壁:土質	2.5Y 8/2 7.5Y 7/4 5/2	充填 (灰被) 泥埋付 底付
197	053-05	陶器 灰吹き出	門前V	d8 BK297	16.2	1.8		高台佳 内面:ロクロケヅリ-灰吹き出	中や密	底	灰 内面:灰 外壁:土質	内面:灰 外壁:土質	2.5Y 7/3	高台部 充填
198	053-04	陶器 灰吹き出	門前V	d8 BK297	9.0	4.8		高台佳 内面:灰吹き出-灰吹	中や密	底	灰 内面:灰 外壁:土質	内面:灰 外壁:土質	SYR 8/1	1/2 灰吹付
199	062-02	陶器 灰吹き出	門前V	e7 東壁				高台佳 内面:ロクロケヅリ-ロクロナデ 内面:ロクロナデ	中や密 (~1.0mm の砂粒)	底	灰 内面:灰 外壁:土質	内面:灰 外壁:土質	SYR 8/3 SYR 1.7/1	底部 泥埋付 底付
200	056-06	陶器 灰吹き出	門前V	e3 BK305 ①				内面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	中や密 (~1.5mm の砂粒)	底	灰 内面:灰 外壁:土質	内面:灰 外壁:土質	SYR 7/3	口縁小片 泥埋付
201	056-04	土師器 小品	門前V	e8 BK304	7.1	1.2		内面:ナガニコナデ 内面:ナガニコナデ	密 (~1.0mm の砂粒)	底	灰 内面:灰 外壁:土質	内面:灰 外壁:土質	SYR 6/6	2/5
202	060-06	陶器 天日茶碗	門前V	c8 BK304				高台佳 内面:ロクロナデ-ロクロケヅリ 内面:ロクロナデ	密 (~2.0mm の砂粒)	底	灰 内面:灰 外壁:土質	内面:灰 外壁:土質	2.5Y 2/2 10YR 8/2	高台部 泥埋付
203	060-03	陶器 灰吹き出	門前V	c8 BK304	10.8	2.2		高台佳 内面:ロクロナデ-ナデ	密	底	灰 内面:灰 外壁:土質	内面:灰 外壁:土質	10YR 8/2 8/1	5/12 泥埋付 底付
204	058-01	陶器 灰吹き出	門前V	c8 BK304	11.0	2.4		高台佳 内面:ロクロ使用 内面:ロクロ使用	密(微細粒)	底	灰 内面:灰 外壁:土質	内面:灰 外壁:土質	SYR 8/1	1/2 泥埋付

第11表 川島遺跡 出土遺物観察表⑥

番号	登録番号	種類	地区	出土位置 層 標	計測値(cm)			調査(技法)の特徴	地土	構成	色調	保存度	備考
					口径	幅	高さ						
205	056-01	瓦葺土器 壺	門前区	c8 SK304	34.6	つば径 36.0	内面:ロコナデ 内面:ロコナデ	やや細 (~1.5mm の砂粒含)	灰 灰白 N 8/0 灰 N 5/0	灰	灰	1/8	
206	056-06	陶器	門前区	c8 SK304				内面:ロクロナデ-垂壁波状文 内面:ロクロナデ	やや細 (~3.0mm の砂粒含)	灰 内面:にぶい黒褐 10YR 8/3 内面:にぶい黒褐 10YR 5/3	口縁小片 4.8cm/1.2cm		垂壁波状文 4.8cm/1.2cm
207	057-05	瓶	門前区	c8 SK304		径 2.5							「真永通宝」
208	059-02	陶器 壺	門前区	c8 SK304		底径 11.0	内面:ロクロケズリ 内面:ロコナデ	やや細 (~4.7mm の小石含)	灰 灰白 2.5YR 4/2 灰白 10YR 8/2 灰白 2.5Y 8/2	底部 1/4	底部 灰白		
209	059-01	陶器 壺	門前区	c8 SK304	34.6	8.7	底径 11.0	内面:ナデ-オサエ-3コナデ-瓦絆 内面:ナデ-コナデ	やや細 (~5.8mm の小石含)	灰 にぶい暗 7.5Y 8/3 底壁 7.5YR 8/3	1/10	施施 底壁	
210	052-05	陶器 壺	門前区	c8 SK299	13.2					灰 灰白	断片:灰 7.5Y 8/1 施施:灰 7.5Y 8/2 施施:灰 7.5Y 8/2	1/5	施施(立脚付) 灰戸灰底面
211	054-04	罐	門前区	c8 SK299		高台径 5.2	内面:削出し台面		やや細	灰 断片:灰白 SY 8/1	高台部 施施	施施 灰戸灰底面	
212	062-03	陶器 壺	門前区	c8 SK299		高台径 11.8	内面:ロクロケズリ 内面:ロコナデ	やや細 (~2.0mm の砂粒含)	灰 素面:灰白 SY 7/1 素面:灰白 7.5Y 7/2	1/4	施施 底戸灰		
213	052-04	陶器 土瓶	門前区	c8 SK299	7.8	側壁径 17.8	側壁 内面:ロクロ使用-粘付け 内面:ロクロ使用	密	灰 側面:灰暗 7.5YR 5/3 側面:灰オーラブ SY 6/2	1/3	施施 底戸灰		
214	052-01	土師器 壺	門前区	c8 SK299	40.0		内面:オサエ-ナデ-3コナデ 内面:ナデ-工具ナデ-3コナデ		やや細	灰 にぶい暗 7.5YR 8/4	1/5	内外面保付	
215	061-02	陶器	門前区	c8 SK299	8.7	幅 1.9-2.4			やや細 (~3.7mm の小石含)	灰 灰 N 4/0 底壁 7.5YR 8/3			
216	057-02	陶器 灯明皿	門前区	c8 SK295	10.1	2.0	底径 4.3	内面:ロクロケズリ	密 (~1.0mmの砂 粒含)	灰 素面:にぶい黒褐 10YR 8/3 素面:にぶい暗 7.5YR 4/2	ほぼ完存	施施(脚付) 内面保付 灰戸灰底面	
217	057-03	陶器 灯明皿	門前区	c8 SK295西	9.8	2.0	底径 4.2	内面:ロクロケズリ	密 (~1.0mmの砂 粒含)	灰 素面:灰暗 2.5Y 7/2 素面:にぶい暗 7.5YR 4/3	5/6	施施(脚付) 内面保付 灰戸灰底面	
218	062-01	陶器 灯明皿	門前区	c8 SK295	9.8	2.1	底径 4.8	内面:ロクロケズリ-ロクロナデ 内面:ロクロナデ	やや細 (~2.0mm の砂粒含)	灰 素面:灰 10YR 8/2 素面:にぶい暗 2.5YR 4/4	1/4	施施(脚付) 灰戸灰底面	
219	057-06	瓶	門前区	c8 SK295東		径 2.2							「真永通宝」
220	059-05	土師器 小壺	門前区	e10 SK298	6.9	1.1	内面:ナデ-オサエ 内面:ナデ	やや細 (~1.8mm の砂粒含)	灰 にぶい暗 SYR 8/4	1/2			
221	059-04	土師器 小壺	門前区	e10 SK298	7.8	1.0	内面:ナサエ-3コナデ 内面:ナデ-3コナデ	やや細 (~1.0mm の砂粒含)	灰 内面:SYR 8/4 底壁 7.5YR 8/2	1/3			
222	056-03	土師器 小壺	門前区	e10 SK298	8.6-7.1	1.5	内面:ナデ-オサエ 内面:ナデ	やや細 (~1.5mm の砂粒含)	灰 SYR 8/8	ほぼ完存	灯明皿		
223	057-04	陶器 灯明皿	門前区	e10 SK298	8.8	1.8	底径 4.4	内面:ロクロケズリ	密 (~1.0mmの砂 粒含)	灰 素面:灰白 2.5Y 8/2 素面:にぶい暗 7.5YR 4/3	2/3	施施(脚付) 灰戸灰底面	
224	057-01	陶器 皿	門前区	e10 SK298	8.4		天津部 10.8	内面:ロクロケズリ-ロクロナデ 内面:ロクロナデ-粘付け後ロクロナデ	やや細 (~1.0mm の砂粒含)	灰 SYR 8/8	2/3	施施 保付	
225	060-04	陶器 皿	門前区	e10 SK298	14.0					灰 灰白 10Y 8/2 灰白 SY 7/1	1/6	施施	
226	062-02	陶器 皿	門前区	e10 SK298	13.8		内面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ		密	灰 灰白 10Y 7/2 灰白 10YR 8/2 灰白 10YR 8/2	1/4	施施	
227	059-03	陶器 盤	門前区	e10 SK298			底径 12.8	内面:ロクロケズリ-ナデ 内面:ロクロナデ	やや細 (~3.6mm の砂粒含)	灰 素面:SYR 4/2 断片:灰 2.5Y 8/3	1/8	施施 灰戸灰	
228	058-03	陶器 灰状花紋	門前区	e10 SK298			底径 5.8	内面:ロクロケズリ-工具ナデ-ロクロナデ 内面:ロクロナデ	灰(微細粒)	灰 素面:灰白 SY 8/1 素面:灰 SYR 4/3-4/4ほか	ほぼ完存	施施	
229	058-04	陶器 蓋	門前区	e10 SK298				ロクロ使用後六方に面をする	密(微細粒)	灰 素面:灰白 10Y 8/1 灰:明瞭灰 10GY 8/1	完存	施施 肥沃-鉢底見及	
230	060-01	瓦輪塔 瓦輪	門前区	e10 SK298	游高 7.0	上幅 5.1	下幅 5.4						一石三輪 瓦輪
231	056-02	土師器 蓋	門前区	e10 SK298	11.1	13.0	底壁 10.8	外面:ナデ-ナデ-ケメ-ケズリ-3コナデ 内面:オサエ-ナデ-工具ナデ-3コナデ	やや細 (~1.5mm の砂粒含)	灰 SYR 7/8 8/8	完存	中土師器瓦輪 中沙御物	
232	055-01	丸瓦	門前区	c9 SK302	游高 15.2				やや細 (~1.0mm の砂粒含)	灰 灰 N 5/0			スレップ
233	054-02	陶器 仏像	門前区	c9 SK302	6.2	5.8	台径 3.8			密	灰 素面:灰白 10Y 8/1	3/4	施施 粘付け 灰戸灰底面
234	053-02	陶器 皿	門前区	c9 SK302	9.8	2.1	高台径 5.2	内面:削出し台面	密	灰 断片:白 8/0	1/2	施施 底壁 内面保付 灰戸灰底面	
235	053-03	陶器 皿	門前区	c9 SK302	9.8	1.8	高台径 5.3	内面:削出し台面	密	灰 断片:白 8/0	1/2	施施 底壁 内面保付 灰戸灰底面	
236	054-01	陶器 皿	門前区	c9 SK302	11.0	5.7	高台径 4.4	内面:削出し台面	密	灰 白色:白	2/2	施施 灰戸灰底面	
237	060-05	陶器 皿	門前区	c9 SK302	10.9	5.1	高台径 3.7		密	灰 明瞭灰 10GY 8/1	1/2	施施 肥沃-鉢底見及	
238	054-03	陶器 皿	門前区	c9 SK302	9.2	2.7	高台径 3.8	内面:削出し台面	密	灰 素面:白	3/4	施施 内面:化年型 灰戸灰底面	

第12表 川島遺跡 出土遺物観察表⑦

番号	登錄番号	器種	地区	出土位置 遺構	計測値(cm)			調査(括弧)の特徴	出土	焼成	色調	保存度	備考		
					口径	底面	その他								
239	061-01	瓦	門前Ⅳ	c9 BK302	陶片 陶片	10.0	1.8-2.3		やや密(~6.7mm の小石粒)	灰	にじい黄褐 灰白 10YR 3/3	7/2		スタンプ	
240	016-04	土師器 小皿	高塙Ⅳ	b25 SD279 (②)	5.6	1.3		内面:オサエ 内面:ナデ	やや密(~1.0mm の砂粒)	灰	にじい黄褐 内面:灰黄褐 10YR 8/4	7/3		南伊勢	
241	017-04	土師器 皿	高塙Ⅳ	b25 SD279	6.4	1.4		内面:オサエ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	密(~1.0mm の砂粒)	灰	浅黄褐 7SYR 8/4	8/4		南伊勢	
242	018-05	土師器 皿	高塙Ⅳ	b25 SD279	6.4	1.5		内面:オサエ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	密	浅黄褐 7SYR 8/3	8/3		南伊勢		
243	017-06	土師器 皿	高塙Ⅳ	b25 SD279	6.4	1.5	高台付 4.8	内面:ナデ・粘付け後ナデ 内面:ナデ	密(~1.3mmの 砂粒)	灰	浅黄褐 7SYR 8/3	8/3	高台部 3/4	南伊勢	
244	028-06	陶器 天日焼	高塙Ⅳ	b25 SD279	10.8			内面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	密	種類未定 2SYR 3/2	灰白 10YR 5/7	1/2		陶器 天日焼	
245	028-07	陶器 天日焼	高塙Ⅳ	b25 SD279	10.8			内面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	中密(~1.6mm の砂粒)	灰	動色 灰 SYR 1/1	8/3	口縁小片 陶器 天日焼		
246	017-01	土師器 鍋	高塙Ⅳ	b25 SD279	18.6			内面:ハケツ・ケズリ・ヨコナデ 内面:ケズリ・工具ナ・ヨコナデ	密	外面:にじい黄 内面:にじい黄 7SYR 6/4	6/3	1/2	外側付青 南伊勢		
247	020-01	土師器 鍋	高塙Ⅳ	b25 SD279 (②)	20.8	7.2		内面:ケズリ・ナデ・ヨコナデ 内面:タキ付・ハケツ・ケズリ・ヨコナデ	中密(~2.0mm の砂粒)	灰	にじい黄 7SYR 3/2	3/4	5/6	南伊勢	
248	028-03	土師器 鍋	高塙Ⅳ	b25 SD279 (②)	21.0			内面:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内面:ケズリ・ナデ・ヨコナデ	やや密	灰	浅黄褐 7SYR 8/4	8/3	1/2	外側付青 南伊勢	
249	016-06	土師器 鍋	高塙Ⅳ	b25 SD279 (②)	21.0			内面:ケズリ・オサエ・ナデ・ヨコナデ 内面:ケズリ・工具ナ・ヨコナデ	密(~6.3mmの 小石粒)	灰	浅黄褐 10YR 8/3		1/4	南伊勢	
250	019-01	土師器 鍋	高塙Ⅳ	b25 SD279 (②)	28.8	13.5	休耕付 27.0	内面:ハケツ・ケズリ・ヨコナデ 内面:ナデ・ハケツ・リ・ヨコナデ	やや密(砂粒含む)	外面:灰 10YR 6/1	6/1	1/3	外側付青 ハケツ・ナ・ヨコナデ 南伊勢		
251	021-01	土師器 鍋	高塙Ⅳ	b25 SD279 (②)	28.2			内面:ハケツ・ケズリ・ヨコナデ 内面:ケズリ・工具ナ・ヨコナデ	やや密(~3.3mm の砂粒)	外面:灰 10YR 6/1	6/1	5/6	外側付青 ハケツ・ナ・ヨコナデ 南伊勢		
252	016-02	土師器 鍋	高塙Ⅳ	b25 SD279	32.8			内面:ハケツ・ナ・ヨコナデ	密(~1.0mm の砂粒)	外面:灰 7SYR 5/1	6/1	1/4	ハケツ・ナ・ヨコナデ 南伊勢		
253	025-02	土師器 鍋	高塙Ⅳ	b25 SD279 (③)	31.4			内面:ハケツ・ケズリ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	中密(~2.0mm の砂粒)	灰	穂先 10YR 4/1	4/1	1/3	外側付青 ハケツ・ナ・ヨコナデ 南伊勢	
254	025-01	土師器 鍋	高塙Ⅳ	b25 SD279 (③)	33.2			内面:ケズリ・ナデ・ヨコナデ 内面:工具ナ・ヨコナデ	やや密	外面:にじい黄 内面:穂先 10YR 3/2	3/2	5/6	口縁内面剥離? 南伊勢		
255	021-02	土師器 鍋	高塙Ⅳ	b25 SD279 (③)	33.8			内面:ハケツ・ケズリ・ヨコナデ 内面:ケズリ・工具ナ・ヨコナデ	やや密	外面:灰 7SYR 5/2	5/2	1/6	外側付青 南伊勢		
256	051-01	土師器 鍋	高塙Ⅳ	b25 SD279	36.0		休耕付 33.8	内面:ハケツ・ケズリ・ヨコナデ 内面:ケズリ・工具ナ・ヨコナデ	やや密	灰 10YR 6/2	6/2	1/4	外側付青 ハケツ・ナ・ヨコナデ 20m 南伊勢		
257	016-03	土師器 鍋	高塙Ⅳ	b25 SD279	33.0			内面:ハケツ・ケズリ・ヨコナデ 内面:ケズリ・工具ナ・ヨコナデ	密(~1.0mm の砂粒)	灰	浅黄褐 10YR 8/3		1/4	南伊勢	
258	024-01	土師器 鍋	高塙Ⅳ	b26 SD279 (④)	35.8	休耕付 34.0		内面:ハケツ・ケズリ・ヨコナデ 内面:ケズリ・工具ナ・ヨコナデ	中密(~1.5mm の砂粒)	外面:にじい黄 内面:にじい黄 10YR 6/2	6/2	2/3	外側付青 ハケツ・ナ・ヨコナデ 南伊勢		
259	017-02	陶器 罐	高塙Ⅳ	b25 SD279				内面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	密(~5.3mmの 小石粒)	外面:にじい黄 内面:穂先 7SYR 5/3	5/3	1/3	陶器 罐		
260	017-03	陶器 罐	高塙Ⅳ	b25 SD279				内面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	中密(~2.5mm の砂粒)	灰	灰 10YR 4/1	4/1	1/3	陶器 罐	
261	027-02	陶器 罐	高塙Ⅳ	b25 SD279	36.6			内面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ・穂先	密(~2.5mmの 砂粒)	灰 10YR 4/1	4/1	1/10	陶器 (鉢) 底質		
262	029-03	石製器	高塙Ⅳ	b25 SD279	陶片 5.9	4.6	陶片厚 1.1	内面:ナデ 内面:ナデ	中密(~2.5mm の砂粒)	灰	灰 7SYR 5/2			重量 31.85g 底質	
263	017-06	加工用器	高塙Ⅳ	b24 SD279				内面:ナデ 内面:ナデ	中密(~2.5mm の砂粒)	灰	灰 7SYR 5/2			重量 18.465g 底質	
264	029-04	加工用器	高塙Ⅳ	b25 SD279				内面:ナデ 内面:ナデ	中密(~1.0mm の砂粒)	灰	EVR 6/6	浅黄褐 7SYR 8/3			
265	018-01	土師器 蓋	高塙Ⅳ	b25 SD279 (②)	13.8	20.5	休耕付 25.5	内面:ケズリ・ハケツ・粘付けナデ・ヨコナデ 内面:ケズリ・ナデ・ハケツ・ヨコナデ	やや密	外面:にじい黄 内面:灰黄褐 10YR 5/2	5/2	7/8	底質 外側付青 ハケツ・ナ・ヨコナデ 南伊勢		
266	020-02	土師器 蓋	高塙Ⅳ	b26 SD279 (④)	13.8	20.8	休耕付 26.1	内面:オサエ・ナデ・ケズリ・ハケツ・粘付けナ サ・ヨコナデ	中密(~1.5mm の砂粒)	外面:灰 7SYR 5/2	5/2	3/4	外側付青 ハケツ・ナ・ヨコナデ 南伊勢		
267	026-02	土師器 蓋	高塙Ⅳ	b25 SD279	36.2			内面:オサエ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	やや密	外面:にじい黄 内面:ナデ	7SYR 3/4		1/4	外側付青 南伊勢	
268	022-01	土師器 蓋	高塙Ⅳ	b25 SD279	36.4			内面:ハケツ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	中密(~2.0mm の砂粒)	灰	底質 10YR 8/3	8/3	3/4	外側付青 ハケツ・ナ・ヨコナデ 南伊勢	
269	023-01	土師器 蓋	高塙Ⅳ	b25 SD279 (③)	31.1	27.4		内面:オサエ・ナデ・ケズリ・ハケツ・粘付けナ サ・ヨコナデ	密(~1.5mm の砂粒)	灰 10YR 4/1	4/1	1/5	外側付青 ハケツ・ナ・ヨコナデ 南伊勢		
270	026-01	土師器 蓋	高塙Ⅳ	b25 SD279	32.8			内面:ハケツ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	やや密	灰 7SYR 5/2	5/2	1/6	外側付青 ハケツ・ナ・ヨコナデ 南伊勢		
271	027-01	土師器 蓋	高塙Ⅳ	b25 SD279	38.0			内面:ハケツ・粘付けナデ・ナデ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	密(~3.5mmの 小石粒)	灰	浅黄褐 10YR 8/3		1/10	ハケツ・ナ・ヨコナデ 南伊勢	
272	016-01	土師器 蓋	高塙Ⅳ	b25 SD279	46.4	つば深 52.0		内面:ハケツ・粘付けナデ・ナデ・ヨコナデ 内面:ナデ・ヨコナデ	やや密(~2.0mm の砂粒)	灰 10YR 8/2		小片	ハケツ・ナ・ヨコナデ 南伊勢		

第13表 川島遺跡 出土遺物観察表⑧

番号	登録番号	器種	地区	出土位置 （地層）	計測値(cm)			調査(技法)の特徴	土質	構成	色調	堆積度	備考
					口径	幅	高さ						
273	031-06	土師器 小皿	高畠内V	b14 SD277	7.8~8.1	1.2		内面:オサニ+ナデ 内面:ロクロナデ	やや密	非	浅黄褐色 7.5YR 8/3	ほぼ完存	南伊勢
274	028-05	土師器 皿	高畠内V	b17 SD277 ⑤	11.4	2.2	底径 8.2	内面:オデ+コナデ 内面:オサニ+コナデ	密(～1. 3mmの微 砂粒含)	疏	灰白 10YR 8/2	1/2	南伊勢
275	030-05	土師器 皿	高畠内V	b14 SD277	12.5	2.7		内面:オサニ+ナデ+コナデ 内面:オサニ+ナデ+コナデ	やや密	非	褐 5YR 7/6	1/3	南伊勢
276	030-06	土師器 皿	高畠内V	b14 SD277	12.8			内面:ナデ+コナデ 内面:オサニ+コナデ	やや密(微砂粒含)	非	灰白(薄黄褐色) 10YR 7/4	1/6	南伊勢
277	030-07	土師器 皿	高畠内V	b14 SD277	13.0			内面:オサニ+コナデ 内面:オサニ+コナデ	やや密	非	灰白(薄黄褐色) 10YR 8/4	1/6	南伊勢 中空み有り
278	030-02	土師器 皿	高畠内V	b8 SD277	30.0			内面:オサニ+コナデ 内面:工具ナデ+コナデ	中空(～2. 0mm の砂粒含む)	非	浅黄褐色 10YR 8/3	1/6	南伊勢
279	031-05	陶器 小皿	高畠内V	b8 SD277	7.8	1.7	底径 4.5	内面:ロクロナデ+赤切 内面:ロクロナデ	やや密	疏	灰白 5Y 3/1	3/8	使用痕 裏剥離?
280	031-01	陶器 皿	高畠内V	b11 SD277	16.8	4.7	高台径 8.3	内面:ロクロナデ+赤切V-點付け後ナデ 内面:ロクロナデ	やや密	疏	灰白 5Y 3/1	口縁:小片 底:中空 和多産 中空み有り	
281	028-03	陶器 皿	高畠内V	b8 SD277	16.6	5.2	高台径 8.4	内面:ロクロナデ+ナデ+點付け後ナデ 内面:ロクロナデ	中空(～2. 3mm の砂粒含)	疏	灰白 N 8/9 灰白 7.5Y 8/1	1/6	使用痕 裏剥離付 裏剥離?
282	028-04	陶器 皿	高畠内V	b10 SD277			高台径 7.0	内面:ロクロナデ+赤切V-點付け後ナデ 内面:ロクロナデ	密(～1. 0mmの微 砂粒含)	疏	外表面: 灰白 5Y 8/1 内表面: 灰白 N 8/0 7/0	高台部 穴坑	砂剥離 裏剥離?
283	028-02	陶器 皿	高畠内V	b13 SD277 ② 125~132	5.6	高台径 6.0		内面:ロクロナデ+赤切V-點付け後ナデ 内面:ロクロナデ	中空(～2. 0mm の砂粒含)	疏	灰白 N 8/0	1/3	モザガラ 使用痕 和多産 ロゴス大
284	028-01	陶器 皿	高畠内V	b14 SD277 ⑤	15.4	5.1	高台径 6.3	内面:ナデ+ロクロナデ+點付け後ナデ 内面:ナデ+ロクロナデ	周(～2. 7mmの砂 粒含)	疏	灰白 N 8/9	完存	モザガラ 使用痕 知多産
285	029-02	陶器 皿	高畠内V	b14 SD277			高台径 6.4	内面:ロクロナデ+赤切V-點付け後ナデ 内面:ロクロナデ	中空(～2. 7mm の砂粒含)	疏	灰白 7.5Y 3/1	高台部 1/2	モザガラ 使用痕 知多産
286	029-01	陶器 皿	高畠内V	b10 SD277			高台径 6.0	内面:ロクロナデ+赤切V-點付け後ナデ 内面:ロクロナデ	中空(～5. 0mm の小石含)	疏	灰白 5Y 8/1	高台部 穴坑	使用痕 底面内表面 剥離付 和多産 底面大
287	030-03	土師器 皿	高畠内V	b12 SD277 ①	15.8			内面:ナデ+コナデ 内面:ナデ+コナデ	中空(～3. 0mm の砂粒含)	非	浅黄褐色 10YR 8/3 灰白 10YR 8/2	1/4	
288	031-03	陶器 小皿	高畠内V	b17 SD278	9.5	3.2	高台径 5.8	内面:ロクロナデ+赤切V-點付け後ナデ 内面:ロクロナデ	やや密	疏	灰白 N 8/0	1/5	自然崩 底面大
289	031-02	陶器 皿	高畠内V	b17 SD278			高台径 5.8~6.0	内面:ロクロナデ+赤切V-點付け後ナデ 内面:ロクロナデ	やや密	疏	灰白 N 8/0	高台部 穴坑	自然崩 使用痕 内表面剥離 和多産
290	031-04	陶器 皿	高畠内V	b17 SD278			高台径 5.8	内面:ロクロナデ+赤切V-點付け後ナデ 内面:ロクロナデ	やや密	疏	灰白 N 8/0	高台部 小片	モザガラ 使用痕 和多産 底面大
291	030-01	土師器 皿	高畠内V	b17 SD278	34.0			内面:ナデ+コナデ 内面:工具ナデ+コナデ	やや密	非	外表面: 灰白(～1. 5mm の砂粒含) 内面: 灰白(～2. 0mm の砂粒含)	1/6	外表面付 ハマメツ木:2.0mm
292	032-04	土師器 皿	高畠内V	b7 SD278				内面:羅達標-標による剥剝 ナデ	中空(～2. 0mm の砂粒含)	非	灰白 7.5Y 8/3 灰白 10YR 8/2	三方カシ	
293	033-04	灰陶器 皿	高畠内V	a8 SD276	15.4	3.1	高台径 7.8	内面:ロクロナデ+赤切V-點付け後ナデ 内面:ロクロナデ	密	疏	灰白 5Y 8/1	1/9	
294	033-03	陶器 皿	高畠内V	b7 SD276	13.8~14.5	4.5~5.3	高台径 5.8~6.4	内面:ロクロナデ+赤切V-點付け後ナデ 内面:ロクロナデ	やや密	疏	灰白 N 8/0 7/0	完存	モザガラ 内表面付 和多産
295	032-05	陶器 小皿	高畠内V	厚土削面	9.0	2.0	底径 4.0	内面:ロクロナデ+赤切 内面:ロクロナデ	密	疏	灰白 5Y 8/1	1/4	知多産
296	033-02	陶器 皿	高畠内V	下厚削面	15.6	4.6	高台径 5.8	内面:ロクロナデ+赤切V-點付け後ナデ 内面:ロクロナデ	やや密	疏	灰白 2.5Y 8/1	5/6	自然崩 底面大 内表面付 和多産
297	033-06	陶器 皿	高畠内V	厚土削面			高台径 5.5	内面:ロクロナデ+削V-L出台 内面:ロクロナデ	密	疏	青白 2.5Y 8/2 青白 5Y 8/1	高台部 完存	自然崩 底面大
298	030-04	ロクロ 土師器 皿	高畠内V	土師削面	16.0			内面:ロクロナデ+赤切V 内面:ロクロナデ	やや密(～4. 0mm の砂粒含)	疏	外表面: 灰白(～1. 5mm の砂粒含) 内面: 灰白(～2. 0mm の砂粒含)	1/5	
299	032-03	土師器 小皿	高畠内V	a2~3 SD285	8.2~8.8	1.35		内面:ナデ+コナデ 内面:ナデ+コナデ	やや密	非	浅黄褐色 7.5YR 8/3	完存	南伊勢
300	032-02	土師器 皿	高畠内V	a2~3 SD285	14.8	3.8		内面:ナデ+コナデ 内面:ナデ+コナデ	中空(～2. 0mm の砂粒含)	非	浅黄褐色 7.5YR 8/4 灰白 10YR 8/3	3/8	南伊勢
301	032-06	陶器 小皿	高畠内V	a2~3 SD285	8.4	2.0	底径 4.2	内面:ロクロナデ+赤切V 内面:ロクロナデ	密	疏	灰白 N 8/0	1/4	自然崩 知多産
302	033-05	陶器 皿	高畠内V	a2~3 SD285			高台径 4.8	内面:ロクロナデ+赤切V-點付け後ナデ	やや密	疏	灰白 N 8/0	高台部 台の三底? 知多産	
303	032-01	土師器 皿	高畠内V	a2~3 SD285	24.2			内面:黒土ナバ+ケメコナデ 内面:ナデ+オサニ+コナデ	やや密(～3. 0mm の砂粒含)	疏	灰白 10YR 8/2 灰白 7.5YR 5/3	1/8	外表面付 南伊勢
304	033-01	陶器 皿	高畠内V	n12 SD291	19.0			内面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	やや密(～3. 0mm の砂粒含)	疏	内表面: 青白 5P 3/1 内表面: 灰白 5YR 5/3	1/12	深米底

第14表 川島遺跡 出土遺物観察表(9)

番号	登録番号	器種	地区	出土位置 （地層）	計測値(cm)			調査（技法）の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
					口径	高さ	その他						
1	005-03	土師器 皿	II	b6D SK3 ③	6.3~6.6	1.55	内面：ナデ・オサエ・ヨコナデ 内面：ナデ・ヨコナデ	やや密	土	素燒 7.5YR 8/3 焼成 7YR 6/1	7/8	南伊勢	
2	005-02	土師器 皿	II	b6D SK3	6.6~6.7	1.15	内面：ナデ・オサエ・ヨコナデ 内面：ナデ・ヨコナデ	やや密(～1.0mm の砂粒含)	土	にじみ焼 7YR 7/3 焼成焼 7.5YR 8/3	7/8	南伊勢	
3	005-04	土師器 皿	II	b6D SK3	6.6	1.1	内面：ナデ・オサエ・ヨコナデ 内面：ナデ・ヨコナデ	密	土	焼成焼 7.5YR 8/4	1/3	南伊勢	
4	004-03	土師器 皿	II	b6D SK3 ②	6.6	1.9	内面：ナデ・オサエ・ヨコナデ 内面：ナデ・ヨコナデ	やや密	土	焼成焼 7.5YR 8/4	5/8	南伊勢	
5	004-04	土師器 皿	II	b6D SK3	11.0	1.8	内面：ナデ・オサエ・ヨコナデ 内面：ナデ・ヨコナデ	やや密	土	にじみ焼 7YR 7/4 焼成焼 7.5YR 8/3 灰斑 7YR 5/2	1/8	外縁埋付層 にじみ焼上・高花瓶？ 南伊勢	
6	005-01	土師器 皿	II	b6S SK3 ①	36.8		内面：ハケ・ケズリ・ヨコナデ 内面：ナデ・ケズリ・ヨコナデ	やや密	土	焼成焼 7.5YR 8/3 明治焼 7.5YR 7/1 にじみ焼 10YR 7/2	1/10	外縁埋付層 ハケ・ケズリ・ヨコナデ	
7	005-05	陶器 皿	II	b6T SD7	11.0	2.8	内面：ロウナデ・赤切口 内面：ロウナデ・赤切口	やや密	土	素地・底白 2.5Y 8/2 焼成 2.5Y 7/2	3/8	胎土 トランク 底白	
8	001-01	土師器 盤	I	b6D SK1 ①	37.6		内面：ハケ・ケズリ・ヨコナデ 内面：ナデ・ケズリ・ヨコナデ	やや密	土	様 SYR 4/6 にじみ焼 7SYR 3/4	1/2	外縁埋付層 にじみ焼上・高花瓶 南伊勢	
9	001-02	陶器 皿	I	b3 包含層	1.9~2.4		内面：ロウナデ・赤切口・粘付け 内面：ロウナデ	密	土	素地・底白 N 6/0 胎色・底 N 2/0		口縁小片 胎地(黒) 胎地(白)	
10	005-06	陶器 天日焼機	II	表土廻所	12.0		内面：ロウナデ 内面：ロウナデ	やや密	土	素地・底白 N 6/0 胎色・底 N 2/0	1/6	胎地(黒) 胎地(白)	
11	002-01	土師器 盤	II	b4S SK8	26.8	7.0	内面：ケズリ・ナデ・オサエ・ヨコナデ 内面：ナデ・オサエ・ヨコナデ	やや密(～2.0mm の砂粒含)	土	外縁にじみ焼 7SYR 7/4 内面：焼成焼 7.5YR 8/4	5/8	外縁埋付層 南伊勢	
12	004-02	土師器 盤	II	b4S SK8	23.8	9.0	焼成層 内面：ハケ・ケズリ・ヨコナデ 内面：ナデ・ヨコナデ	やや密(～2.0mm の砂粒含)	土	外縁にじみ焼 7.5YR 8/3 内面：素焼 10YR 8/3	3/8	外縁埋付層 ハケ・ケズリ・ヨコナデ 南伊勢	
13	004-01	土師器 盤	II	b4S SK8	36.2		内面：ハケ・ケズリ・ヨコナデ 内面：ナデ・ケズリ・ヨコナデ	やや密	土	底白 10YR 8/2 底灰 10YR 5/1 にじみ焼 7SYR 3/4	1/7	外縁埋付層 ハケ・ケズリ・ヨコナデ 南伊勢	
14	006-01	土師器 盤	II	b5D SK8	29.0	27.8	体積 内面：ハケ・ケズリ・ヨコナデ 内面：ナデ・ヨコナデ	やや密(～1.5mm の砂粒含)	土	にじみ焼 10YR 3/3 6/3 焼成焼 10YR 8/2	3/4	外縁埋付層 ハケ・ケズリ・ヨコナデ 南伊勢	
15	002-02	土師器 皿	I	b10 SK1 ④	27.0		内面：ハケ・ケズリ・ヨコナデ 内面：ナデ・ヨコナデ	密	土	外縁にじみ焼 7.5YR 5/3 内面：にじみ焼 10YR 7/2	3/8	外縁埋付層 ハケ・ケズリ・ヨコナデ 南伊勢	
16	004-02	土師器 皿	II	b6D SD4	20.6	7.9	内面：ハケ・ケズリ・ヨコナデ 内面：ナデ・ヨコナデ	やや密	土	にじみ焼 7YR 8/3 焼成焼 7.5YR 8/3 前縁 灰斑 N 3/0	1/3	外縁埋付層 ハケ・ケズリ・ヨコナデ 南伊勢	
17	003-01	土師器 皿	I	b3 SK2	27.2		内面：ハケ・ヨコナデ 内面：オサエ・ヨコナデ	やや密(～3.0mm の砂粒含)	土	外縁にじみ焼 7SYR 7/3 内面：にじみ焼 10YR 7/3	1/8	南伊勢	

第15表 魚見下起跡 出土遺物觀察表

#### 【遺物觀察表凡例】

遺物觀察表については、以下のような方法で表記した。

番 号：図版に対応する番号である。

登録番号：実測図対応番号である。

器 種：土師器・陶器などの別と、器種（甕・壺・皿など）を記した。

出土位置 構造：その遺物が出土した小地区、遺構名などを記した。

計測値：計測できる範囲で表記した。

調整（技法）の特徴：おおよそを表記した。

胎 土：密・やや密・やや粗・粗の4段階で表記した。

燒 成：良・並・不良の3段階で表記した。

色 調：『新版 標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編 9版 1989）を基準にしている。

残存度：特に示していないものについては、口縁部の残存状況を示す。数値で表せないものは「小片」

とした。石器などは言葉で記した。

# V 自然科学分析

三重県川島遺跡出土須恵器中の火葬骨

パリノ・サーヴェイ株式会社

金子 浩昌

## はじめに

川島遺跡（三重県松阪市川島町に所在）は、櫛田川下流域に広がる沖積低地（標高約2～3m）に立地する。今回発掘調査が行われた門前I地区では、表土の機械掘削時に焼骨が詰まった須恵器の壺が検出された。

今回の分析調査では、検出された須恵器に納められていた焼骨について骨同定を実施し、種類と部位、およびそれから推定される性別、年齢、体躯などに関する情報を得る。なお、同定および解析には、金子浩昌先生に協力を願いし、署名原稿として結果を頂いた。

## 1. 試料

試料は、古墳時代後期の須恵器内に充填していた焼けた人骨である。土塊中に細かな焼骨片が多数認められる状態で確認された。表土掘削中の出土であり、時期は古墳時代後期以降としか断定できない。

## 2. 分析方法

試料に付着した土壤を除去するため、水洗選別を行い、自然乾燥させる。試料を肉眼およびルーペで観察し、その形態的特徴から、種類および部位の特定を行う。

## 3. 結果

結果を、表16に示す。全て火葬された人骨である。以下、部位ごとに結果を示す。

### <頭骨>

破損が著しく、頭骨部位を確認できたのは、ごく一部の標本に限られる。縫合を残す骨片も少なく、僅かに頭頂骨と思われる破片があった。それにもみられた縫合は、若干不完全な状態であった。この縫合線の癒合状況からみて、年齢は30歳代の可能性が考えられる。また、下頬骨骨体破片が1点ほど認めら

れる。

### <椎骨>

第2頸椎（軸椎）の歯突起部が確認される。この他、椎体片が検出される。これら椎体片は、細かな破片となっているため、部位を特定できないものが多い。

### <肋骨>

いずれも破片となっているが、やや形状のわかる破片6点ほど認められる。

### <寛骨>

いずれも破片である。

### <大腿骨>

前面に、顕著でないにしき、付柱の形質が確認される。長骨の場合、年齢や個体差による変異が大きいが、男性では筋の付着部が粗雑であり、隆起や溝がより明瞭で全体としてゴツゴツした感を与えることが多いとされている（例えば、馬場編著、1998）。このことから、本人骨は男性の可能性が考えられる。

### <四肢骨>

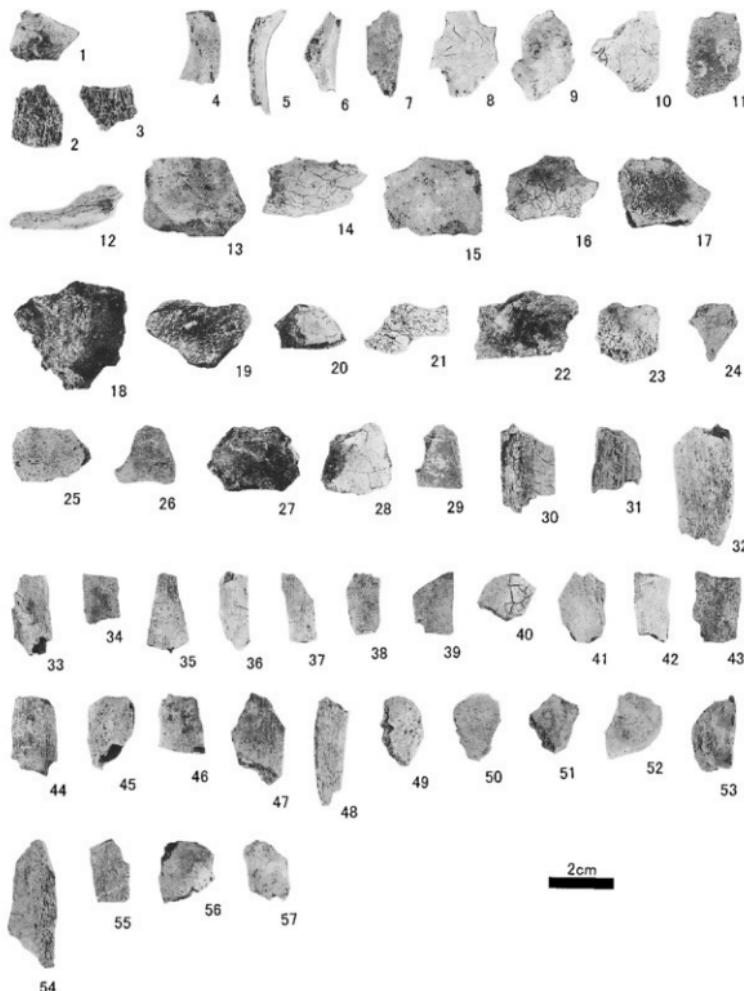
上腕骨、橈骨、尺骨、大腿骨、脛骨などの大型骨の骨片はみとめられたが、指骨などは検出できなかった。おそらく、緻密骨質が薄く破損したと考えられる。

## 4. 考察

本遺跡で検出された人骨は、須恵器の壺に入れられたために、ごく一部の骨が採取され、しかも小さい骨片が選ばれたようである。このため、人骨についての情報は限られていた。ただし、僅かに得られる情報を整理すると、30歳代の成人と考えられ、おそらく男性遺体の可能性がある。

なお、馬場ほか（1986）を参考にすると、人骨を焼いた際、600°C以下ではほとんど変化がなく、800°C付近では灰白色になり、収縮・硬化が見られ、歯のエナメル質が崩壊し歯冠が失われる等、最も激

出土人骨



1. 第2頸椎(軸椎)歯突起部  
8-11. 頭骨縫合部  
30,31. 大腿骨骨体付柱部

2,3. 椎骨椎体片  
12. 下顎骨片  
32-57. 四肢骨片

4-7. 肋骨片  
13-29. 頭骨片

しく変化するとされている。今回検出された人骨は、いずれも細片となっているが、灰白色から黒色を呈し、表面に細かなひび割れが生じ、変形、収縮していることから、800℃以上で火葬されたと考えられる。他の場所で火葬された人骨が須恵器壺内に納められ、埋葬されたのであろう。

#### 引用文献

- 馬場 悠男編著,1998,考古学と自然科学① 考古学と人類学,同成社,191p.  
 馬場悠男・茂原信生・阿部修二・江藤盛治,1986,根古屋遺跡出土の人骨・動物骨,靈山根古屋遺跡の研究 一福島県靈山町根古屋における再葬墓群ー,福島県靈山町教育委員会,93-113.

種類	部位	部分	数量	備考
ヒト	頭骨	縫合部	4	
	頭骨	破片	61+	
	下顎骨	破片	1	
	第2頸椎(軸椎)	歯突起部	1	
	椎骨	破片	14+	椎体・椎弓部等
	肋骨	破片	6	
	寛骨	破片	23+	
	大脛骨	骨体付柱部	2	
	四肢骨	破片	85+	
	不明	細片	多	頭骨・四肢骨等

第16表 門前Ⅰ地区の出土人骨同定結果

凡例) 数量において、数字の後の“+”表記は、他に微細片が含まれることを示す。

## VI 結語

今回の川島遺跡および魚見下起遺跡の調査では、主に中世の井戸や溝・土坑、近世の遺構などを確認した。また、出土遺物においては古墳時代～近世までのものが見られる。ここでは川島遺跡第1次調査<sup>⑤</sup>や周辺遺跡の調査結果などをふまえて今回の調査を検証し、まとめたい。

### 1 遺構のまとめ

#### (1) 古墳・古代

古墳時代・川島遺跡（1次調査も含む）では今のところ遺構は確認されておらず、出土遺物のみである。門前Ⅰ～V地区や奥垣内Ⅳ地区の包含層などから土師器高杯や壺、須恵器の杯や人骨の入った壺（中の骨は時期不明）などが見つかっている。そのほとんどが、ローリングを受けて土器の外側が劣化しているのに対し、門前Ⅲ地区で出土した古墳時代前期壺の土師器壺（73）は、外側調整などもわかるようなきれいな状態であった。当遺跡周辺が柳田川の亂流地帯であり、また古墳時代当時の海岸線が当地付近まで湾入していた可能性もある<sup>⑥</sup>ことから、73以外の当該遺物の状態も首肯できる。ただし73については、水運で運ばれてきたと考えるにはきれい

な状態であることから、門前Ⅲ地区以西（現集落下）に古墳時代の集落が存在する可能性が考えられる。

古代においては、1次調査で奈良時代（Ⅰ期<sup>⑦</sup>）の堅穴住居1棟と平安時代（Ⅱ期）の土坑や溝が検出されている。遺構は奥垣内Ⅱ地区を中心見られるが、それらは集落の中心というのではなく、散見されているにとどまる。それにしても、今回の調査における当該時期の遺物出土量に比べて、1次調査での出土量が多いことや、当遺跡の東方約1kmのところに所在する服部遺跡<sup>⑧</sup>から奈良・平安時代の掘立柱建物や多量の遺物が確認されていること、加えて東方900mのところに神服織機殿神社が鎮座していることからもこの時代の集落が川島遺跡の東側に拡がっていることが予想される。

#### (2) 中世

中世においては、今回の調査で検出した遺構の大半がこの時期のものである。広い範囲での線掘りの調査であったため遺跡の詳細は不明であるが、遺構密度の高いところとそうでないところがはっきりと出る結果となった。特に奥垣内Ⅳ地区的東部から門前Ⅰ地区の北部、加えて1次調査における奥垣内Ⅱ地区のほぼ全域（特に南部で密度が高い）にかけて、

南北に細長い微高地が存在し、そこに遺構が集中している状況が確認できた。この微高地は、奥垣内Ⅲ地区で検出されたSD95に伴う自然堤防である可能性が考えられる。

また、1次調査の塩角Ⅰ・Ⅱ地区、道場Ⅰ地区などにも遺構の集中する箇所が確認できるが、その間にある塩角Ⅳ地区では明確な遺構は検出できていない。この辺りにもおそらく柳田川に伴う自然堤防が存在するものと考えられるが、これらの遺構の検出状況から、集落が営まれていた微高地が細かく点在し、その間を何本もの流路が走っていた状況が想像できる。

遺構を詳細に見ていくと、1次調査で検出されたSD58の続きであると考えられるSD279からは、遺構の底付近から大量の南伊勢系鍋や羽釜・茶釜が出土しており、いずれも外面に煤が付着した使用済みのものであった。破片のみのものは少なく、ほとんどがほぼ完形に復元できるような状況で何個体も折り重なって出土している。のことから、集落が近くに存在し、何らかの理由で煮炊用土器を一括廃棄したものと考えられる。

また、今回井戸を2基検出している。鎌倉期のSE237と室町期のSE241がそれである。SE241が不確定ではあるが、いずれも石組井戸であると考えている。1次調査では、道場Ⅰ地区で室町期の井戸を4基検出しており、そのうち3基は底に曲物が確認され、もう1基は素掘りの井戸として報告されている。松阪市では中世の井戸の検出例が多いが、遺跡によって石組が主体となるところと、木組あるいは素掘りが主体となるところがある<sup>⑤</sup>。例えば柳田川中流域の古川遺跡<sup>⑥</sup>や横地高畠遺跡<sup>⑦</sup>、山添遺跡<sup>⑧</sup>では石組井戸が主体であるが、それに対して

下流域に属する堀町遺跡<sup>⑨</sup>では石組の井戸は見られない。そのような中で、川島遺跡ではいずれの形態の井戸も出てきており非常に興味深い事例であるといえる。

## 2 中世の遺物について

### (1) 墨書き土器について

今回の調査では、墨書きが施されている陶器の皿や椀が数点見つかっている。その中でリボンのような形をした墨書きが何点かあったため、この「図」の記号が施されているものについて、何らかの特徴が見出せないか整理をしてみた。それが第17表である。この表での数量は当報告書内で図示できたものに限られる。なお、整理段階で墨書きを確認した土器については全点を抽出し報告している。

「図」が記された土器は、「図」や「図」も含めると全部で7点ある。絶墨書き土器数は少ないがその中の7割を占める。また、いずれも藤澤編年<sup>⑩</sup>の6型式に相当し、産地も知多産のものに限られる。出土地区を詳細に見ていくと、門前Ⅰ地区の遺構が集中していた北側で5点、奥垣内Ⅴ地区から2点出土している。これは先述した一つの遺構密集地に当たる。川島遺跡周辺にこのような小さな遺構密集地が点在しており、それぞれ小部落を形成していると考えれば、今回の「図」の墨書きは、一旦どこかに集積された知多産の陶器供膳具を、ある一定の地域に配分するために目印として記した可能性が考えられる。

奥垣内Ⅲ地区（1次調査）で出土した2つの尾張産の陶器椀には、いずれも「図」の墨書きが見られるが、今回の調査では同様のものは見つかっていない。「図」が出土している調査区と、距離的に200m弱しか離れていないにもかかわらずこのような違いが見

種類	器種	産地	数量	墨書きなし	墨書きあり	備考
陶器	小皿	渥美	4	3	1	
		尾張	7	4	3	「図」:2 「図」:1
	小椀	渥美	2	2	0	
		尾張	2	1	1	「○」
	椀	渥美	16	15	1	
		尾張	25	21	4	「図」:3 「図」:1

第17表 陶器供膳具産地別集計表

られることから、「#」の記号も地域的な意味合いを持つ可能性が考えられる。

それでは、これらの墨書がどの時点で記されたのか、集積地とはどこなのかという問題が残る。もし、墨書が当地に運ばれてきた以後に記されたとするとき、産地によって違いが出るとは考えにくい。第17表でも明らかなように、「団」の記号は知多産のものだけに施されていることから、少なくとも当地に運ばれてくる以前に墨書がなされたと考えるのが自然であろう。集積地に関しては、津市に所在する安濃津の調査報告の中で、生産地から送られてきた商品を安濃津などの港町に一度集積し、それを選別して拡散するという流れが示されている<sup>⑨</sup>。その第一次集積地と消費地の間に二次的な集積地の存在も考えられ、同じく津市に所在する里前遺跡などがそれに当たる可能性があると考えられている<sup>⑩</sup>。今回調査した川島遺跡は、里前遺跡と同様川岸の荷揚げの便の良い場所に立地しており、そういう意味では二次的な集積地と考えることもできよう。ただし、今回出土した陶器供膳具の絶対量が圧倒的に少ないため、可能性を提示するに留めざるをえない。今後の調査と資料の充実を待ちたい。

## (2) 土器類に残る煤の痕跡から

門前IV地区のSK258から出土した南伊勢系の小形の鍋（102）には、五徳の使用を想像させるような形で煤が付着している（図版20）。詳細に煤の付着状況を観察すると、底部外面の3点を除いたほぼ全域が真っ黒になっており、この部分に直接火が当たっていたことが窺える。また体部下半から体部最大径部付近にかけては、先述の3点から延長する部分を除いてやや褐色系の煤が付着しているが、底部に比べると弱い。頭部から肩部にかけては煤の付着が見られず、口縁部外面になるとまた黒い煤が確認できる。この煤の付着状況から、おそらく圍炉裏などの火所に五徳を逆さまに設置し、そこに鍋を置いて煮炊を行ったものと考えられる。このときの火の当たり具合から、図版20に見られるような特徴的な煤の模様が描き出されたものであろう。

今回の調査で出土した他の鍋にはこのような痕跡は無く、煤が付着しているものについては、真っ黒な煤がほぼ外面全域に付いている。また五徳の出土

も確認されておらず、何故102だけにこのような痕跡が見られるのかなど、実際には不明な点が多い。しかし、このような例が今回の調査で確認されたことは、今後鍋の使用方法を考えていく上での貴重な資料となることは言うまでも無く、このような資料の増加が期待される。

## 【註・参考文献】

- ① 小濱 学・小林俊之 「『川島遺跡群（第1次）発掘調査報告』」（三重県埋蔵文化財センター 2002年）
- ② 稲積裕昌 「伊勢湾西岸域における古墳時代港津の成立」（『同志社大学考古学シリーズⅢ 考古学に学ぶ（II）』 同志社大学考古学シリーズ刊行会 2003年）
- ③ 小濱 学 「2 遺構の変遷について」（『川島遺跡群（第1次）発掘調査報告』 三重県埋蔵文化財センター 2002年）
- ④ 福村直人 「服部遺跡」（『昭和57年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』 三重県教育委員会 1983年）
- ⑤ 水谷 豊 「石組井戸と木組井戸—三重県内の資料から見たその使い分けー」（『研究紀要』第8号 三重県埋蔵文化財センター 1999年）
- ⑥ 伊藤裕之 「古川遺跡・山口遺跡発掘調査報告」（三重県埋蔵文化財センター 1996年）
- ⑦ 中川 明 「横地高畠遺跡発掘調査報告」（三重県埋蔵文化財センター 1998年）
- ⑧ 新田 洋 「山添遺跡発掘調査報告」（三重県教育委員会 1979年）
- ⑨ 小濱 学 「堀町遺跡発掘調査報告」（三重県埋蔵文化財センター 2000年）
- ⑩ 藤澤良祐 「山茶碗研究の現状と課題」（『研究紀要』第3号 三重県埋蔵文化財センター 1994年）
- ⑪ 伊藤裕偉 「2 陶器類から見た安濃津の物資集積と拡散」（『安濃津』 三重県埋蔵文化財センター 1997年）  
伊藤裕偉 「中世における集散地遺跡の分析」（『月刊考古学ジャーナル』 No.478 2001年）
- ⑫ 川崎志乃 「一般国道23号中勢道路（10工区）建設事業に伴う里前遺跡発掘調査報告」（三重県埋蔵文化財センター 2002年）

# 写 真 図 版





門前 I 地区 調査前風景（南から）



門前 I 地区 調査区全景（北から）

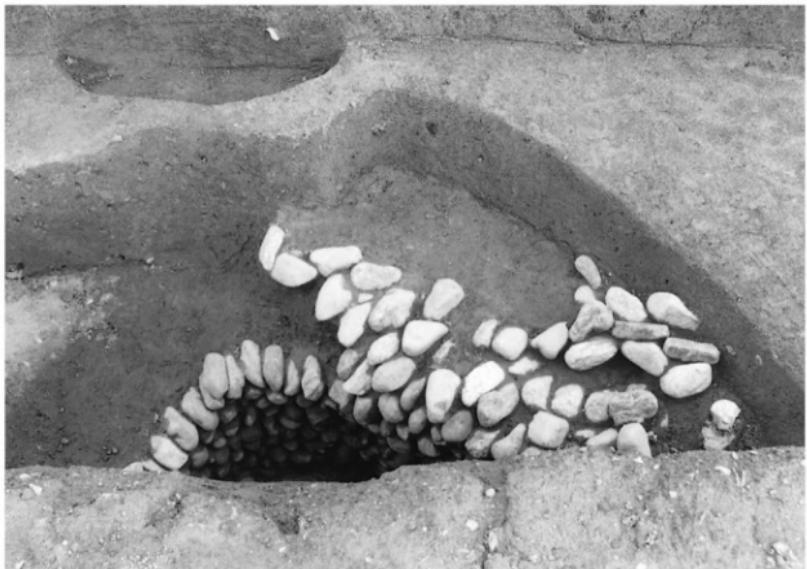
図版2  
川島遺跡



門前I地区 南側調査区全景（南から）



門前I地区 S E 241（東から）



門前 I 地区 SE 237 (西から)



門前 I 地区 SE 237 近景 (西から)

図版4  
川島遺跡



門前II地区 調査前風景（北から）



門前II地区 調査区全景（北から）



門前Ⅲ地区 調査前風景（北から）



門前Ⅲ地区 調査区全景（北から）

図版 6  
川島遺跡



門前Ⅲ地区 d3 p i t 1 出土状況（西から）



門前ⅣA地区 調査区全景（西から）



門前IV B 地区 調査区全景（西から）



門前V地区 調査前風景（東から）

図版8  
川島遺跡



門前V地区 調査区全景（東から）



門前VII地区 調査前風景（南から）



門前VII地区 調査区全景（東から）



門前VII地区 北側調査区全景（西から）

図版10  
川島遺跡



塩角IV地区 調査前風景（南から）



塩角IV地区 調査区全景（北から）



塩角IV地区 南側調査区全景（南から）



塩角IV地区 西側調査区全景（東から）

図版12  
川島遺跡



奥垣内V地区 調査前風景（東から）



奥垣内V地区 調査区全景（東から）



奥垣内V地区 SD279 出土状況（東から）



奥垣内VI地区 調査前風景（南から）



奥垣内VI地区 調査区全景（西から）



奥垣内VI地区 調査区全景（南から）



I 地区 調査前風景（北から）



I 地区 調査区全景（北から）

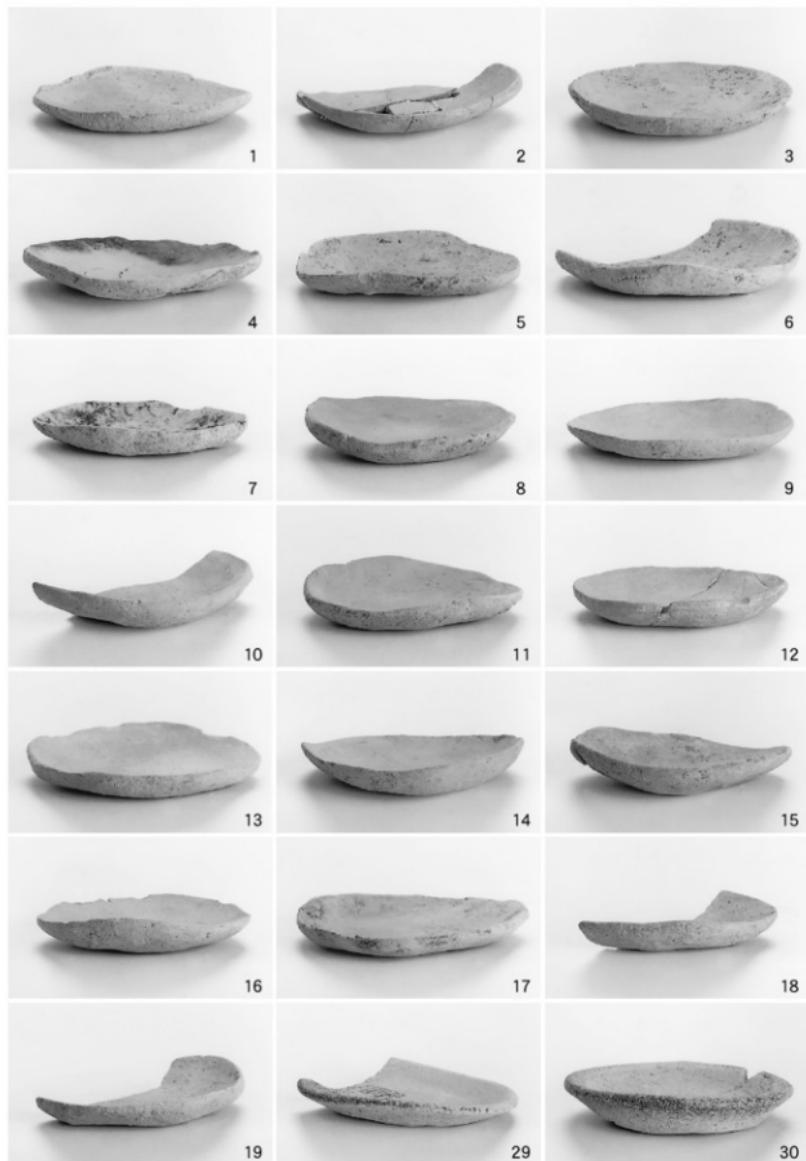
図版16  
魚見下起遺跡



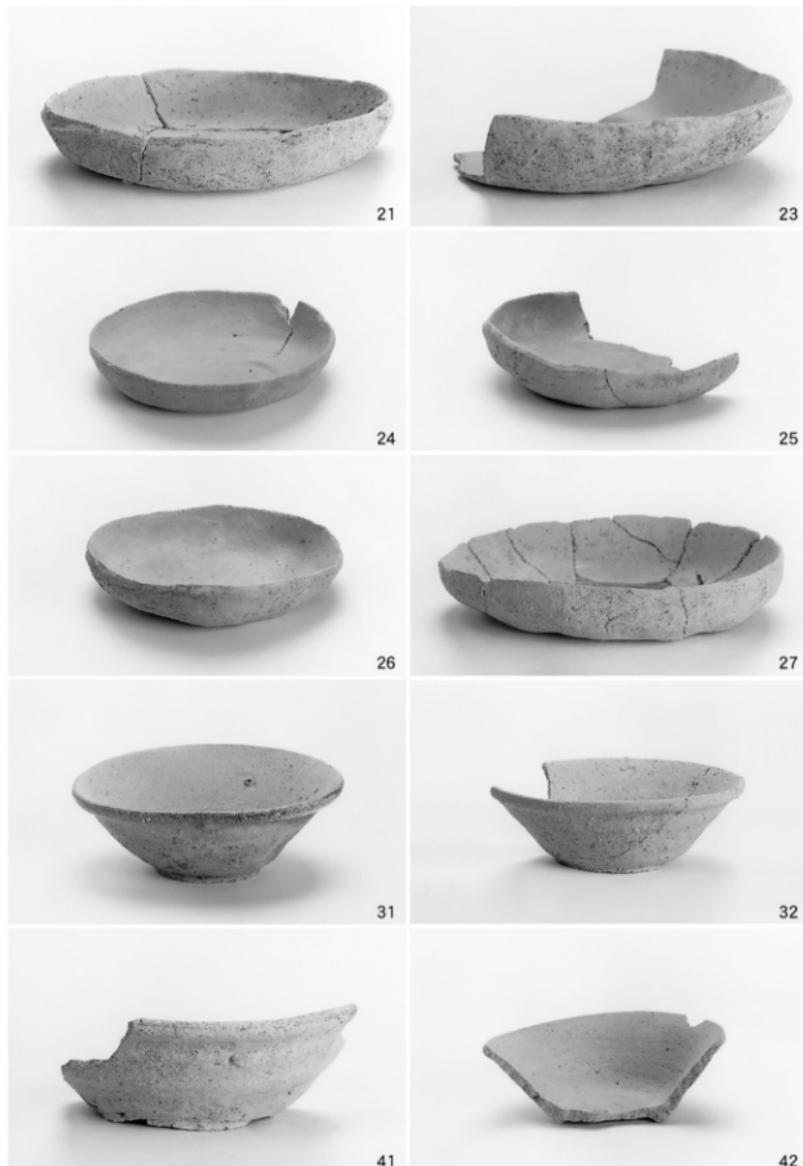
II地区 調査前風景（北から）



II地区 調査区全景（南から）



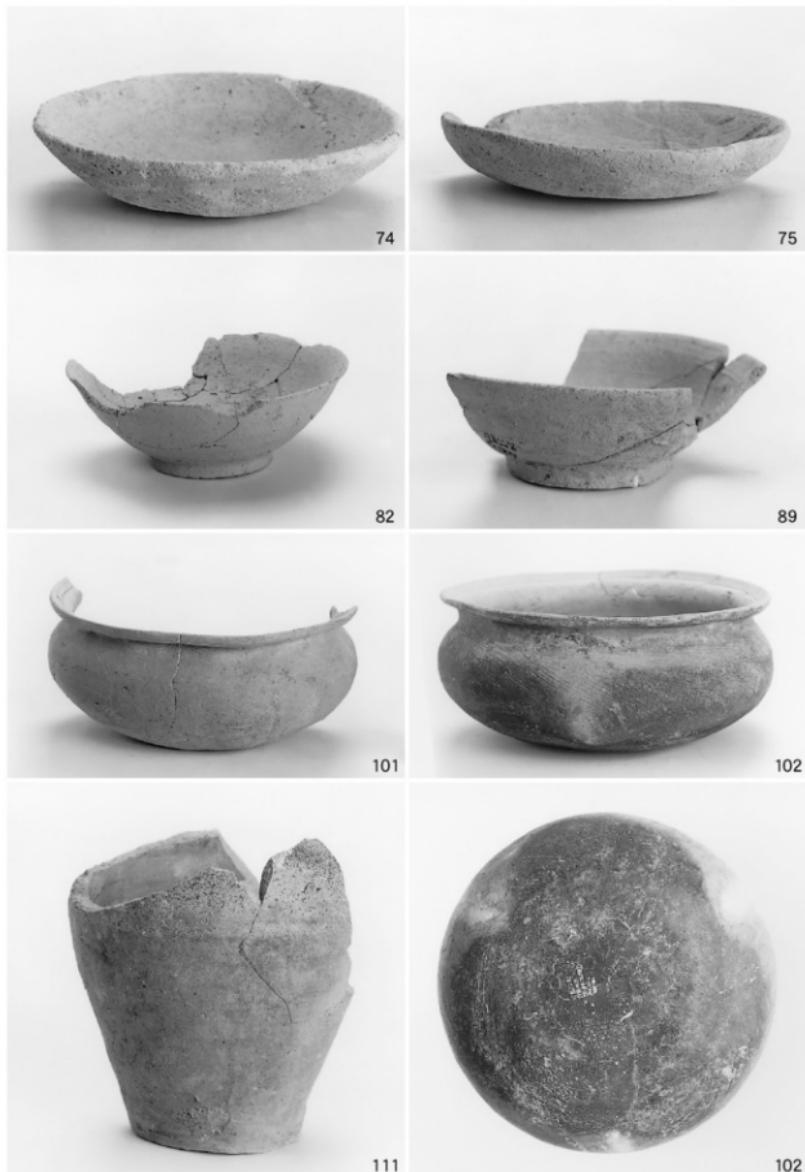
出土遺物①



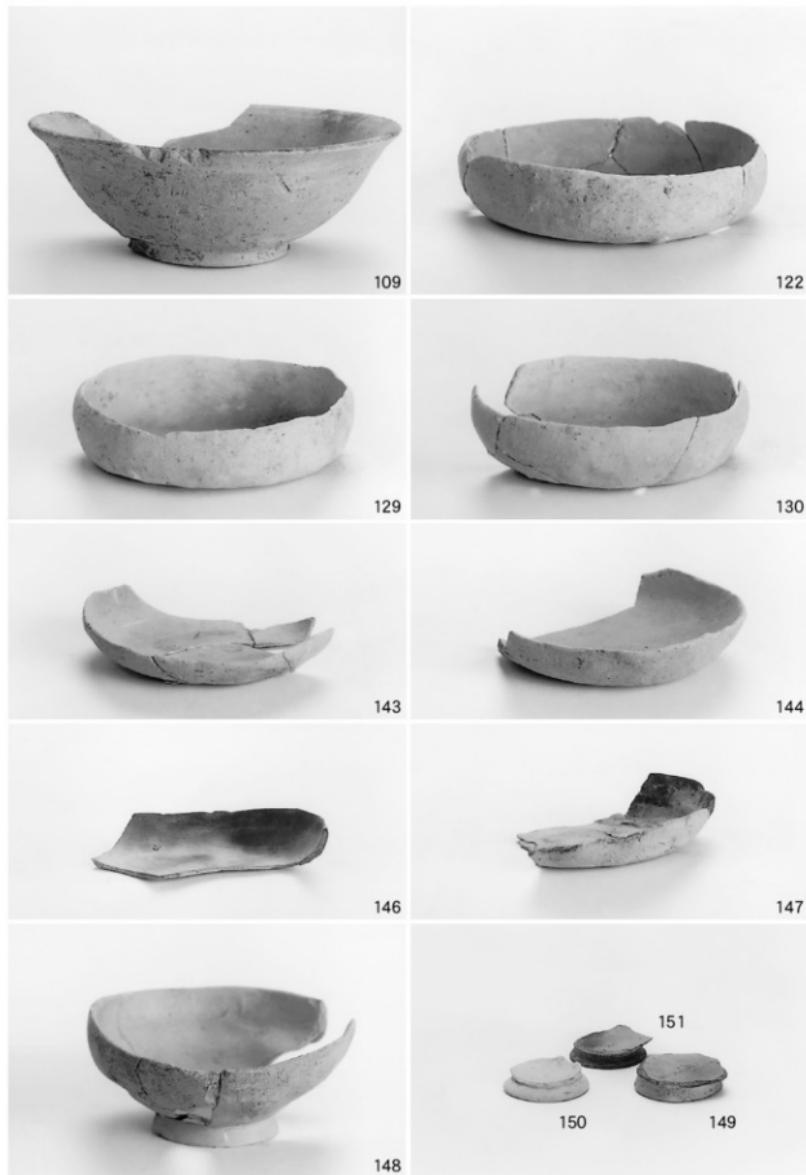
出土遺物②



出土遺物③

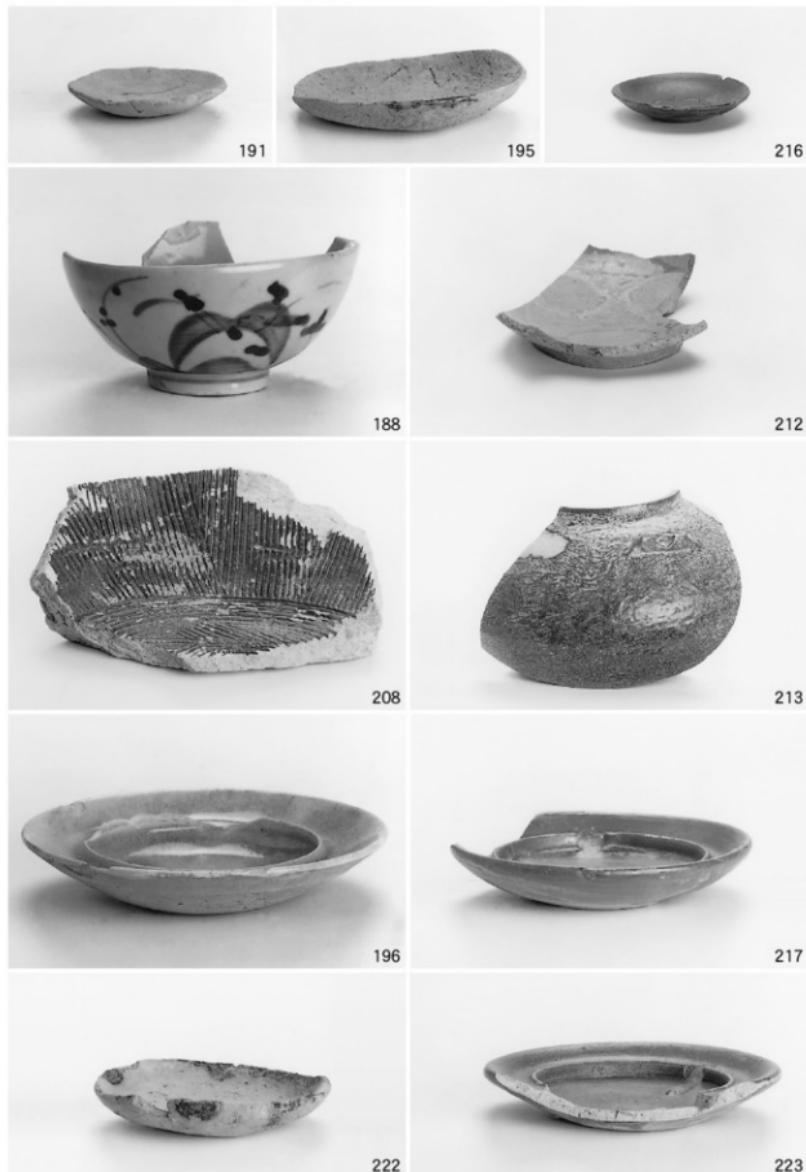


出土遺物④

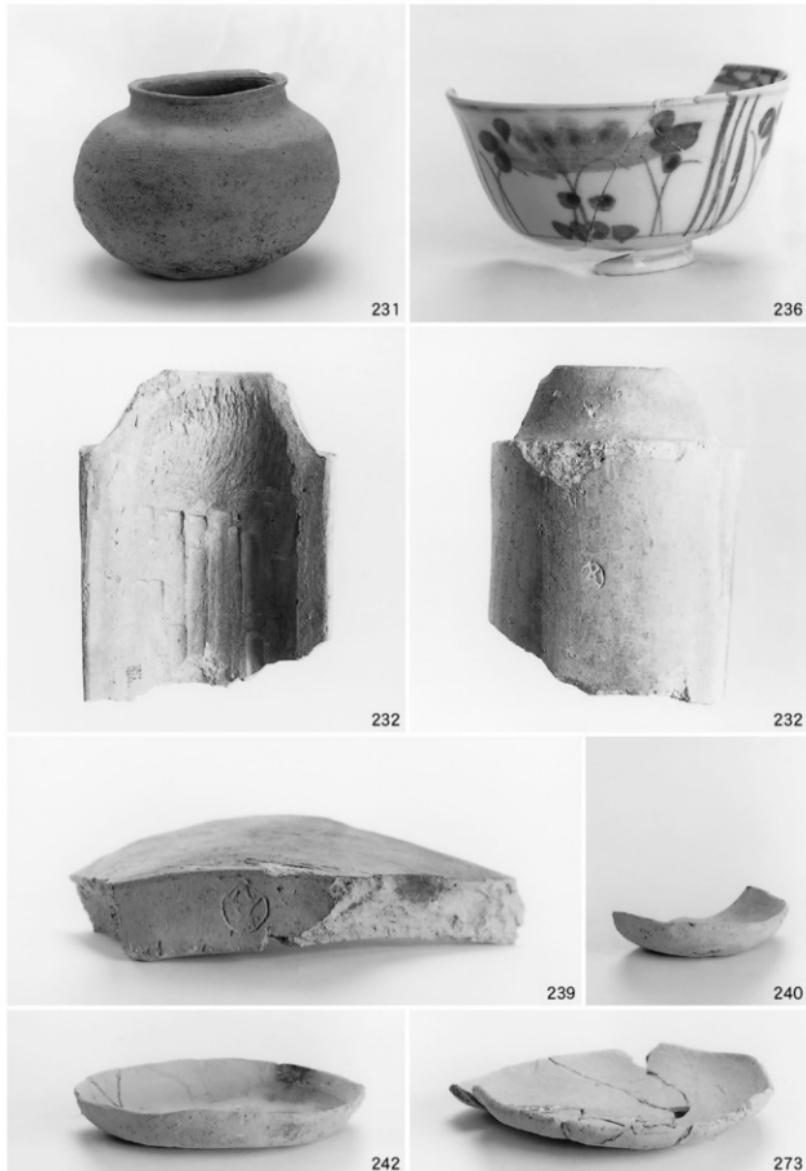


出土遺物⑤

図版22  
川島遺跡



出土遺物⑥



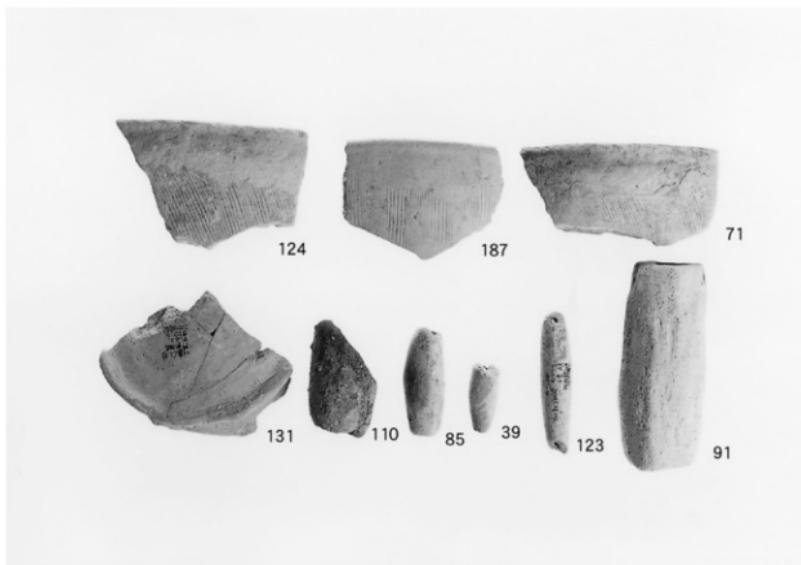
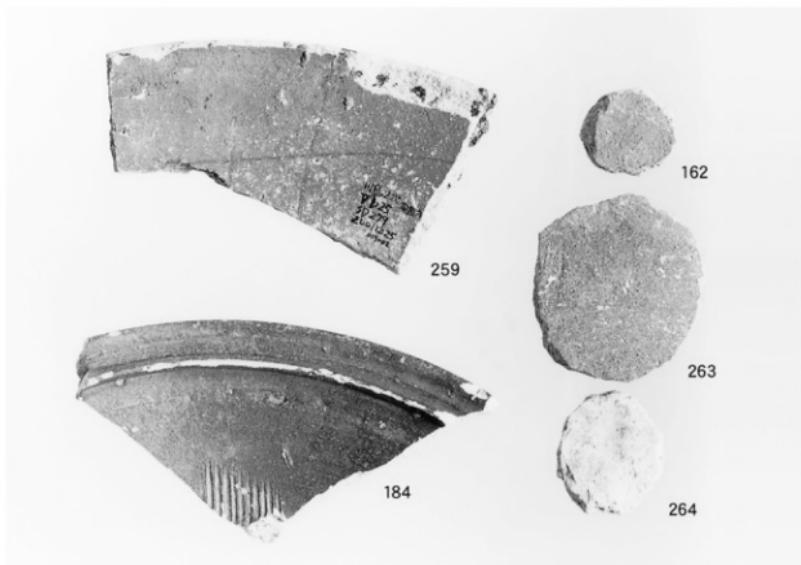
出土遺物⑦



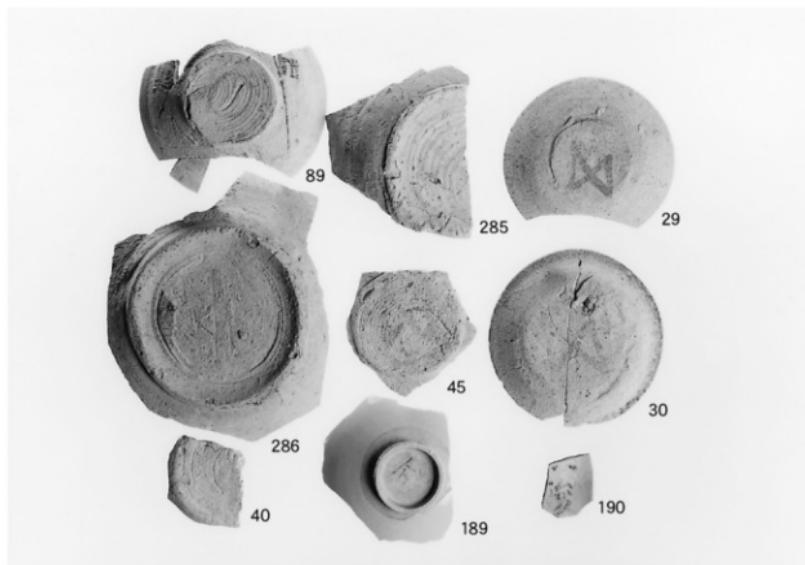
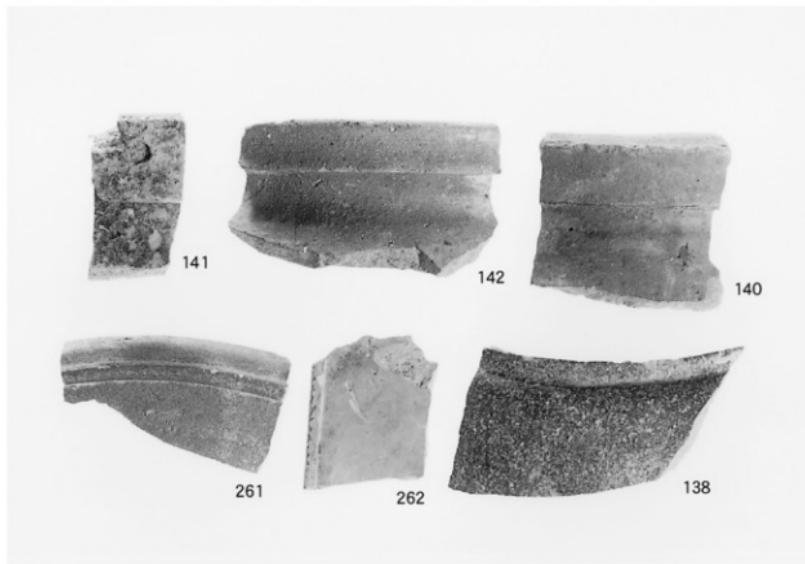
出土遺物⑧



出土遺物⑨



出土遺物⑩



出土遺物⑪

圖版28  
魚見下起遺跡



出土遺物⑫

## 報 告 書 抄 錄

ふりがな		かねしまいせき(だい2じ)ほかはつくつちょうさほうこく						
書名		川島遺跡(第2次)ほか発掘調査報告						
副書名		川島遺跡 東久保北浦遺跡 魚見下起遺跡						
卷次								
シリーズ名		三重県埋蔵文化財調査報告						
シリーズ番号		250						
編著者名		柴山圭子						
編集機関		三重県埋蔵文化財センター						
所在地		〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503 TEL 0596-52-1732						
発行年月日		2004(平成16)年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ○○○	東経 ○○○	調査期間	調査面積m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
川島遺跡 東久保北浦遺跡 魚見下起遺跡	松阪市 川島町・ 東久保町・ 魚見町	204 835 837	834 835 付近	34° 34' 40" 付近	35' 55" 付近	20010702 ～ 20020304	4,100	平成13年度県営ほ場整備事業(機殿下地区) 平成13年度東濃部早馬瀬線道路整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
川島遺跡	集落跡	中世	土坑・溝など	土師器 陶器 須恵器など				
魚見下起遺跡	集落跡	中世	土坑・溝など					
東久保北浦遺跡								



---

---

三重県埋蔵文化財調査報告 250

川島遺跡（第2次）ほか発掘調査報告

川島遺跡 東久保北浦遺跡 魚見下起遺跡

～三重県松阪市川島町ほか所在～

2004(平成16)年3月

編集・発行 三重県埋蔵文化財センター

印 刷 (有)山文印刷

---